

区支え合いのまち推進計画の
平成30年度の推進状況
～地域の取組み（共助の取組み）～

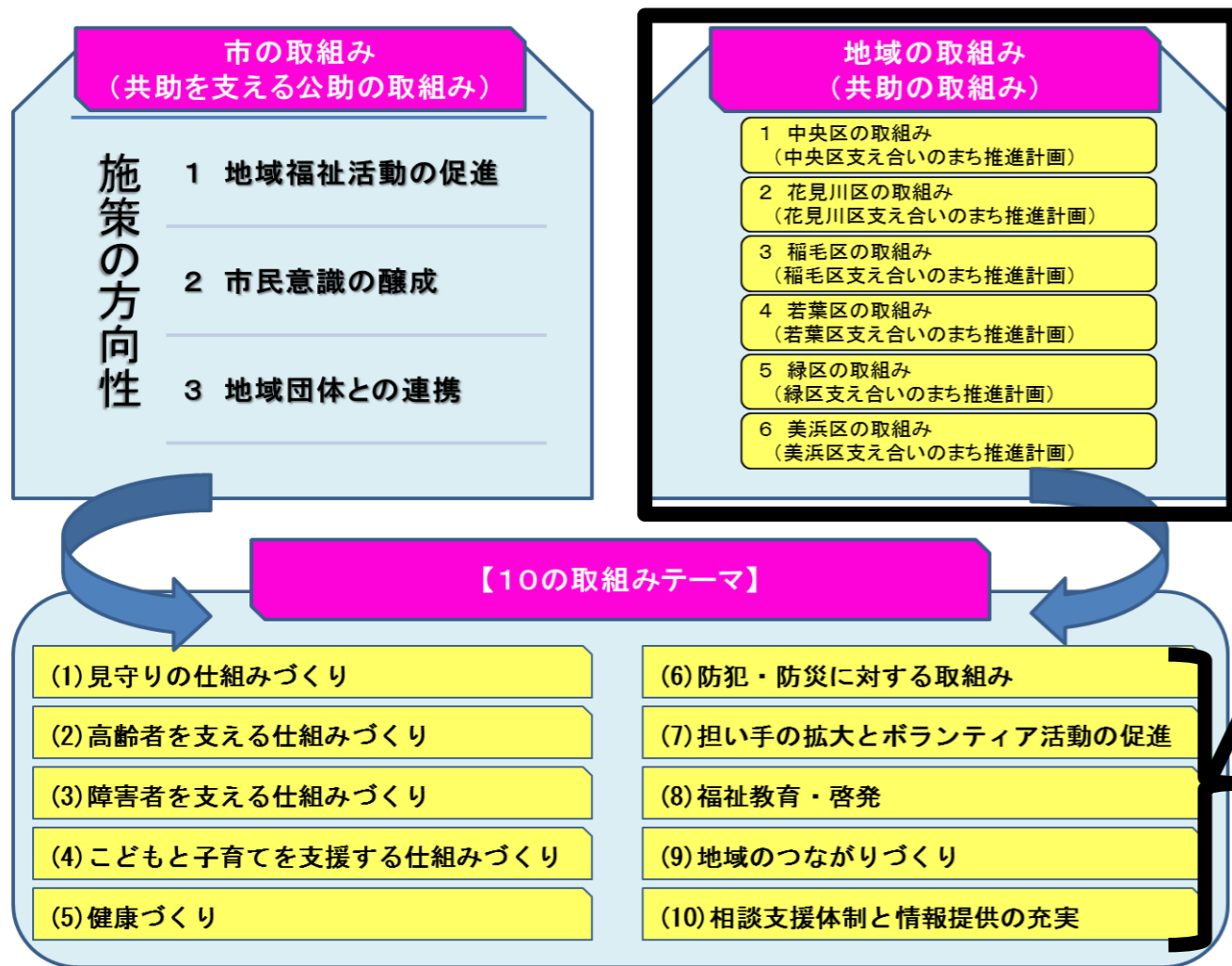
千葉市保健福祉局地域福祉課

～この資料の見方について～

本計画では、地域福祉を推進する活動主体により、取組みの体系を「地域の取組み(共助の取組み)」と、「市の取組み(公助の取組み)」に区分しています。地域住民等が主体となって実施した「地域の取組み(共助の取組み)」は、「第4期支え合いのまち千葉 推進計画」第5章(P46～)に掲載しており、「区支え合いのまち推進計画(区計画)」として位置づけられています。

本資料は、区ごとに各地区部会エリアの重点取組項目を、10の「取組みテーマ」に分類し、平成30年度の「実績」、「達成状況」を集計、記載しています。また、各地域の参考となるよう、各区で実践された事例も紹介しています。

施策の体系図



進捗状況の総括

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

◆取組みテーマ別達成状況		達成状況		主な取組内容
取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況		
1 見守りの仕組みづくり	12	S	1	見守り活動は、重点取組地区12地区のうち、8地区で実施(中央区全体として13地区で実施)。また、1地区では見守り活動を客発する取組を行い、1地区では見守り活動の必要性について住民アンケートの実施を検討した。なお、2地区では民生委員が見守りを行っているが、見守り体制づくりについて検討した。
		A	8	
		B	2	
2 高齢者を支える仕組みづくり	18	S	2	いきいきサロンは、重点取組地区9地区で延466回(実施地区14地区で延672回)実施した。また、散歩クラブ、シニアリーダー体操、グラウンドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施し、高齢者の交流や健康維持を図った。
		A	15	
		B	1	

各地区部会エリアの取組み項目について、達成状況を記載しています。
【達成状況の目安】
S: 目標を上回った
A: 概ね目標を達成した(8～10割)
B: 一部目標を達成した(5～7割)
C: 大きく目標を下回った(～4割)

各地区部会エリアの重点取組項目数の合計。(複数テーマにまたがる重点取組項目の場合は、複数回カウントしています。)

進捗状況の詳細

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
都地区部会エリア 【人口・世帯数】 9,243人、4,623世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 24.4% 【地域の特徴】 ○都町、都町1～3丁目を対象としたエリア。千葉市の政令都市移行に伴い、前組織の都加曾利地区部会が、中央区の都町と若葉区の加曾利町に行政区が分かれたことに伴い、分離分割し設立に至った。	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。 また、遅れている町内自治会へも推進を促す。	既に実施している2町内自治会の内、1町内自治会で対象者の再調査と協力員の再募集を行い、見守り体制の強化を図った。 都地区を4ブロックに分け、各ブロックで月3回程度、防犯・パトロールを行っており、見守りに類似した活動を行っている。 また、平成30年10月より、1町内自治会が、民生委員、社協及び社会福祉法人と協働して、月2回、独居高齢者に対する買い物支援を開始しており、見守りにも役立っている。 なお、地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対する働きかけも、継続して実施している。	A	
		2	いきいきサロンクラブとして平成25年7月から始めている。通称は健康体操や健康体操、手芸等、音楽月は、グラウンドゴルフを継続して実施し、定期的な活動を通して、高齢者の間にも防止や仲間づくりを図る。	地区部会が、月1回、65歳以上の高齢者を対象に、健康体操やグラウンドゴルフ、手芸等を内容とした、いきいきサロンを実施し、高齢者の間にも防止や仲間づくりを図る。 また、地区部会が、70歳以上のひとり暮らし高齢者を訪問し、千葉市指定ゴミ袋を配布する年末慰問の際、いきいきサロンの案内を併せて配布した結果、参加者が増加している。	A	担い手が不足している。 公民館等、利用しやすい活動がない。 安定した事業運営のため、担い手や活動拠点を確保していく必要がある。

地区部会エリアの概要

区が定める取組みテーマ番号

市が定める取組みテーマ番号

目次

1. 中央区 … 1ページ
2. 花見川区 … 17ページ
3. 稲毛区 … 23ページ
4. 若葉区 … 33ページ
5. 緑区 … 43ページ
6. 美浜区 … 49ページ

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 A:概ね目標を達成した。(8~10割) B:一部目標を達成した。(5~7割) C:大きく目標を下回った。(~4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	12	S 1 A 8 B 2 C 1	・見守り活動は、重点取組地区12地区のうち、8地区で実施(中央区全体としては13地区で実施)。また、1地区では見守り活動を啓発する取り組みを行い、1地区では見守り活動の必要性について住民アンケートの実施を検討した。なお、2地区では民生委員が見守りを行っているが、見守り体制づくりについて検討した。
2 高齢者を支える仕組みづくり	18	S 2 A 15 B C 1	・いきいきサロンは、重点取組地区9地区で延466回(実施地区14地区で延672回)実施した。また、散歩クラブ、シニアリーダー体操、グランドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施し、高齢者の交流や健康維持を図った。
3 障害者を支える仕組みづくり	4	S A 4 B C	・地域行事での障がい者施設の物品販売への協力、障がい者施設での作業補助や行事の手伝い、障がい者理解のための勉強会の実施等、障がい者の理解や住民との交流の機会を設ける取り組みは、重点取組地区4地区(実施地区16地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施した。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	15	S 2 A 13 B C	・セーフティウォッチャー等、子ども達の安全を見守る取組は重点取組地区6地区(実施地区17地区)で実施。また、子ども向けの地域行事や放課後子ども教室等、子ども達との交流を図る取組は重点取組地区2地区(実施地区17地区)で実施。子育てサロンは重点取組地区7地区で延べ141回(実施地区16地区で延べ243回)実施し、子ども達の健全育成を図った。
5 健康づくり	8	S 1 A 6 B C 1	・散歩クラブ、シニアリーダー体操、グランドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施し、高齢者の交流や健康維持を図った。
6 防犯・防災に対する取組み	27	S 2 A 18 B 7 C	・避難所運営委員会は重点8地区(実施17地区)で実施。子ども達の安全を見守る取組は重点6地区(実施17地区)で実施。3期計画当初に作成した「ふくし・防災ガイドマップ」により重点2地区(実施17地区)で情報提供を行っている。防犯の取組は重点5地区(実施17地区)で実施。防災訓練は重点6地区(実施17地区)で実施した。
7 担い手の拡大とボランティアの促進	7	S A 6 B 1 C	・高齢者等の日常生活のちょっとした困りごと等をお手伝いする助け合い活動については、重点取組地区3地区(実施地区8地区)で実施した。また、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への参加促進を図る講座等については、重点取組地区4地区(実施地区15地区)で実施し、担い手の拡大に努めた。
8 福祉教育・啓発	12	S A 11 B 1 C	・子ども向けの地域行事等を通じて交流を図る取組は重点2地区(実施17地区)で実施した。障がい者と住民との交流の機会を設ける取り組みは重点3地区(実施16地区)で実施した。住民の福祉力向上のための講座は重点4地区(実施15地区)で実施した。児童に対する福祉教育は重点3地区(実施16地区)で実施した。
9 地域のつながりづくり	14	S A 13 B 1 C	・重点7地区で地域運営委員会や地域ケア会議等を通じて地域課題の解決に向け協議した。(区内の地域運営委員会は5地区)。高齢者等の日常生活のちょっとした困りごと等をお手伝いする助け合い活動は、重点3地区(実施8地区)で取り組んだ。地域行事等を通じて住民同士の交流を図る取り組みは重点4地区(実施17地区)で実施した。
10 相談支援体制と情報提供の充実	12	S A 10 B 2 C	・重点7地区で地域運営委員会や地域ケア会議等を通じて地域課題の解決に向け協議した(区内の地域運営委員会は5地区)。重点3地区で相談支援の環境づくりに取り組んだ。重点2地区を含む全地区部会で広報紙を発行し福祉情報の提供を行った。
今年度の振り返り	129	S 8 A 104 B 14 C 3	・目標に対する達成状況について、(A)以上の割合が8割を超えているため、概ね順調に推進することができた。

今後の課題と方針	・安定した事業運営のため、担い手の確保、活動資金の確保、関係団体との連携、活動拠点が必要である。
----------	--

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日		主な議題等
平成30年度	第1回 平成30年 7月17日(火)	・委員長・副委員長の選任について ・幹事会委員の選出について ・「中央区支え合いのまち推進計画」の平成29年度推進状況について ・支え合いのまち千葉 推進計画(第4期千葉市地域福祉計画)策定について
	第2回 平成30年 12月5日(水)	・区支えあいのまち推進計画実施状況調査に係る提出調書の変更について ・地域支え合い活動の推進について 白旗台地区部会における取組について 各地区部会における取組について(グループ別協議)
	第3回 平成31年 3月22日(金)	・地区部会エリアにおける取組状況及び年度評価について ・「区の地域福祉に関する好事例等」の提出について ・地域共生社会の実現に向けた地域における取り組みのPR映像の作成について

◆区の地域福祉に関する好事例等

<p>新たな社会資源の創出に向けた取組み</p> <p>社会福祉協議会白旗台地区部会が、同協議会中央区事務所によるボランティアコーディネートに係る支援を受け、買物やゴミ出し等の支援を行う、地域支え合い活動(白旗台地区部会助け合いの会(きずな隊)活動)を開始した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事業開始 平成30年7月(事業開始の回覧資料を各町内自治会に配付) 2 支援協力者 273名 3 支援内容 <ul style="list-style-type: none"> ・買物 ・ゴミ出し ・電球交換 ・庭の草取り 4 活動実績 15件、活動回数47回(平成31年3月まで) 5 2年目の取り組み予定 <ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員、町内自治会長、福祉活動推進員等が継続的に地域での声掛けを行うなどして、支援を必要とする人が、気軽に声を上げることができる仕組みを整える。 ・あんしんケアセンター等関係機関に働きかけるとともに、地区部会の広報誌に関連記事を掲載し、事業の周知を図る。 ・支援協力者会議の充実開催や支援希望者の声を聴く会を設け、支援内容の充実を図る。 ・より広い利用希望に応えるため、対象事業を拡大することを検討する。
--

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
都地区部会エリア						
【人口・世帯数】 9,243人、4,623世帯	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。 また、遅れている町内自治会へも推進を促す。	既に実施している2町内自治会の内、1町内自治会で対象者の再調査と協力員の再募集を行い、見守り体制の強化を図った。 都地区を4ブロックに分け、各ブロックで月3回程度、防犯パトロールを行っており、見守りに類似した活動を行っている。 また、平成30年10月より、1町内自治会が、民生委員、社協及び社会福祉法人と協働して、月2回、独居高齢者に対する買い物支援を開始しており、見守りにも役立っている。 なお、地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対する働きかけも、継続して実施している。	A	
【町内自治会数】 10町内自治会						
【高齢化率】 24.4%						
【地域の特徴】 ○都町、都町1~3丁目を対象としたエリア。千葉市の政令都市移行に伴い、前組織の都加曾利地区部会が、中央区の都町と若葉区の加曾利町に行政区が分かれたことに伴い、分離分割し設立に至った。						
⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	いきいきサロン都クラブとして平成25年7月から始めている。遇数月は健康麻雀や健康体操、手芸等、奇数月は、グランドゴルフを継続して実施し、定期的な活動を通して、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりを図る。	地区部会が、月1回、65歳以上の高齢者を対象に、健康体操やグランドゴルフ、手芸等を内容とした、いきいきサロンを実施し、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりに取り組んだ。 また、地区部会が、70歳以上のひとり暮らし高齢者を訪問し、千葉市指定ゴミ袋を配布する歳末慰問の際、いきいきサロンの案内を併せて配布した結果、参加者が増加してきている。	A	担い手が不足している。 公民館等、利用しやすい活動拠がない。 安定した事業運営のため、担い手や活動拠点を確保していく必要がある。	
⑨ 子育てサロンの充実	4	月に1度、育児サークルとして「いちごみるく」を開催し、乳幼児から就学前の子どもを持つ母親の情報交換の場を提供し、子育て親子の仲間づくりを図る。	地区部会が、月1回、子育て中の親子を対象に、親同士の情報交換や育児相談、絵本読み聞かせ等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A		
⑬ 障がい者の地域社会での福祉活動の促進	3	障がい者施設での作業補助等を通じて、障がい者との交流を図る。 また、障がい者が地域で福祉活動を行う機会を提供し、障がい者の社会参加の促進を図る。	町内自治会婦人部が、障害者支援施設「しいのみ園」を利用して子ども達と一緒に、第一土曜日の午前中に、公園の清掃を行っている。 障害者支援施設「しいのみ園」で栽培した野菜を、地域の盆踊りで販売している。	A		
末広地区部会エリア						
【人口・世帯数】 12,681人、6,787世帯	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	災害時に、迅速な避難が行えるようにするため、地域の各団体と協議し、避難所運営委員会の設立を進める。 また、民生委員と町内自治会が連携し、災害時要支援者の情報共有を図る。	災害時に迅速な避難が行えるようにするため、地域の各団体と協議を進めていた末広中学校、末広公民館の避難所運営委員会が設立された。今後、避難所の運営方法や訓練の実施に向けた協議を進める。 なお、既に設立されていた避難所運営委員会では、避難所開設訓練を実施している。 また、民生委員と町内自治会に、災害時要支援者の把握と情報共有を依頼している。	B	役員やスタッフが高齢となっているため、若い世代を確保していく必要がある。
【町内自治会数】 4町内自治会						
【高齢化率】 20.8%						
【地域の特徴】 ○長洲の一部、末広、千葉寺町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。 地区内に末広街道・大網街道の幹線道路や地区を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅がある。 また、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。また、地域を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅や青葉も森公園が存在しており、それらに伴う道路網の整備のため、最近では、末広街道・大網街道とも交通量の増加している。						

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針			
寒川地区部会エリア	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	災害発生時に備え、避難所運営委員会が、6町内自治会合同の防災訓練や、災害時要支援者の避難訓練を実施し、避難支援体制のさらなる充実を図る。	災害時要支援者の避難支援体制を構築するため、地区部会が、町内自治会の協力を得て、災害時要支援者の近隣の方に支援者(避難を手伝う協力者)として登録いただき、作成した「災害時要支援者及び支援者名簿」を更新した。 また、災害発生時に備え、9月2日に、地区部会が、災害時要支援者の避難訓練を実施するとともに、避難所運営委員会が、6町内自治会合同の防災訓練を実施し、災害時要支援者の避難支援体制のさらなる充実を図った。	A	役員やスタッフが高齢となっているため、若い世代を確保していく必要がある。			
【人口・世帯数】 5,670人、3,108世帯									
【町内自治会数】 6町内自治会									
【高齢化率】 22.6%									
【地域の特徴】 ○港町、寒川町、稲荷町を対象としたエリア。JR本千葉駅と蘇我駅の間に位置している。かつては寒川神社を中心に、川崎製鉄の裏門に沿って栄えた地域で、昔からの住民が多く、かつ一戸建てが多く存在しているためか、住民の転居なども少なく、高齢化が比較的に進行しやすい環境の地域である。									
ちば中央地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会と民生委員が協力しながら、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を実施する。	民生委員・福祉活動推進員及び町内自治会の協力をいただきながら、個別対応ではあるが見守り活動を徐々に開始している。	A	役員やスタッフが高齢となっているため、新たな担い手を確保していく必要がある。			
【人口・世帯数】 16,092人、9,021世帯									
【町内自治会数】 27町内自治会									
【高齢化率】 24.3%									
【地域の特徴】 ○中央、市場町、長洲の一部、本町、東本町、道場南、鶴沢町、旭町、亀井町、亀岡町、亥鼻、葛城、青葉町の一部を対象としたエリア。 千葉市の歴史、文化、経済の中核的な役割を果たしてきた地域で、繁華街と商店街が多く、また、千葉城・青葉の森などの文化・芸術施設も多い。									
④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	第3地区町内自治会連絡協議会が、災害時を想定した防災訓練を年1回実施する。 また、避難所運営委員会と連携し、災害時に支援を必要とする人の避難支援について協議していく。	第3地区町内自治会連絡協議会が、年1回、地域住民の参加を呼びかけ、消火訓練やAED訓練を内容とした、防災訓練を実施し、防災意識の向上に取り組んだ。 避難所運営委員会が活動を開始しており、その活動を注視しており、地区部会としてどのような部分で連携協力出来るのかを協議していく。	B					
					⑤ 相談体制・情報提供の充実	10	地域の高齢者増加に伴い、あんしんケアセンターと連携を強化し、民生委員、町内自治会が個別の相談に応じ、高齢者の方々が地域で安心して生活できるよう活動する。 また、地区部会が各団体の抱える課題を共有する場を提供し、地域で安心して生活できるような環境作りに努める。	地域でのケア会議開催に向け、あんしんケアセンター地区担当者を交えた事前会議を開催することが出来た。引き続き事前の打ち合わせ会議を開催し、地域課題を共有出来る機会を作っていく。	B
中央東地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。	地区部会が、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みを行うためのネットワークをつくるため、あんしんケアセンター新千葉と地域ケア会議の開催に向けた協議を行った。(3月27日に第1回目の会議を開催する予定)	A	担い手不足。役員が高齢化している。若い人の参加が少ない。			
							③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや訪問による安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を継続する。
【人口・世帯数】 13,712人、8,346世帯									
【町内自治会数】 16町内自治会									
【高齢化率】 25.4%									

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針				
中央東地区部会エリア	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会等では、散歩クラブ、ラジオ体操の会などの活動を通じて、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図る。 また、ふれあい・いきいきサロンやボランティア講座の中に、高齢者の健康面に関わるテーマを取り入れ、高齢者の交流の機会を増やす。	地区部会では、いきいきサロンの中で、あんしんケアセンターの介護予防講座や中央区健康課の生活習慣病講座を実施した。 また、散歩クラブを年1回実施して千葉公園でのウォーキングや体操を行うとともに、シニアリーダー体操を年2回実施し、高齢者の健康維持を図った。 一部の町内自治会では、シニアリーダー体操やラジオ体操を実施した。 各町内自治会の老人クラブでは、グランドゴルフが盛んに行われている。	A					
【地域の特徴】 ○祐光、椿森、道場北、院内、要町を対象としたエリア。 千葉市都市モノレール千葉公園駅の東側に位置し、古くからの一戸建て住宅が多い。また、地域内には千葉医療センター(旧:国立千葉病院)がある。			⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年6回、子育てサロンを実施する。		地区部会が、子育て中の親子を対象に、年6回、親子とスタッフの交流や紙芝居等を内容とした子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。いずれの回も保健師や看護師、歯科衛生士を迎え、講習を受けられるようにし、内容の充実を図った。	A		
東千葉地区部会エリア	② 支え合い活動の仕組みづくり	7 9	地区部会が実施している「ちょっとボランティア」と、地域の助け合いグループである東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)の活動を統合し、高齢者等のちょっとした困りごとの支援活動を充実させる。 また、対応できないケースに備え、地区内外の支援サービスを取りまとめた「東千葉便利帳」を作成し、利用者に紹介できる体制を整える。	地区部会が、高齢者等のちょっとした困りごとの支援を継続して取り組むとともに、地域の助け合いのグループである東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)との連携により、依頼内容に合わせて、どちらかが対応する仕組みが構築され、支援体制の充実を図ることができた。 また、地区内外の支援サービスを取りまとめた「東千葉便利帳」については、記載内容を検討している。	A	担い手の高齢化が進んでいる。運営スタッフとして協力してくれる人が見つからない。 安定した事業運営のため、新たな担い手を確保していく必要がある。				
【人口・世帯数】 4, 166人、2, 035世帯			③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、高齢者等、支援を必要としている方の近所にお住いの方に協力を依頼し、日常的な見守りが行える関係の構築を目指す。 また、認知症の知識を地域に広め、住民同士が、お互いを気に掛け、声をかけ合えるような地域を目指し、学習会等を実施する。		地区部会が、高齢者等、支援が必要な方(6世帯)を対象に、日常的な目配りによる見守り活動に取り組んだ。 また、地区部会が、「安心カード」を作成し、民生委員の協力を得て、75歳以上の高齢者に配布した。なお、一部の町内自治会では、希望者にも配布している。	A		
【町内自治会数】 7町内自治会					④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援		6	地区部会と7町内自治会が協力し、合同の防災訓練を年1回実施する。 また、日常的な見守りの協力員が、災害時に要支援者の避難支援を行う体制の構築を目指す。	地区部会と7町内自治会が協力し、合同の防災訓練を実施するとともに、日常的な見守りの協力員が、災害時に要支援者の避難支援を行う体制の構築について協議した。 また、地域の中で防災に関心の高い方々により「防災サポートの会」が設立され、協力体制の構築を図っている。	A
【高齢化率】 36.4%								【地域の特徴】 ○東千葉を対象としたエリア。 旧軍用地のあとに建設された県営住宅、公務員住宅、マンション、その他の一般住宅などがあり、昔からの住人と新たに流入してきた新しい住人が共存している。		
西千葉地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	6町内自治会すべてにおいて、65歳以上の高齢者や障がい者の内、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、目配りや声かけなどの見守り活動を実施した。なお、見守り希望者の更新は毎年行っている。	A					
【人口・世帯数】 12, 697人、6, 686世帯			④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	民生委員が把握している情報を基に、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを毎年更新し、町内自治会と情報を共有するとともに、災害時には日常的な見守り活動を行っている協力員が避難支援を行う体制を継続維持する。 6町内自治会すべてにおいて防災訓練を年1回実施するとともに、3年に1回、登戸小学校避難所運営委員会の訓練を実施する。	民生委員が中心になって、民生委員が把握している情報を基に、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成し、町内自治会と情報を共有している。名簿とマップは毎年更新している。災害時には日常的な見守り活動を行っている協力員が避難支援を行う体制をとっている。 避難所運営委員会が、年1回会議を開催するとともに、備蓄品の確認を行うとともに、地区内の6町内自治会すべてで防災訓練を年1回実施した。	A			
【町内自治会数】 6町内自治会					【地域の特徴】 ○登戸、春日、汐見丘町、新千葉の一部を対象としたエリア。 地区内に京成の新千葉駅及び西登戸駅、JRの西千葉駅がある。 隣接する地域に千葉大学、千葉東高校、千葉商業高校等、複数の教育施設がある文教地域。	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会では、介護予防教室を年2回開催した。 6町内自治会中、5町内自治会において老人クラブは組織されており、各老人クラブが「グラウンドゴルフ大会」を開催した。 スポーツ振興会では、「ウォーキング」を定期的実施するとともに、「バレーボール大会」や「ミニ運動会」を開催した。 シニアリーダーが、特別養護老人ホーム新千葉一倫荘を会場に、月2回、シニアリーダー体操を行った。 登戸ラジオ体操会が、毎日、登戸神社で、ラジオ体操を行った。	A	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
西千葉地区部会エリア	⑪ 世代間交流の場の提供	9	町内自治会等が、誰もが参加できる地域行事を開催し、世代間交流を図る。	地区部会では、福祉バザーを開催した。 特別養護老人ホーム新千葉一倫荘では、年数回「地域交流会」を開催しており、地域の子どもたちが参加している。 町内自治会では、「花見」「盆踊り」「登渡神社まつり」「節分祭」など各種イベントを開催するとともに、町内自治会主体で「ごみゼロの日」に実施している各公園の清掃活動には、大人も子どもも参加しており、交流の機会となっている。 町内自治会サークルが一同に会して「発表会(文化祭)」を開催しており、地域での交流の場となった。	A	
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	地区部会が、地域住民を対象に、既に活動している人の資質向上や新たな担い手の発掘のため、福祉講座を実施する。	地区部会が、「介護予防教室」を年2回、「防災教室」を年1回、障がい者の理解を図る研修会を年1回開催した。 各町内自治会でも、老人クラブと協力して、認知症や口腔ケア等の福祉講座を開催した。	A	
	⑲ 防災体制の充実	6	地区部会では、事業計画に基づく防災講座を通じて、住民の防災に対する意識の高揚を図る。 また、各町内自治会では、防災講座や防災訓練を年1回実施する。 さらに、日赤奉仕団が、災害時や平常時における健康生活支援講座を年2回以上実施する。	地区部会では、年1回、地域住民や地区部会役員を対象に、防災意識の啓発や赤十字救急法等を内容とした防災講座を開催した。 6町内自治会では、すべてに自主防災会があり、各防災会が赤十字奉仕団と協力し、年1回、安否確認、避難訓練、初期消火・応急手当訓練、非常食配布、発電機起動実演、AED訓練、ハイゼックス訓練、起震車・煙体験などの訓練や防災講座を実施した。	A	
中央地区部会エリア	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	子ども達の安全を守るため、地区部会が中心となり、関係団体や学校と連携し、子供たちがこわい目に遭った時に安心して駆け込めるよう「こども110番のいえ」への駆け込み訓練を実施する。 地区部会が、弁天小学校の全学年を対象に毎朝の登校時あらかじめ決めた集合場所から校門まで送る、及び1~2年生を対象に毎週金曜日の下校時に校門から自宅まで送り届ける「こどもみまもり隊」パトロールを実施する。	地区部会では、子ども達の安全を守るため、弁天小学校1年生を対象に「こども110番のいえ」への駆け込み訓練を実施した。地区部会・子供会・PTA・青少年育成委員会の役員や教頭、担任(延べ29人)が、弁天小学校の1年生26人を、3日間に分け引率し、通学路付近の「こども110番のいえ」20軒の訪問・挨拶を行い、子ども達と110番のいえの方が顔見知りになるよう取り組んだ。 さらに、弁天小学校の全学年を対象に、毎朝の集団登校に付き添うとともに、弁天小学校の1~2年生を対象に、毎週金曜日の下校時、校門から自宅まで送り届ける「こどもみまもり隊」パトロールを実施した。 また、児童の健全育成を図るため、地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞、歌や踊りを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深めた(参加者245人)。 さらに、弁天小学校の「わくわくキャンパス」(毎週木曜日、15:00~16:00)に地区部会も協力しており、ソフトボール、バスケット、マット遊び等、児童と一緒に遊び、かつ児童の見守りを行った。(年間25回程度) 地域住民が、セーフティウォッチャーに協力し児童の安全を見守った。	A	担い手の中には就労している人も多い。単発の行事には協力してくれるが、サロン等の定期的な活動への協力者の確保が難しい。 行事の資機材を保管する場所が欲しい。
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、年13回、「ふれあい・いきいきサロン」を実施する。	地区部会(高齢者福祉委員会)が、いきいきサロンを3会場で、延べ13回実施した。中央区健康課の介護予防体操や、あんしんケアセンター中央の健康講話等を取り入れる等、内容の充実に努め、高齢者の健康維持や仲間づくりに取り組んだ。	A	社協の特別会員・賛助会員の協力者が減少してきており、活動経費が減少してきている。
	⑱ 防犯対策の推進	6	地区部会が、子ども達の安全を守るため、児童向けの安全教室を年1回実施する。 また、各町内自治会で防犯パトロールを実施し、防犯に対する意識の向上を図る。	地区部会では、弁天小学校の1年生とその保護者を対象に、NPO「体験型安全教育支援機構」を講師に迎え、「児童向けの安全教室」を実施し、不審者に捕まりそうになった時の逃げ方等を訓練した。 町内自治会では、防犯に対する意識の向上を図るため、防犯パトロールを実施した。	A	安定した事業運営のための担い手や活動拠点、継続した活動資金を確保していく必要がある。
	⑲ 防災体制の充実	6	各町内自治会で、防災マップを作成するとともに、防災訓練や、千葉公園の池に設置されている防水ゲートの開閉訓練を、年1回実施する。	弁天町会では、千葉公園の綿打池が過去の大雨で氾濫した経験を踏まえ、防水ゲートの開閉訓練を年1回実施した。近隣のコンビニエンスストアに排水ゲートの鍵の保管協力を得て、氾濫時の対応にあたっている。また、市の協力により洪水警報サイレン等を設置している。 また、町内自治会ごとに防災訓練を実施した。 弁天小学校の避難所運営委員会では、今後、避難所運営マニュアルを作成していく予定である。	B	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
新宿地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,456人、6,747世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 16.4% 【地域の特徴】 ○新宿、神明町、新田町、出洲港を対象としたエリア。千葉市のほぼ中心に位置し、近くにはJR千葉駅や京成千葉中央駅等がある。学区及び周辺は、デパート等の大型店舗が軒を並べる市内有数の商業地域がある。新興集合住宅が多く建設され、ファミリー層が流入してきている。	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、町内自治会や民生委員と連携し、日常的な目配りや声かけによる見守りが行える地域となるよう、向こう三軒両隣の緊密な人間関係の構築に努める。	民生委員が主体となり、あんしんケアセンターと連携しながら見守りを行っている。また、マンションについては管理人に見守りをお願いしている。 町内自治会や老人会では、諸行事を通じて顔見知りになる機会を設け、緊密な人間関係の構築に努めている。 地区部会では、安心ファイルを作成し、70歳以上の高齢者に配布している。また、見守り活動や支え合い活動に対する住民の意識を把握するため、あんしんケアセンターと連携し「地域のたすけあい活動に関するアンケート」の実施に向けた準備を進めている。	B	地域団体の基盤となる町内自治会役員のなり手が少ない。マンションが増えているが町内自治会に加入する人が少ない。地域行事の担い手が不足している。 安定した事業運営のための担い手や継続した活動資金を確保していく必要がある。
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	町内自治会役員や民生委員が中心となり、日頃から、ひとり暮らし高齢者等とコミュニケーションを図り、災害時には、地区部会が配布している「安心ファイル」を有効活用し、要支援者の支援を行う。	新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、月1回会合を開いている。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れができるよう、住民参加による避難訓練を9月1日に実施し、100人強が参加した。	B	
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	各町内自治会の子ども会と連携し、地域行事に子ども達が積極的に参加するよう促す。 また、幼少期の子どもを持つ親の負担を軽減するため、新宿保育所の「にこにこルーム」のボランティアに積極的に参加するとともに、地区部会による子育て支援セミナーを開催する。	町内自治会や子ども会では、餅つき、お祭り、お花見、盆踊り、新年会、敬老会の余興など、地域の行事に子どもたちが参加し、住民と交流している。 地区部会では、幼少期の子どもを持つ親の負担を軽減するため、新宿公民館で「ベビーマッサージ」を年2回開催し、子育て中の親の育児相談を行うとともに、新宿保育所内の地域子育て支援センター「にこにこルーム」にボランティアとして参加した。 地域住民が、新宿小学校の「放課後子ども教室」や1年生を対象に年1回実施している「昔遊び等の体験活動」に参加し協力している。また、「こども110番のいえ」に協力するとともに、セーフティーウォッチャーとして学校に30名登録して登下校時の子ども達の安全を見守った。	A	
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、「ふれあい・いきいきサロン」の実施に向け検討する。 また、高齢者が交流する機会を提供するため、地区部会エリアの高齢者を対象とした行事を検討する。	地区部会では、高齢者の仲間づくりの場を提供するため「ふれあい・いきいきサロン」を年2回実施した。 町内自治会や老人クラブでは、誕生会、グランドゴルフ、カラオケ等を実施し、月1回程度は高齢者が交流する機会を設けている。	A	
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	高齢者の健康増進を図るため、地区部会が「歩こう会」を年2回実施するとともに、健康関連のセミナーを年1回開催する。 また、社体と連携しグランドゴルフ大会を年2回開催する。	地区部会では、高齢者の健康増進を図るため「歩こう会」を年2回実施するとともに、高齢者を対象に高血圧をテーマにした健康セミナーを年1回開催した。 スポーツ振興会では、グランドゴルフ大会を年2回開催した。 新宿公民館では、週1回、シニアリーダー体操が行われている。	A	
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8	民生委員が、千葉県聴覚障害協会の就労継続支援施設「らいおん工房」を月1回訪問し、作業補助等の活動を通じて、障がい者の理解と交流を促進する。	地区部会の障がい者福祉委員会が、千葉県聴覚障害協会の就労継続支援施設「らいおん工房」で、月1回、手作り販売品の作成等を手伝うボランティア活動を行い、障がい者との交流を図った。	A	
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	住民の福祉力の向上を図るため、あんしんケアセンター等と連携し、福祉に関する研修会を年1回開催する。	地区部会が、中央区健康課と連携し、住民の福祉力向上を図るため、「高血圧について」の講演会を年1回実施した。	A	
	⑱ 防犯対策の推進	6	地域の防犯意識の向上を図るため、各町内自治会が、月2回、防犯パトロールを実施する。 また、防犯関連のセミナーの開催を検討する。	町内自治会では、月2回、防犯パトロールを実施するとともに、年2回、地域交番(京成交番)と地域の犯罪傾向等について情報交換会を開催し、地域の防犯意識の向上に取り組んだ。	A	
	⑲ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	避難所運営委員会の設立に向けた「避難所準備委員会」の開設に伴い、防災意識の向上を図るため、防災関係の知識の習得に努める。 また、避難所運営委員会の設立の進捗状況によるが、避難所ごとに避難訓練の実施を検討する。	新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、月1回会合を開いている。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れができるよう、住民参加による避難訓練を9月1日に実施し、100人強が参加した。	B	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
蘇我地区部会エリア	<p>① 地域支えあい連絡会の設置・推進</p> <p>③ 見守り体制をつくる</p> <p>⑤ すべての子どもを地域で育てる</p> <p>⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実</p> <p>⑦ 地域での健康づくり支援の充実</p>	<p>9 10</p> <p>1</p> <p>4 6</p> <p>2</p> <p>2 5</p>	<p>各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。</p>	<p>地区部会では、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所と共同し、地域における福祉課題を共有し、課題解決に向けて継続的に各種団体・機関との連携・協働を図るため、18団体が参加する「地域ケア会議」を年2回開催した。</p> <p>また、コミュニティ懇談会【地域運営委員会】(年4回)や青少年育成委員会連絡会(年6回)に参加し、地域課題について情報交換を行うとともに、地区部会の会議や活動を通じて関係団体との連携を図っている。</p> <p>さらに、介護付有料老人ホーム「そんぼの家 蘇我」と、高齢者の集いの場としての施設開放等、地域と連携した取組について協議を進めている。</p> <p>コミュニティ懇談会では、「千葉市と淑徳大学との包括的な連携の協定」に基づき、淑徳大学と連携した取組に向けて意見交換会を行った。</p>	A	<p>自由に利用できる活動拠点が欲しい。特に子どもが自由に出入りできるような場所があれば、そこを拠点に地域住民の交流が図りやすいと考える。</p> <p>安定した事業運営のためには活動拠点を確保していく必要がある。</p>
<p>【人口・世帯数】 18,500人、9,351世帯</p> <p>【町内自治会数】 8町内自治会</p> <p>【高齢化率】 15.9%</p> <p>【地域の特徴】 ○蘇我、今井、若草、南町を対象としたエリア。JR蘇我駅周辺の地区で、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターやサッカー場ができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。</p>			<p>地区部会が配布している「冷蔵庫保管用安心カード」の更新のお知らせを全戸配布する。町内自治会未加入のひとり暮らし高齢者には、民生委員が安心カードを配布する。</p> <p>また、地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携し、「認知症徘徊声かけ訓練」を実施する。</p>	<p>地区部会が、地区内の8町内自治会を通じて、町内自治会加入の全世帯を対象に配布している「冷蔵庫保管用安心カード」については、記載内容の見直しを行い、町内自治会を通じて配布した。また、町内自治会未加入の75歳以上のひとり暮らし高齢者については、民生委員の協力を得て5月の「高齢者実態調査」の際に配布する。</p> <p>また、地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携し、「地域見守り訓練」を実施した。</p>	A	
			<p>子ども達の安全を守るため、地域住民がセーフティウォッチャーに協力する。</p> <p>また、小学校や保育園の「昔遊び」に地区部会が協力し、児童の健全育成を図るとともに、地区子ども会と連携し、行事等を通じて地域住民との交流を促進する。</p>	<p>子ども達の安全を守るため、「セーフティウォッチャー」や「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。</p> <p>また、不審者対応として、青色回転灯装着車の協力者の増員に取り組み、蘇我中学校区内で車輛56台、協力者146人、不審者情報メール受信者141人の体制で登下校時に合わせてパトロールを実施し、子ども達の安全を見守った。</p> <p>地区部会では、蘇我小学校から依頼を受け、年1回の「昔あそび」のゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、蘇我小学校で全学年を対象に月2回実施している「わくわくキャンパス」には、内容に応じて参加・協力している。</p> <p>また、「ローゼンそが保育園」の昔あそびのゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、新たに認可保育園「そがチャイルドハウス」の昔遊びのゲストティーチャーとして役員が協力した。</p> <p>さらに、地区の子ども会行事の際には地区部会が協力し、高齢者が昔遊びの指導等に協働参画するようにしている。</p> <p>主任児童委員が中心となり、蘇我小学校に週1回出向き、「本の読み聞かせ」を全学年対象に実施している。</p>	A	
			<p>地区部会が、いきいきサロンを4会場で年16回実施する。</p> <p>また、中央区保健福祉センター健康課、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所の協力を得て、健康体操などのメニューを取り入れ、参加いただく高齢者の健康維持を図るなど、内容の充実を図る。</p>	<p>地区部会が、いきいきサロンを4会場で年16回実施し、高齢者の仲間づくりや健康維持を図った。</p> <p>また、中央区保健福祉センター健康課、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所の協力を得て、健康体操などのメニューを取り入れ、参加いただく高齢者の健康維持を図るなど、内容の充実に向けた。</p>	A	
			<p>地区部会が、「ふれあい・いきいきサロン」や「ふれあい・散歩クラブ」を定期的に開催するとともに、高齢者向けの健康講座を年1回開催し、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図る。</p> <p>また、スポーツ振興会や老人クラブが行っているスポーツ活動に、地区部会として協力する。</p>	<p>地区部会では、60歳以上の高齢者を対象に、健康維持や交流の場づくりを目的として、「ふれあい・散歩クラブ」を年4回、「ふれあい・いきいきサロン」を年16回実施した。特に「ふれあい・いきいきサロン」では、中央区保健福祉センター健康課、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所の協力を得て、健康体操などのメニューを取り入れ、参加いただく高齢者の健康維持に努めるとともに、落語を取り入れるなど、参加者に楽しんでもらえるようメニューを工夫した。</p> <p>また、健康促進に関する講座を年1回開催するとともに、スポーツ振興会及び老人クラブで行っているスポーツ活動に地区部会として協力し、高齢者の健康増進を図った。</p> <p>蘇我いきいきセンターでは、シニアリーダー体操が月2回行われている。</p>	A	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
蘇我地区部会エリア	⑫ 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	2	地区部会のボランティア委員会が、月1回、「セントケアホーム蘇我」「グループホームさくら」の2施設で行っている話し相手やイベント手伝い等の活動を継続して実施する。	地区部会のボランティア委員会が、月1回、「セントケアホーム蘇我」「グループホームさくら」の2施設で行っている話し相手やイベント手伝い等の活動を継続して実施した。	A	
	⑬ 防犯対策の推進	6	民生委員定例会や地域ケア会議、いきいきサロンにおいて「振込詐欺の対応や防止策」についての講座を開催し、防犯意識の向上を図る。 また、育成委員会において、週割して行っている青色パトロールを、各町内自治会と連携し、継続して実施するとともに、各町内自治会が定期的に防犯パトロールを実施し、地域防犯力の向上を図る。	民生委員定例会や地域ケア会議、いきいきサロンでは、「振込詐欺の対応や防止策」について講座を開催した。 育成委員会では、青色パトロールを各町内自治会で週割し、実施した。 第9地区連協では、49町内自治会のうち41町内自治会が防犯パトロール隊を結成し、パトロールを実施した。 移動交番が、蘇我コミュニティセンターや東武ストア蘇我店に開設されている。 昨年度、蘇我中学校区の小・中学生が一緒に作成した「子どもの目からみた安全マップ」を広報紙に掲載し、活用する予定である。 地域住民が「こども110番の家」に協力している。 PTAが学校の長期休暇に合わせ、防犯パトロールを兼ねて実施している地区内一斉点検に地区部会が協力した。	A	
白旗台地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	平成28年6月に発足した「地域運営委員会」において、関係団体と連携し、地域課題の解決に取り組むとともに、福祉課題に取り組みやすくするため、地区部会補助金の統合補助金化等を行政に働きかける。 また、地域ケア会議を本来の困っている方をケアする会議にするよう働きかけるとともに、地域で具体例作りに努める。	地域運営委員会機能を持つコミュニティづくり懇談会で、本年度取り組む地域課題としては、 (1)地区内すべての避難所で、9月2日に更に充実した訓練を実施すること (2)不審者の出没を抑えこむための青色回転灯装着車によるパトロール活動の支援 (3)各避難所備蓄品の充実 を取り上げ、予定どおりに実施できた。 備蓄品としては、本年は特にダンボールベットを配付した。 不審者出没の抑制についても、目標の年5件以下を達成できそうである。 地区部会の補助金の統合補助金化について、関係部課に提案はできたが、実現の為のハードルは高い。 地域ケア会議についても関係部課に提案はできたが、まだ関係者の連携の場づくりの段階にいる。	A	
【人口・世帯数】 25,294人、12,481世帯 【町内自治会数】 41町内自治会 【高齢化率】 24.9% 【地域の特徴】 ○白旗、鶴の森町、今井町、大巖寺町、花輪町、宮崎、赤井町の一部、千葉寺町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 古くからの農村地帯と昭和50年代に宅地造成された地域がほぼ同じ割合で混在する区域で、一部住宅地では、高齢化率50%を超える自治会もある。	② 支え合い活動の仕組みづくり	7 9	地区部会が、社協区事務所と協働し、地域支えあい活動を推進する。 また、支えあい活動のボランティアの募集を定期的に行って増員を図り、ボランティアの研修会を実施するとともに、地域支えあい活動の活性化のための研修会を開催する。	支え合い活動がスタートできた。 支援体制づくりは計画どおり実施できたが、支援希望の件数が予定よりかなり少ないレベルに留まっている。気楽に支援を求められるよう対応中である。 研修会は予定どおり実施できた。	A	町内自治会長との交替により、取組みが後退しないようにするための仕組みづくりが必要である。 公民館に福祉活動の拠点としての機能を持たせて欲しい。
	③ 見守り体制をつくる	1	現在、実施している見守り活動は高い水準で行えていると思うが、町内自治会長の変更等により取り組み状況に差が生じないよう、勉強会等を開き、活動の底上げを図る。 また、見守り希望者、見守り協力者については、毎年の更新が必要となるため、更新の実施に向けて各町内自治会に働きかける。	見守り活動は継続して実施できた。 新役員に対する研修も実施したが、一番聞いてほしい新町内自治会長の一部に欠席者がでてしまい、個別説明を行ってきた。 また、見守り内容の更新については、かなりの町内自治会で定着してきたが、町内自治会による差も目立ちだしてきたので継続したフォローに注力中である。	A	
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	地区部会内にある7つの避難所全てで避難所運営委員会が設置されており、年1回以上の避難所立ち上げ・運営訓練や安否確認・避難支援の訓練を継続して実施する。 また、避難所運営マニュアルは福祉的配慮を必要とする人への対応を含めて出来ているが、この体制を継続・充実するため、マニュアルの見直しを毎年実施するよう働きかける。 さらに、住民意識の維持向上や、運営委員会のレベルアップのため研修会等を実施し、地域全体のレベル向上を図る。	7つある避難所のすべてで工夫しながら訓練が実施できた。多くの避難所で安否確認や避難支援、福祉的配慮を必要とする人の受入れ訓練等を実施できた。 マニュアルについても多くの避難所で見直しを行い、毎年見直しを行う避難所もできた。 研修会として、本年度は災害ボランティアとして参加した人を講師に迎えて実施できた。 さらに淑徳大学との包括協定に基づく会議において、避難所並びに避難訓練に更なる充実を目指した議題を取り上げ議論するとともに、具体的対応も検討した。	A	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
白旗台地区部会エリア						
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	46	セーフティウォッチャー活動や子ども110番のいえ活動、あいさつ運動を継続して実施するとともに、子ども110番の家訪問・駆け込み訓練は前回の実施から時間が経過しているため、再度実施するか検討・対応する。 また、子ども達とも顔見知りになるよう、町内自治会や青少年育成委員会等の実施する事業に地域の人達がより多く参加するよう働きかける。 さらに、青色回転灯装着車によるパトロール活動は継続して実施できるよう協力する。	あいさつ運動やのぼり旗の更新を含めて、本年度もすべて実施できた。 青色回転灯装着車によるパトロールも計画どおり、毎日3台以上で実施できた。不審者の出没件数も、千葉市全体では初めて年300件を超える状況にある中で、年5件以下に押さえ込める見込みである。車輦数(53台)協力者数(165人)は前年レベルをキープでき、また、不審者情報メール受信者は33人増え、174人となった。 歴史散歩事業も、本年度も実施でき、大森小学校地区を過去最多の参加人数でまわることができた。 蘇我中学校1年生を対象とした「子どもによる子どものための子どもの権利条約」の読書感想文事業は、本年度も実施できた。 こども110番のいえ訪問・駆け込み訓練と青色回転灯パトロール支援事業については検討中である。	S	
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会がふれあいいきいきサロンを月1回開催するとともに、各町内自治会に働きかけ、ウィークリーサロンを目指して開催回数の増を行うとともに、身近な集会所等で行う、ふれあい・いきいきサロンを実施する町内自治会の数を増やす。 また、町内自治会や民児協と共同で、引きこもりの人がいないか調査が必要か検討し、結果によっては参加の働きかけを行う。 さらに、サロンでは、出前講座を活用した学習的要素や健康づくりの要素を取り入れたものも実施する。	年1回開催の保健福祉センター健康課対応のふれあいいきいきサロンについては、10会場で10町内自治会が実施した。内2町内自治会は初めての実施だった。 地区部会としては、毎週(1会場)、月3回(2会場)、月2回(2会場)、月1回(1会場)、年1回(7会場)で実施している。 各町内自治会の見守り活動の中で町内自治会と民児協が共同で引きこもりの人の調査について対応を検討した。 サロンの内容については、市の「出前講座」の活用や健康体操を取り入れたサロンが増えた。	A	
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	25	ふれあい散歩クラブ活動の更なる拡大を図るとともに、ふれあい・いきいきサロンに取り入れている介護予防や転倒防止運動を拡充する。 また、スポーツ振興会等の行事に協力し、高齢者の参加を促進する。	地区部会では、散歩クラブを継続して実施した。 毎週(1会場)、月2回(2会場)、月1回(1会場)で実施している。 また、ふれあいいきいきサロンでは、介護予防や転倒防止運動を取り入れている。 スポーツ振興会主催の事業では、高齢者向けの事業が増えており、高齢者の参加人数も増えている。また、ポッチャ等の障がい者スポーツについても、普及の為の研修会や体験会が逐次開催された。	A	
	⑧ 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	48	放課後子ども教室の各小学校での実施を継続し、内容によっては参加する。 また、地域で行われている各種スポーツクラブや学習クラブ等を紹介する充実した内容の冊子を作成、配布済みであるが、前回の配布から時間が経過しているため更新の検討を行う。 さらに、スポーツ振興会や青少年育成委員会の市民体育祭や歴史散歩事業等の行事に協力し、子ども達の参加の機会を増やす。	地区内の3小学校で「放課後子ども教室」を継続実施し、地域住民がボランティアとして協力している。 青少年育成委員会の地区の歴史散歩では、今年度は大森地区で古墳等の遺跡を中心に実施し、地域の歴史を理解し、地域を好きになってもらう事業を実施している。 3小学校で市民体育祭を実施し、その中で子どもの参加できる競技や、大人と一緒に参加する競技を増やし、健全育成と共に近所の大人と知り合いになる機会を提供した。 他にも、小学生球技大会(キックベース)、中学生球技大会(卓球)、中学生バドミントン大会等を実施した。 紹介冊子の更新の検討については、今後更に議論が必要と考える。	A	
	⑨ 子育てサロンの充実	4	月4回の「子育てサロン」を継続実施し、子育て中の親子・地域住民との交流の場とする。 子育てに必要な知識を学ぶため、専門機関との連携も図り、講師として依頼する。	地区部会が、宮崎公民館で月2回(年間22回)、南町共栄会館で月2回(年間23回)子育てサロンを開催した。 親子とスタッフの交流、保健師による育児相談、読み聞かせ、食生活改善推進員による食の話等の内容で実施し、子育て親子の仲間づくりを図った。 また、地域保健推進員からの声かけで、新しく参加する利用者も増えている。 年1回の幼児救急法の講習も定着している。	S	
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	78	地区部会が主催する地域住民も参加できる講座、研修会を年5回以上開催する。 また、コミュニティづくり懇談会等の実施する研修会・講演会に協力し、より多くの人に聞いてもらえるよう努めるとともに、参加者に地区部会活動に参加してもらえるよう、働きかけを行う。 さらに、市の出前講座等を町内自治会でも積極的に取り入れるよう働きかけ、参加者拡大に協力する。	コミュニティづくり懇談会では、「中央区役所の移転について」「オリンピック・パラリンピックの千葉県開催について」「災害ボランティアに参加して感じたこと」等で実施した。 地区部会としては、「地域支え合い活動について」「赤十字救急法(幼児救急法)」「食の衛生管理・高齢者の栄養について」「薬の基礎知識・薬の管理等」「災害時の非常食の説明と実演」のテーマで、年5回、各専門別委員会担当で実施した。 出前講座も独自で実施する町内自治会も出てきた。 また、避難所運営委員会では、女性の委員を増やすとともに、障がい者や外国人にも委員としての参加を呼びかけており、一部の避難所運営委員会では障がい者や外国人が委員として参加するようになるとともに、障がい者に対して社協まつりや避難訓練への参加の呼びかけを行う等、地域での障がい者の社会参加の促進に取り組んだ。	A	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4子どもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
白旗台地区部会エリア	⑱ 防犯対策の推進	6	各町内自治会の防犯パトロール隊結成率80%以上を確保・継続するとともに、パトロール回数を週1回以上実施するよう働きかける。 また、青少年育成委員会が中心となり、青色回転灯装着車によるパトロールを、学校の登下校時に合わせ、毎日3台以上で実施するとともに、子ども達の不審者に対する意識を高めるため、学校と協働で事業を行う。 さらに、町内自治会等とも共同で、防犯に関する講座・研修会を開催し、防犯意識の高揚を図る。	各町内自治会の防犯パトロール隊結成率は計画どおりにはなっていないが、パトロール回数の増については容易ではなく継続中。 青色回転灯装着車によるパトロールについては、順調に実施できている。回転灯の資材についても市の補助が得られるところまで進展した。不審者情報メール受信者を33人増員することができ、車輛53台、協力者165人、不審者情報メール受信者174人の体制に強化することができた。 各小学校とPTAが共同で小学校区毎に年数回のパトロールを実施した。	S	
	⑲ 防災体制の充実	6	地域内の7つの避難所で避難所運営委員会が、安否確認や避難支援、避難所の立ち上げや運営訓練等の訓練を継続して年1回以上実施する。 また、避難所運営マニュアルは福祉的配慮を必要とする人への対応を含めて出来ているが、この体制を継続・充実するため、マニュアルの見直しを毎年実施するよう働きかける。 さらに、各避難所の備蓄品の充実を図るとともに、各団体と協力して防災に関する講座・研修会を年1回以上開催し、防災意識の高揚を図る。	白旗台地区部会では、41町内自治会中、37町内自治会で防災会が設立されており、各防災会が地域住民を対象に、消火訓練等の防災訓練を年1回以上行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。 避難所運営マニュアルの見直しを行い、避難訓練は内容の充実を図り実施した。 ダンボールベットを全避難所に配付し、更にトイレキットの充実も実施した。 研修会も参加回数、人数ともに増加した。	A	
生浜地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	平成27年4月に地域運営委員会を設立し、子どもの見守りを検討する「青少年部会」、高齢者及び要支援者が安心して暮らせるための見守りを検討する「高齢者・要支援者部会」、避難所開設や避難訓練の企画立案と避難のあり方を検討する「防災部会」を設け、各部会を中心に地域課題の解決に取り組む。	「生浜地区地域運営委員会」の中の「青少年部会」、「高齢者・要支援者部会」、「防災部会」の3つの部会で、従来の生浜地区における活動を引き継ぎ、具体化するため、継続して協議をした。 中央区地域活性化支援事業の補助金を受け、事業名「みんなで支え合う町づくり生浜」(平成28~30年度)として、地区部会が中心となって地域の支え合いの仕組みづくりに取り組んできた結果、今年度、健康体操を取り入れたサロンが3か所、新たに立ち上がった。 また、同事業の推進にあたって、地区内の福祉事業所にも協力をいただいております、各事業所との連携が深まっている。	A	
	② 支え合い活動の仕組みづくり	7 9	地区部会を中心に、高齢者のちょっとした生活上の困りごとを手伝う支えあいの仕組みづくりを行う。	地区部会のボランティア委員会が、買い物やゴミ出し等のちょっとした困りごとを手伝うボランティア活動を行っているが、委員個人のボランティア活動に留まっており組織体制は整っていない。 また、障害者支援施設ハピネス浜野の協力により、地区部会の会議や事務作業等を行う場所として、同施設の集会所を利用している。	B	
	③ 見守り体制をつくる	1	要支援者が、地域で安心して暮らせるよう、民生委員が支援を必要とする人の同意を得、町内自治会と協力し、日頃のさりげない見守りを行う。	一部の町内自治会で見守り体制を構築し、活動を行っており、未実施の地域では、各町内自治会と民生委員が見守りの仕組みづくりについて協議を継続している。	B	
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	地域運営委員会の「防災部会」で、災害時要支援者の避難支援体制について検討する。 また、各避難所運営委員会が、避難訓練を実施するとともに、九都府市合同防災訓練に合わせた避難所開設訓練と避難所運営委員会を開催する。	6か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が九都府市合同防災訓練に合わせて避難所開設訓練を行うとともに、3月3日に各避難所合同の「生浜地区合同防災避難訓練」を実施した。 また、福祉避難所として行政から指定されている事業所に対し、一次避難所として避難者を受け入れていただけるよう、共通理解を図っている。	A	安定した事業運営のための担い手や継続した活動資金を確保していく必要がある。
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	地域運営委員会の「青少年部会」で、子どもの安全を守るための見守り活動について検討する。 また、各小学校の「セーフティウォッチャー」に地域住民が協力し、子どもの安全を守る活動を推進する。	学校が主体となって実施している「セーフティウォッチャー」に地域住民が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組んだ。 また、生浜地区地域運営委員会の「青少年部会」において、不審者情報の共有を図っている。	A	
	⑥ ふれあいいきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場所を設け、仲間づくりや健康増進を図る機会を増やすため、隔月開催であった「ふれあいいきいきサロン」を月1回開催する。 また、福祉施設を利用しての高齢者の居場所づくりや、中央区健康課のヘルスサポーター養成教室を活用した地域で運動を継続するグループのリーダーを育成する。	地区部会では、隔月で開催していた「いきいきサロン」4会場を毎月開催することとし、高齢者が交流する機会を増やした。(計5会場で実施。1会場で月3回、4会場で年10回) また、中央区地域活性化支援事業の補助金を受け実施した、高齢者への「困りごとアンケート」の結果を受け、健康体操を中心とした「新たな居場所づくり」を進めることになったことから、中央区健康課のヘルスサポーター養成講座を開催して担い手の確保を行うとともに、新規のサロン3会場を開設した。(2会場で週1回、1会場で月2回) 老人クラブでは、グラウンドゴルフや輪投げ、ダーツ等の行事を多数開催している。	S	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
生浜地区部会エリア	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	高齢者の健康増進を図るため、シニアリーダーによる健康体操を町内自治会と協力し広げていく。	地区部会では、いきいきサロンにおいて、区健康課やあんしんケアセンター浜野の協力で血圧測定や健康指導を開催しており、内容の充実を図っている。 老人クラブや体育振興会では、グラウンドゴルフ大会を開催している。 公民館や一部の町内自治会では、シニアリーダー体操教室を実施している。 一部の町内自治会では、あんしんケアセンター浜野の協力による定期的な健康体操や、毎朝のラジオ体操を実施している。有志の集まりによる毎朝のラジオ体操もある。	A	
	⑧ 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	4 8	生浜地区体育祭や育成委員会主催の子どもふれあい祭り等の地域行事の際、子ども会と協力し、子どもの参加者増に努め、子ども達の健全育成を図る。	スポーツ振興会が、町内自治会の協力を得て「生浜地区体育祭」を開催し、地域の子も達がスポーツに触れる機会を設け、子ども達の健全育成を図った。 育成委員会が、「子どもふれあい祭り」を開催し、昔遊びの体験等を行っており、地区部会としても体験コーナーを設けて参加した。 各町内自治会では、餅つき大会や子どもの日イベント等を開催するとともに、地域住民が放課後子ども教室に協力し、子ども達の健全育成を図った。	A	
	⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年39回、子育てサロンを開催する。 また、幼稚園・保育所・保育園との情報交換会を実施するとともに、地区内の災害ボランティアが、災害時に、保育所等の支援を行う。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、4会場で年間39回、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。区健康課等の専門職と連携を図り、内容の充実に努めた。 また、7月に幼稚園・保育所・保育園と情報交換会を実施し、子どもに関する問題について意見交換を行った。 さらに、災害時に幼稚園・保育所・保育園を支援する災害ボランティアを募り、災害時の支援体制を整えている。	A	
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8	障がい者を理解するための勉強会や施設訪問を実施する。 また、福祉施設と協力し、中学生を対象とした車椅子体験を行い、障がいについて学習する機会を設ける。 さらに、障がい者施設での作業補助や、施設が主催する祭り等の行事への参加、あるいは地域の祭り等に障がい者を招待するなど、障がい者と地域住民との交流を図る。	地区部会では、障がい者委員会が、障がい者への理解を深めるため施設訪問を実施するとともに、障がい者施設で施設内の清掃や施設行事を手伝うボランティア活動を行った。 また、生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車椅子体験や、障がい者スポーツ選手を招いたポッチャ体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。 スポーツ振興会主催の「生浜地区体育祭」に、地区内の障がい者施設の利用者を招待した。今年度は見学のみとなってしまったが、今後は障がい者でも参加できる競技種目を検討していきたいと考えている。	A	
	⑪ 世代間交流の場の提供	9	各町内自治会の盆踊り、運動会、お祭り等、誰もが参加できる地域行事を通じて、世代間交流を図る。	スポーツ振興会が町内自治会の協力を得て実施した「生浜地区体育祭」や、各町内自治会が実施しているお祭り等、年齢を問わず参加できる地域行事を通じて、世代間交流を図った。	A	
	⑮ 相談体制・情報提供の充実	10	地区部会が開催するふれあい・いきいきサロンや子育てサロンで、スタッフが気軽に相談を受け付け、対応できないものは専門機関に繋げる。	地区部会では、ふれあい・いきいきサロンや子育てサロンにおいて、スタッフが参加者の相談に応じ、対応できないものは専門機関を紹介する等、参加者が気軽に相談できる環境づくりに取り組んだ。 地域では、町内自治会や民生委員、ボランティア委員会が個別の相談に対応している。	A	
	⑰ 地域での福祉教育の推進	8	青少年育成委員会が、「敬老の集い」に中学生をボランティアとして参加させ、地域の高齢者との交流を行う。 また、福祉施設と協力し、中学生を対象とした車椅子体験を行い、障がいについて学習する機会を設ける。	各町内自治会で実施している敬老会に中学生がボランティアとして参加し、活動を通じて福祉の心を育む機会を設けるとともに、高齢者との交流を図った。 地区部会では、生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車椅子体験や、障がい者スポーツ選手を招いたポッチャ体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。 また、中央区地域活性化支援事業の補助金を受け、健康体操を中心とした「新たな居場所づくり」を進めるにあたり、健康体操の担い手を育成するため、中央区健康課の協力を得て、「ヘルスサポーター養成講座」を開催した。 育成委員会で実施している「子どもふれあい祭り」に中学生が吹奏楽や運営補助のボランティアとして参加し、活動を通じて福祉の心を育む機会を設けるとともに、参加者との交流を図った。 地域住民が放課後子ども教室に協力し、子ども達の健全育成を図った。	A	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
生浜地区部会エリア	⑱ 防犯対策の推進	6	防犯パトロールが組織化している町内自治会は、定期的に防犯パトロールを実施する。併せて警察と連携し、防犯講習会等を開催し、地域防犯力の向上を図る。	地区部会では、千葉県警交通課、中央署、生浜小学校の協力を得て、高齢者及び児童とその保護者を対象に、交通安全の講話等の内容で、「熟年者交通安全教室」を年1回実施し、交通安全意識の向上に取り組んだ。また、いきいきサロン等で、防犯に関する注意喚起を促した。防犯パトロールを組織化している町内自治会では、定期的に防犯パトロールを実施した。	A	
	⑲ 防災体制の充実	6	防災会の結成されていない町内自治会は、防災会の結成を目指す。また、地域運営委員会の「防災部会」で、地域の防災について検討するとともに、地域全体で、年1回の防災訓練を実施する。	6か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が九都県市合同防災訓練に合わせて避難所開設訓練を行うとともに、3月3日に各避難所合同の「生浜地区合同防災避難訓練」を実施した。第13地区町内自治会連絡協議会の11町内自治会中、5町内自治会で防災会が設立されており、その内、2つの防災会が、地域住民を対象に、消火訓練等の防災訓練を年1回行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。	A	
松波地区部会エリア	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、「ふれあい・いきいきサロン」を実施する。また、サロンの内容を工夫し、参加者の増加を図る。	いきいきサロンは、週2回のグラウンドゴルフ(雨天及び学校の長期休暇期間は休み)を松波公園で開催した。また、月2回の脳トレ、月1回の手芸(8月は休み)を松波公民館で開催し、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図った。	A	
【人口・世帯数】 4,764人、2,622世帯						
【町内自治会数】 1町内自治会						
【高齢化率】 25.1%	⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語らい、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月2回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、月2回、中央区健康課の保健師、栄養士、歯科衛生士による指導、読み聞かせボランティアによる本読み、工作、季節のイベント、スタッフ(助産師)による育児相談等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	
【地域の特徴】 ○松波町を対象としたエリア。大規模な公務員住宅や民間のマンションなどもある閑静な住宅地域、学校の周辺には3大学、4高校及び千葉市教育センター、放射線医学研究所、東京大学生産技術研究所などの機関があり、一大文教地区をなしている。	⑯ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	6 10	地区部会が、地域住民に対して、地区部会事業への参加者の増加を図るとともに、地区部会活動への理解者を増やし新たな活動の担い手を発掘するため、広報誌を年5回発行する。	地区部会が、地域住民を対象に、地区部会活動の紹介と啓発、会員の募集状況等の報告のため、A3版の社協だより「ゆめ」を年1回発行するとともに、毎月の地区部会事業の日程の周知やボランティア募集を図るため、A3版の社協だよりを、年4回発行した。また、松波町会のホームページに、地域の関係団体(地区部会、民児協、商工会、老人クラブ)のページを追加し、地域情報の充実を図った。	A	安定した事業運営の為に、関係団体との連携を円滑にする必要がある。また、担い手を確保する必要がある。
	⑰ 地域での福祉教育の推進	8	地区部会が、地域の福祉活動に、児童・生徒がボランティアとして参加できる機会を設ける。また、パラリンピックの開催に向け、地域で障害者理解の啓発を図る。	敬老会に、千葉商業高校の吹奏楽部が参加するとともに、赤い羽根の歳末募金に千葉商業高校青少年赤十字の生徒が協力し、活動を通じて、福祉の心を育む機会を設けた。町会の夏祭りには、クラーク記念国際高校の生徒が参加し、子どもと山車を一緒にひいたり、ダンスやバンド演奏を披露した。障害者理解の啓発を図る取組として、障がい者スポーツの見学を検討したが実施に至らなかった。	B	
松ヶ丘地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会がひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや電話による安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を継続して実施する。また、研修会や報告会を通じて、問題点を改善しながら、より良い活動となるよう努める。	平成27年4月から、地区部会が、ひとり暮らし高齢者や障がいのある方などの内、見守りを希望する方(手上げ方式)及び見守りが必要と思われる方、92世帯に対し、目配りや電話による安否確認を開始し、継続した見守りに取り組んだ。また、町内自治会や協力員に対し研修会を実施し、見守り活動に対する理解を深めることができた。	S	
【人口・世帯数】 11,920人、5,687世帯						
【町内自治会数】 37町内自治会						
【高齢化率】 28.6%	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会が、千葉市のシニアリーダー養成講座修了者と協力し、松ヶ丘公民館を会場に週1回、葵幼稚園を会場に不定期ではあるが、介護予防教室を実施する。また、「いきいき散歩クラブ」を月2回実施するとともに、「いきいきサロン」や「ゆうあいひろば」において、淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、介護予防や引きこもり防止の講話(相談含む)を開催する。さらに、各町内自治会において、有志によるグラウンドゴルフを定期的に行い、スポーツ振興会が中心となり大会を開催し、高齢者の健康増進を図る。	地区部会では、「いきいきサロン」や「ゆうあいひろば」のメニューとして淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、介護予防や引きこもり防止の講話(相談含む)を行った。また、「いきいき散歩クラブ(高齢者福祉委員会)」を月2回開催した。さらに、千葉市のシニアリーダー養成講座修了者と協力し、松ヶ丘公民館(週1回)、葵幼稚園(不定期)でのシニアリーダー体操の実施に加え、今年度から新たに、恵光園(週1回)、仁戸名自治会館(週1回)、都苑(不定期)、第3公園(週1回)で実施し、高齢者の健康維持・増進を図る場の増設を図った。あんしんケアセンターでは、さくら会館で健康体操を実施した。各町内自治会では、有志によるグラウンドゴルフは盛んに行われ、大会を年3回開催している他、スポーツ振興会が年2回、大会を開催している。「淑徳大学看護栄養学部」と「ひだまり運営委員会」が連携し、「淑徳オレンジカフェ」を月1回開催した。	S	なし

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
松ヶ丘地区部会エリア 【地域の特徴】 ○松ヶ丘町の一部、仁戸名町の一部、星久喜町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 戦後、京葉臨海工業地帯造成発展に伴い、全国から人が流入し人口が急増。以前は川鉄及びその関連会社に勤める住民が中心であったが、近年では過去においては川鉄及びその関連会社を中心であったが、近年はその傾向は減少。平成4年度、千葉急行(現京成電鉄)の大森台駅が開業によりJR千葉駅や東京方面への交通の便が改善され、地区の活性化に役立っている。	⑮ 相談体制・情報提供の充実	10	地区部会が、年3回、広報誌を発行するとともに、松ヶ丘中学校地区地域運営委員会が運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載し、地域情報の発信に努める。 また、「ひだまり」でスタッフが気軽に相談を受け付ける体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境をつくる。	松ヶ丘中学校校区地域運営委員会が毎月開催している「円卓会議」で各団体のイベントや活動の情報収集やPRに努め、運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載するとともに、「ひだまり」にサークル紹介や各団体のチラシを掲載、配布して情報発信に努めた。 また、「ひだまり」に役員が当番制で常駐し、問い合わせに対応し、その場で回答できないものは関係団体から回答する体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境づくりに取り組んだ。	A	
川戸地区部会エリア 【人口・世帯数】 6,935人、3,274世帯 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 33.0% 【地域の特徴】 ○川戸町、仁戸名町の一部、赤井町の一部、平山町(緑区)の一部を対象としたエリア。千葉市の中央台地に位置し、大網街道を境に東側は旧川戸の部路で、西側は高層住宅の立ち並ぶ地域である。周辺には、千葉南高校、千葉県がんセンター、国立千葉東病院などの公的機関が存在するが、千葉市の公的機関が少なく、川戸公民館が唯一のコミュニティの場である。また、高齢化率については、30%を超え高くなっている地域である。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。	地区部会が主催する行事や活動(バス研修旅行、敬老会、福祉バザー、見守り隊の活動、お助け隊の活動)については、コミュニティ懇談会、第21地区連絡協議会、民生委員・児童委員協議会、スポーツ振興会、PTA、子ども会と意見交換を図りながら、関係団体の協力を得て実施している。	A	
	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、地域の各種団体等と連携し、ひとり暮らし高齢者等に対する日常的な見守り体制を強化し、声かけによる安否確認等、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方を対象に、日常的な目配りや声かけによる安否確認等を行い、安心して地域で暮らせるよう、継続して見守り活動に取り組んだ。	A	
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、月1回、ふれあい・いきいきサロンを実施する。 また、75歳以上のひとり暮らし高齢者を個別訪問し、サロンの案内を行うとともに、対象者が参加したくなるような企画を考える等、参加者の増加に努める。	地区部会が、いきいきサロン「ひまわり会」を年9回開催し、高齢者の仲間づくりや健康維持を図った。また、75歳以上のひとり暮らし高齢者を個別訪問し、サロンの案内を行うとともに、対象者が参加したくなるような内容を検討し、参加者の増加に努めた。 なお、都苑で教えていただいた機能回復のための簡単な体操を「ひまわり会」で活用している。	A	
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会が、75歳以上のひとり暮らし高齢者を個別訪問し、散歩クラブの案内を行い、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図るため、散歩クラブ活動を開始する。	地区部会が主催する散歩クラブの開催を検討したが、実施には至らなかった。 なお、スポーツ振興会主催のラジオ体操や散歩、老人クラブ主催のグランドゴルフ等、高齢者の健康維持を図る取り組みは行われている。	C	担い手不足で役員に負担がかかっている。 安定した事業運営のため、担い手を確保していく必要がある。
	⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年10回、子育てサロンを実施する。 また、民生委員・児童委員と連携して対象者を把握し、個別にサロンの案内状を配付し、潜在的な利用者の掘り起こしに努める。	地区部会が、子育てサロン「もーもークラブ」を年10回開催し、子育て支援を図った。また、参加者の増加には至らなかったが、民生委員・児童委員と連携して対象者を個別訪問してサロンの案内状を配付し、潜在的な利用者の掘り起こしに努めた。	A	
	⑪ 世代間交流の場の提供	9	地区部会や町内自治会等が、敬老会や福祉バザー、盆踊り等、地域住民が気軽に参加できる行事を実施し、世代間交流を図る機会を設ける。	地区部会が開催する敬老会に、千葉南高校、川戸中学校、川戸小学校の児童・生徒が参加し、高齢者と交流する機会を設けた。また、「福祉バザー」を開催し、世代を問わず参加できる地域行事を通じて交流を図った。 また、地域の団体が、盆踊り大会や、美化活動、スポーツ祭、餅つき大会等を実施しており、様々な地域行事を通じて住民の交流を図った。	A	
	⑯ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	6 10	地区部会が、地域福祉に関する情報を住民に提供する広報誌を年2回発行する。 また、地域住民の関心の高い、防災に関する情報を収集し、避難所運営委員会等を通じて、住民に情報を提供する。	地区部会が、地域福祉に関する情報を住民に提供する広報誌を年1回発行した。 また、防災に関する情報については、避難所運営委員会等を通じて、住民への情報提供に努めた。	B	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
星久喜地区部会エリア 【人口・世帯数】 11, 703人、5, 673世帯 【町内自治会数】 24町内自治会 【高齢化率】 26. 2% 【地域の特徴】 ○矢作町、星久喜町の一部、松ヶ丘町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。かつては純農村地帯だったが、東金有料道路の開通・宅地化の波とともに、世帯数も増加した。「千葉市都市緑化植物園」「青葉の森公園」などの公共施設を抱え、緑に囲まれ恵まれた環境にある。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	地域運営委員会の設置に向けて、各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら、役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりを行う。	平成30年4月に、地域運営委員会を設立し、地域福祉の推進に関する講演会や先進地区部会の視察を実施するとともに、ホームページの開設に向け検討・調整した。	A	
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	地区部会及び青少年育成委員会等が、子ども達の安全を守るため、学校と連携し、セーフティウォッチャー活動を実施する。	地区部会及び青少年育成委員会等が、子ども達の安全を守るため、学校と連携し、セーフティウォッチャー活動を実施した。また、小学校PTAが自転車パトロールを行うとともに、青少年育成委員会が、学区内パトロール、子ども達と一緒に清掃活動、長期休暇前の学区点検を実施した。	A	
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、年8回、「ふれあい・いきいきサロン」を継続して実施する。	地区部会が、70歳以上の高齢者を対象に、青葉の森公園や都市緑化植物園の散策、中央区健康課からの話等を内容とした、いきいきサロンを年8回実施し、高齢者の仲間づくりや健康維持に取り組んだ。	A	
	⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年10回、子育てサロンを継続して実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、年10回、栄養士や歯科衛生士からの話、読み聞かせ、食生活改善推進員による簡単なおやつ作り、星久喜保育所訪問、クリスマス会等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	担い手の後継者がいない。 町内自治会長が毎年替わるころがあり、引き継ぎが難しい。 自主財源が少ない。
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8	地区部会が、障がい者への理解に関するテーマを取り入れた研修会を開催するとともに、地域の障がい者施設でのボランティア体験などを通じて、障がい者との交流を図る。	地区部会が、障がい者に対し地域でどのような支援が出来るか考えるきっかけとするため、障がい者への理解に関するテーマを取り入れた研修会の開催を検討したが、テーマの選定が難しく、開催には至らなかった。しかし、障がい者福祉委員会が11月上旬にある公民館主催の文化祭にて、作業所の作品を施設利用者と共に販売したり、星久喜小スポーツ振興会主催のふれあい大運動会に、星久喜小・中学校の特別支援学級の生徒が参加するなどして、障がい者との交流を図った。	A	安定した事業運営のため、新たな担い手や活動資金を確保していく必要がある。
	⑪ 世代間交流の場の提供	9	地区部会が、青少年育成委員会等の関係団体と連携し、星久喜公民館における大人と子どもの宿泊イベント等、各世代が気軽に参加できる行事を実施するとともに、敬老会に児童・生徒がボランティアとして参加できる機会を設け、世代間交流を図る。	星久喜小スポーツ振興会主催の「ふれあい大運動会」等、誰でも参加できる地域行事で交流を図った。	A	
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、参加者に対する健康講座を取り入れ、介護予防について学習する機会を設けるとともに、地域行事でのボランティア体験等を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進を図る。	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、中央保健福祉センター健康課による認知症や口腔ケアに関する講座を取り入れ、介護予防について学習する機会を設けた。また、敬老会における小中学生のボランティア体験を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進に取り組んだ。	A	
	千葉みなと地区部会エリア 【人口・世帯数】 10, 225人、4, 257世帯 【町内自治会数】 11町内自治会 【高齢化率】 11. 4% 【地域の特徴】 ○中央港、千葉港、問屋町を対象としたエリア。ほとんどの住民がマンションに居住している。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	地域支えあい連絡会を設置し、地区毎(千葉港・中央港・問屋町)の課題を把握するため、民生委員・児童委員の他、PTA等の学校関係者や企業も巻き込んだメンバーで意見交換会を実施する。	町内自治会や民生委員・児童委員、行政等の関係機関・団体が集まり、「千葉みなと地区部会」、「千葉みなと地区自治会連合会」、「新宿中学校避難所運営委員会」の定期会合を2か月に1回開催し、地域課題の意見交換を行った。	A
③ 見守り体制をつくる		1	ひとり暮らし高齢者や要介護者等について、まずその存在確認体制を構築し、必要に応じて安否確認・見守り活動が必要な方々に対してサービスが提供できるよう体制を整備する。	民生委員が見守りを行っている。マンション群の地域であることから、マンションに合わせた見守り体制をどのように作っていくか検討していきたい。	C	自治会館や公民館のような場所がないので集いたくてもできない。最大の課題は場所の確保と、それを支える要員の確保。 安定した事業運営のため、担い手や活動拠点の確保が必要である。
⑲ 防災体制の充実		6	避難所運営委員会と協力し、災害時の物資供給が遅延なく行われる体制を整備する。また、各世帯に的確な情報を提供し、日頃から災害に強いまちづくりを図る。	避難所運営委員会では、災害時の対応を協議するため、隔月で定例会議を開催するとともに、年1回、避難所開設訓練を行った。また、各マンションでトランシーバーを導入し、災害時の支援体制を整備した。各マンションでは、年1回、防災訓練を実施した。	B	

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。(5~7割) A:概ね目標を達成した。(8~10割) C:大きく目標を下回った。(〜4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	9	S 2 A 5 B 2 C	見守り活動の実施を重点取組とした地区は13地区のうち5地区(区全体で、地区部会として取り組んでいる地区が2地区、それ以外は自治会単位での取組)。準備会の発足や、支援体制構築に向けた会議等を開催し、仕組みづくりを進めた。
2 高齢者を支える仕組みづくり	7	S 1 A 4 B 2 C	高齢者等の生活支援を地域ぐるみで行う活動の実施及び推進を重点取組とした地区は13地区のうち3地区(日常生活支援は、地区部会で実施5地区、自治会単位で実施4地区、未実施4地区)。生活支援実施に係る会議等を開催し、活動の充実に努めた。
3 障害者を支える仕組みづくり	3	S 1 A 1 B 1 C	障害者の支援活動を重点取組とした地区は13地区のうち3地区(区全体で7地区)。障害者施設イベントへの参加や、バス旅行、障害福祉の理解を深めるための「フォーラム」の開催、成年後見サークルの立ち上げなどを行った。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	2	S 1 A 1 B C	子どもと子育て支援を重点取組とした地区は13地区のうち2地区。子育てサロン(2地区68回、区全体で9地区229回)及び子ども食堂(1地区12回)を実施。その他の活動として、子ども工作教室、料理教室、お話会の開催や要支援児童への支援金の支給などを行った。
5 健康づくり	2	S 1 A B 1 C	健康づくりとして、高齢者を対象としたいきいきサロンの充実を重点取組とした地区は13地区のうち2地区(2地区1,590回、区全体で13地区2,116回)。その他の活動として、健康体操や音楽、落語などのレクリエーションを取り入れた地域活動支援事業(区内12か所45回)を実施し、心身の健康づくりに取り組んだ。
6 防犯・防災に対する取組み	5	S A 3 B 2 C	防犯に対する取組を重点取組とした地区は13地区のうち3地区。自治会単位で実施されている防犯パトロールを地域全体で取り組むため、アンケートの実施や連携に向けた呼びかけを行った。防災に対する取組を重点取組とした地区は13地区のうち2地区。避難所運営委員会立ち上げに向けた会議の開催や、避難所運営委員会が設立されている地区については、運営マニュアルの見直し、更新整備を進めた。
7 担い手の拡大とボランティアの促進	8	S 1 A 4 B 3 C	担い手確保に向けボランティア講座の開催を重点取組とした地区は13地区のうち1地区。ボランティア入門講座を開催し、担い手確保に努めた(区全体で7地区13回開催)。その他の活動として地域のボランティア団体と協力し、ボランティア募集チラシを作成した。
8 福祉教育・啓発	12	S 3 A 6 B 3 C	「福祉まつり」開催時に手話や点字の体験コーナーを設けるなど、福祉教育・啓発活動に努めた。小学生と一緒に赤い羽根共同募金の街頭募金を行い、福祉意識の醸成を図った。
9 地域のつながりづくり	11	S 1 A 7 B 3 C	地域のつながりづくりとして、居場所づくり、世代間交流を重点取組とした地区は13地区のうち2地区。昔遊びや流しそうめん、餅つき大会などを通し、世代を超えた交流を図る。障害や認知症など、支援が必要な方が気軽に集える居場所を作るために、検討チームを立ち上げ、先行事例の視察などの活動を行った。
10 相談支援体制と情報提供の充実	2	S A 2 B C	広報紙の発行やホームページの立ち上げを重点取組とした地区は13地区のうち2地区(区全体で12地区29回発行)。記事の充実を図るなどの工夫を行った。ホームページの立ち上げは1地区実施。身近な地域情報を適宜更新することにより、住民への情報提供と街の魅力をPRするツールとして活用している。
今年度の振り返り	61	S 11 A 33 B 17 C 0	・目標に対する達成状況について、(S)、(A)の割合が7割を超えており、概ね計画を順調に推進することができた。 ・「見守りの仕組みづくり」については、自治会単位での取組を、地域全体で取組むよう、体制づくりに努めており、特に成果があったと言える。

今後の課題と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動を継続するための担い手が不足しているため、様々な機会を通して、地域福祉活動の理解と参加の呼びかけを行う。 ・地域内にある社会資源を積極的に活用し、より充実した内容の地域活動をすすめる。
----------	---

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日			主な議題等
平成30年度	第1回	平成30年 7月2日(月)	(1)委員長・副委員長の選任について (2)支え合いのまち千葉推進計画～第4期千葉市地域福祉計画～について (3)第4期花見川区地域福祉計画進行管理表について
	第2回	平成30年 12月3日(月)	(1)各団体取組紹介 ①障がい者施設との連携した「たすけあい活動」 千葉市社会福祉協議会加曽利地区部会 部会長 江口 忠良 氏 ②花見川団地地域での取組について UR都市機構東日本賃貸住宅本部ウェルフェア推進課 宇内 大樹 氏 ③まちかど相談室花見川について 社会福祉法人晴山会 まちかど相談室花見川 所長 南 範子 氏
	第3回	平成31年 3月8日(金)	(1)「花見川区支え合いのまち推進計画(第4期花見川区地域福祉計画)」における各社協地区部会推進状況(平成30年度)について

◆区の地域福祉に関する好事例等

※詳細は裏面

住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり(「我が事」の地域づくり)

活動主体	千葉市社会福祉協議会畑地区部会																											
取組概要	<p>「いきいきサロンライフ」</p> <p>取組概要 花見川区畑町にあるスーパーマーケット「ライフ宮野木店」から地域貢献をしたいとの申し出があり、店内の休憩コーナーを利用し、65歳以上の高齢者を対象に、健康づくり・レクリエーション等をテーマにふれあい・いきいきサロンを開催。地元スーパーマーケットとして地域福祉活動の推進及び当店の高齢者の集客に繋げる。社協畑地区部会、あんしんケアセンターにれの木台、花見川保健福祉センター健康課の3団体が月交代で講師を担当し開催している。</p> <p>関係団体 ライフ宮野木店、千葉市社会福祉協議会畑地区部会、千葉市生活支援コーディネーター(花見川区担当)、あんしんケアセンターにれの木台、花見川保健福祉センター健康課、千葉市社会福祉協議会花見川事務所</p>																											
実績・今後の予定	<p>実績等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年8月より毎月第4月曜日10:00～11:30開催 ・毎回平均25人～30人が参加 ・ライフ宮野木店からプライベートブランドのお茶の提供有り <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="510 861 1855 1470"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月 日</th> <th>担 当</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30. 8. 27</td> <td>花見川保健福祉センター健康課健康づくり班／保健師</td> <td>ゲームを交えて認知症予防について解説</td> </tr> <tr> <td>9. 24</td> <td>あんしんケアセンターにれの木台／看護師・社会福祉士</td> <td>あんしんケアセンターの役割、自宅でできる筋力アップ体操</td> </tr> <tr> <td>10. 22</td> <td>千葉市社会福祉協議会畑地区部会</td> <td>大人の折り紙教室（鶴箸袋、扇子箸置き等）</td> </tr> <tr> <td>11. 26</td> <td>花見川保健福祉センター健康課健康づくり班／歯科衛生士</td> <td>口から始める認知症予防（口腔ケア）</td> </tr> <tr> <td>12. 24</td> <td>あんしんケアセンターにれの木台／看護師・主任介護支援専門員</td> <td>介護保険サービスと施設の種類について</td> </tr> <tr> <td>31. 1. 28</td> <td>千葉市社会福祉協議会畑地区部会</td> <td>大人の折り紙教室（立ち雛1対）</td> </tr> <tr> <td>2. 25</td> <td>花見川保健福祉センター健康課健康づくり班／栄養士</td> <td>おいしく食べて健康に過ごすために（食事の見直し）解説・健康相談（血圧測定）</td> </tr> <tr> <td>3. 25</td> <td>あんしんケアセンターにれの木台</td> <td>ロコモティブシンドロームの予防と対策</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="1899 724 2671 1617"> <p>H31.2.25開催風景</p>  <p>いきいきサロンライフ入口</p>  <p>栄養士が解説</p>  <p>保健師が血圧測定</p> </div> </div>	月 日	担 当	内 容	30. 8. 27	花見川保健福祉センター健康課健康づくり班／保健師	ゲームを交えて認知症予防について解説	9. 24	あんしんケアセンターにれの木台／看護師・社会福祉士	あんしんケアセンターの役割、自宅でできる筋力アップ体操	10. 22	千葉市社会福祉協議会畑地区部会	大人の折り紙教室（鶴箸袋、扇子箸置き等）	11. 26	花見川保健福祉センター健康課健康づくり班／歯科衛生士	口から始める認知症予防（口腔ケア）	12. 24	あんしんケアセンターにれの木台／看護師・主任介護支援専門員	介護保険サービスと施設の種類について	31. 1. 28	千葉市社会福祉協議会畑地区部会	大人の折り紙教室（立ち雛1対）	2. 25	花見川保健福祉センター健康課健康づくり班／栄養士	おいしく食べて健康に過ごすために（食事の見直し）解説・健康相談（血圧測定）	3. 25	あんしんケアセンターにれの木台	ロコモティブシンドロームの予防と対策
月 日	担 当	内 容																										
30. 8. 27	花見川保健福祉センター健康課健康づくり班／保健師	ゲームを交えて認知症予防について解説																										
9. 24	あんしんケアセンターにれの木台／看護師・社会福祉士	あんしんケアセンターの役割、自宅でできる筋力アップ体操																										
10. 22	千葉市社会福祉協議会畑地区部会	大人の折り紙教室（鶴箸袋、扇子箸置き等）																										
11. 26	花見川保健福祉センター健康課健康づくり班／歯科衛生士	口から始める認知症予防（口腔ケア）																										
12. 24	あんしんケアセンターにれの木台／看護師・主任介護支援専門員	介護保険サービスと施設の種類について																										
31. 1. 28	千葉市社会福祉協議会畑地区部会	大人の折り紙教室（立ち雛1対）																										
2. 25	花見川保健福祉センター健康課健康づくり班／栄養士	おいしく食べて健康に過ごすために（食事の見直し）解説・健康相談（血圧測定）																										
3. 25	あんしんケアセンターにれの木台	ロコモティブシンドロームの予防と対策																										

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
検見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 12203人、6245世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 20.3% 【地域の特徴】 検見川神社を中心とした古い町	⑥ 地域福祉活動の担い手を育成するために区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの育成・ボランティア活動の推進に努めるとともに、活動を周知し、幅広い分野におけるボランティア体験や地域活動への参加を促すなど、若者や企業ボランティア、高齢者パワーなどを活かし、人材の育成・活用に努めます。	7	・ボランティア講座 1回 ・広報紙でのボランティア募集 1回	2月にボランティア入門講座を開催した。地域、小学校の保護者等にチラシを配布するも参加希望者があまり集まらなかったため、案内の仕方に工夫が必要だと感じた。登録済みのボランティア、民生委員等に声かけし開催することができたが、近ごろの世相ではただ漠然とボランティアを募集しても、皆忙しく、自分のためになることでないと思われ集まらないことを痛感した。	B	現在ボランティア登録している人を対象に、自分のためになるボランティアは何かという講座を開き、その流れで幅を広げていきたい。
花園地区部会エリア 【人口・世帯数】 21375人、9772世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 22.3% 【地域の特徴】 JR新検見川駅北側に展開する古くからの住宅地と花見川区役所を中心とする新しい住宅地(高層マンション群を含む)からなる。東大総合グラウンドに隣接、東西に貫く桜並木は有名。西側に花見川、千本桜緑地がある。	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	・見守り活動の仕組みづくり 「向こう三軒両隣活動」の呼びかけ 「支え合い活動」の呼びかけ 仕組みの水平展開→事例発表会 ・「支え合い活動」の着手 ・平常時の支え合い活動への展開	災害時要支援者対策については、大型自治会の文化会が訓練を通して対象者の絞り込みを検討しており、今後の参考とした。市からの支援者名簿のままでは対象者が多く、自治会が戸惑う元にもなっている。参加自治会が増えないなか、朝日ヶ丘自治会が取り組みを目指して組織を改編しており今後に期待したい。地区部会として伝統的な活動は順調に経過しているが、見守り活動の仕組みは依然として難しい。その中で、地域運営委員会を中心に、民児協、花園地区町内自治会連合会を含めて、「花園おせっかい」を発足することができたことは一歩前進である。皆が当事者、全員参加で徐々にでも浸透させていきたい。	B	災害時だけでなく、日常的に支え合いのできるコミュニティを目指して、「花園おせっかい」を継続する。また、地域運営委員会を利用して地域に浸透させる。自治会でやっている福祉活動を収集し、広く紹介するなど水平展開を図る。向こう三軒両隣活動、挨拶・声かけ運動など、おせっかいの基本として、地域に展開する。
朝日ヶ丘地区部会エリア 【人口・世帯数】 11176人、5235世帯 【町内自治会数】 12町内自治会 【高齢化率】 34.4% 【地域の特徴】 戸建、団地、マンションの混じった住宅地。	⑤ 障がいのある人もない人も共に暮らしやすい地域を目指して、相互理解を深めるための啓発や交流の促進(障害者福祉施設等でのボランティア活動など)に努めます。	3,8	・ふれあいバス旅行 1回 ・ふれあい喫茶 2回	障害者とのふれあいバス旅行を実施(参加者38名、うち障害や要介護の方15名)。対象は在宅及び近隣の施設入所中の方。参加募集にあたっては、町内の掲示板や社協広報紙で案内するとともに、地区部会のメンバーが個別に連絡し、参加を促している。9月と3月にふれあい喫茶を開催。9月の喫茶では抹茶をふるまい、大変喜ばれた。喫茶会場に地域の方が手作りされたパッチワークなどの作品を展示している。その作品を見ることを楽しみに参加して下さる方がいると同時に、作品を出展された方にとっても、作品を通じて交流が生まれ、創作意欲が湧くなど、相乗効果があるため、今後もこの活動を広げていきたい。	A	大変好評な事業であるため、来年度以降も継続実施する。年々高齢化が進んでいるため、事故なく事業が実施できるようより検討を重ねていきたい。
犢橋地区部会エリア 【人口・世帯数】 10648人、5155世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 29.7% 【地域の特徴】 昔からの農村地域(犢橋町)と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。	⑦ 社協地区部会や町内自治会等が、地域における団体活動を充実するため、社会福祉協議会、あんしんケアセンター、行政等が連携し地域を支える様々な福祉情報等の共有と、わかりやすい情報として発信・受信するための仕組みづくり、住民相互の気軽に相談できる場を確保するとともに、団体同士の連携・協力により組織強化に努めます。	9,10	・広報紙発行 3回 ・いきいきサロン 計40回	広報紙年3回発行(6月・10月・3月) いきいきサロン 年54回程度開催 サロン内で地域に役立つ講座を開催するとともに、あんしんケアセンターの専門職にも参加してもらい、地域の方々が気軽に相談できる場を提供した。	A	サロン参加者が固定化しているため、広報紙などでPRを行い、新たな参加者を増やす取り組みを行う。
【人口・世帯数】 10648人、5155世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 29.7% 【地域の特徴】 昔からの農村地域(犢橋町)と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。	① 日頃から隣近所との挨拶などのコミュニケーションを図るとともに、既存の施設を有効利用した居場所づくり、親しみ、ふれあう環境づくりを推進し、地域住民が地域活動に関心を持つきっかけとなるよう、地域のイベント、祭り、町内自治会行事等の周知に努めます。また、子ども・高齢者・障害者等と地域住民が相互交流できる機会を増やし、若い世代を含めた様々な世代間の交流を通して互いを理解し合うとともに、情報交換を促進します。	9	・地区部会活動 ①昔あそび(2回) ②流しそうめん(1回) ③餅つき大会(1回) ④ふれあい事業(9団体) ・町内自治会活動 ①夏まつり(4自治会) ②敬老会(8自治会)	あと2ヶ月を残すなかで、ふれあい事業について1団体増加したほか、自治会活動の夏まつり中、さくら自治会が雇用促進事業団の運営問題もあり、134世帯から56世帯への減少により、中止の状態にある。その他は全て実施済みである。	A	少子高齢化等の地域情勢の中で、地区部会活動におけるイベント事業への参加人員の減少対策について、今後検討する必要がある。
【人口・世帯数】 10648人、5155世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 29.7% 【地域の特徴】 昔からの農村地域(犢橋町)と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。	④ 子どもの健やかな成長のため、福祉意識を醸成(福祉教育の充実)する取組を推進するとともに、子育て世帯の孤立防止や見守り活動の推進、子どもの貧困や虐待・DVの早期発見、関係機関への連絡などに努めます。	1,4,8	・昔あそび 2回 ・子ども食堂 12回 ・少年補導点検活動 2回(青少年育成委員会)	子ども食堂の2・3月開催を除き、すべて実施済みである。なお、子ども食堂は29年6月から毎月1回実施しているが、30年度は子ども及び保護者の参加が増加傾向にあり、加えて食後の手づくり工作は好評である。	S	子ども食堂の拡充強化に努めてまいりたい。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
こてはし台中学校区地区部会エリア	地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7 8,9	・現状把握 ・計画の検討	目標達成のため、部会長、副部会長、地区担当民生委員・児童委員の18名による準備委員会を6月に発足した。年数回会議を行う中で、各地区の現状と問題点を抽出し、次回会議の課題とした。 次回(今年6回目)は、対象者にアンケート調査するための内容を詰めることと、各自治会会長あてに計画の状況説明を行う事の2点について検討を行っている。アンケートは6月に民生委員が配布し回収する。	A	予定どおり事業をすすめている。来年度以降はアンケート調査の結果をふまえ、具体的な行動計画及びスケジュールを検討し実行に移していきたいと思う。
【人口・世帯数】 9436人、4060世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 27.7% 【地域の特徴】 新興住宅地と旧農村						
幕張・武石地区部会エリア	地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7 8,9	各町内会の要支援者を把握し、支援体制のネットワークを作る。	各町内会において、災害時における要支援者への支援体制を構築することができた。 災害時の要支援者の支援について、講師(熊本地震時の災害ボランティア)を招いて、研修会を実施した。	A	各町内会同士の支援体制の情報交換を行い、支援体制の充実に努める。 地域の認知症患者の増加に伴い、患者やその家族を支援するための、認知症サポーター養成講座を実施する。
【人口・世帯数】 4364人、2214世帯 【町内自治会数】 3町内自治会 【高齢化率】 26.5% 【地域の特徴】 旧住民と新住民との混合地域。高齢化が進んでいる。現在区画整理が進められている。						
花見川地区部会エリア	住民自ら健康への関心を高めるとともに、イベントや講習会、スポーツ、サークル活動など健康づくりの機会への積極的な参加や心身の健康づくりに取り組むとともに、体操・サロン等を通じた日中の居場所づくりや講演会など介護予防活動の推進に努めます。また、糖尿病対策として、標語やポスターの掲示など啓発に努めます。	5	活動サークル 75サークル	活動サークル 78サークル(10月~12月)(散歩クラブを含む)	S	新規のサークル立ち上げもあるが、高齢化で廃部もかなり出ている。
【人口・世帯数】 11267人、5536世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 39.7% 【地域の特徴】 戸建住宅(昭和30年代後半より入居)、農林地帯、UR団地(分譲)、マンション群の混在地域。						
花見川第2地区部会エリア	地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7 8,9	見守り対象者 33人	見守り対象者 37人 高齢化により、対象者が急増する可能性が高い。	S	見守り担当者と見守り対象者の日時のマッチングが難しい。一方で、緊急通報装置の普及が進まない。併用が必要。
花見川第2地区部会エリア	日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます。また、自然災害等による被害を軽減するため住宅の耐震化や家具などの転倒防止、食品の備蓄等に努めます。	6	避難所運営マニュアルの見直し、更新	町内自治会、自主防災会役員の高齢化で、マニュアルの見直しが進んでいない避難所が見受けられる。	B	年度初めに避難訓練、マニュアル見直しを徹底させる。
花見川第2地区部会エリア	地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7 8,9	・支え合い活動の実施 ・新たな担い手確保のための講座等の開催 1回	支え合い活動を引き続き実施(延べ40件程度)民生委員と連携し、地域での見守り活動を実施。新たな担い手確保のために、会議等を開催するとともに、チラシ作成等の準備を行った。 担い手確保のための講座の開催(あんしんケアセンター花見川の協力による、認知症サポーター養成講座)	A	担い手不足により、活動範囲を広げることができない現状がある。 来年度に向け、支え合い活動の広報を作るとともに、引き続き、担い手確保に向けた講座等を企画し、きっかけづくりを進める。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4こどもと子育てを支える仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
こてはし台地区部会エリア 【人口・世帯数】 6173人、2852世帯 【町内自治会数】 1町内自治会 【高齢化率】 48.1% 【地域の特徴】 昭和46年に千葉県住宅供給公社が開発した戸建中心(テラスハウス25%)の住宅街。	①	9	・研修会への参加 ・先行事例の調査 ・居場所づくりの内容の検討	居場所づくりの検討チーム(福祉活動推進員、民生・児童委員)をつくり、取組体制はできた。 研修会への参加(4名) 先行団体へ訪問研修(4名)	B	認知症への理解を深めるための講習会や訪問研修を広めていく必要がある。
	③	1,2,7,8,9	・「ご近所たすけあい」「見守り・声かけ」の活動の充実 ・「ふれあい事業」見直し検討 ・包括ケア会議などへの積極的参加	「地域支え合いの街づくり」の諸活動は充実した活動を行うことができた。 「ふれあい事業」見直しの検討については、常任理事会で検討し、今後具体的な検討を行っていくこととなった。 包括ケア会議に参加。高齢者の移動支援について検討した。	B	「ふれあい事業」の見直しについては、活動取組の体制を検討することから始める必要がある。地域関係者との連携については、より積極的な取り組みが必要である。
	⑦	9,10	・ホームページ情報発信体制・内容の充実	「こてはし台の街」ホームページを30年5月に発信することができた。 アドレス「http://kotehashidai.net」 内容①「こてはし台の街の紹介」②「社協こてはし台地区部会」③「こてはし台・横戸台ボランティアの会」 H31.2.1現在アクセス数 1,267	A	地域の関係者所と連携を深め、ホームページの内容を充実する必要がある。
天戸中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 18936人、8369世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 32.4% 【地域の特徴】 農村地域と新興住宅地域。	②	5	・サロン内での健康体操の実施 ・ラジオ体操開催場所の選定 ・講座の開催	あんしんケアセンターの協力により、サロン内で健康体操を取り入れた講座を開催した。 ラジオ体操開催場所を選定し、開催に向け準備を進めている。	B	引続き、サロン内での健康に関する講座や体操を実施する。ラジオ体操については、地元のスポート振興会と協力し実施に向け検討を行っていきたい。
	⑤	3,8	・障害者福祉施設イベントへ参画し、地域団体をまきこんだ取り組みを行う。	イベント時に、施設内で市民向けの障害に関する講演会を実施し、大変好評だった。 引続き、社会福祉法人栗の木と協力しながら、地域の方向けに、障害者の理解が進むようなきっかけづくりに取り組みたい。	B	より効果的な広報活動について検討が必要。
	⑧	6	・情報交換会開催に向けた各団体との調整	自治会と協力し、連携を密にしながら地区部会全体として防犯活動に取り組む体制づくりを行った。引続き、体制整備を行っていきたい。	B	各自治会とのより一層の連携強化が必要である。
さつきが丘・宮野木台地区部会エリア 【人口・世帯数】 10676人、5209世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 34.9% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。	⑤	3,8	・成年後見サークルの立ち上げ(NPO法人星の会と協力) ・「お日さまクラブ」や「福祉まつり」、「フォーラム」の継続実施	成年後見サークルをNPO法人「星の会」との協力で立ち上げ、月1回サークル会議を実施。 6月の「福祉まつり」で、障がいのある人もない人も、世代も越えて共に参加し、すべての人が理解しあえるやさしい町づくりを構築してきた成果として、8月にあんしんケアセンターさつきが丘との共催で『地域運営委員会-地域ケア会議-』を開催することができた。 12月の『フォーラム』は、精神障害者への理解と寄り添い方をテーマとして、稲生先生の講演後、活発な意見交換もあり、地域の事例解決・精神障害者家族との繋がり等収穫が大きかった。	S	年次計画に基づき、継続実施。『地域運営委員会-地域ケア会議-』の継続開催により、地域での活発な交流を促進し、支え合い、助け合いのできる地域社会づくりを加速する。
	⑧	6	・合同パトロールの周知 ・各自治会、町会の防犯パトロール実施状況の把握(調査・確認)	『地区部会だより』で合同パトロールを周知。自治会、町会の反応は鈍く、従来どおり、民生委員、青少年育成委員(保護者含む)が中心に活動している。 5月に各自治会、町会に防犯パトロール実施状況(見守り活動も含めた)アンケートを実施。地域全体の防犯パトロール実施状況の把握(調査確認)を行った。	A	合同パトロールの周知方法を工夫して、周知成果をあげ、合同パトロールの継続実施。年次計画に基づき実行。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
幕張本郷中学校区地区部会エリア	④ 子どもの健やかな成長のため、福祉意識を醸成(福祉教育の充実)する取組を推進するとともに、子育て世帯の孤立防止や見守り活動の推進、子どもの貧困や虐待・DVの早期発見、関係機関への連絡などに努めます。	1,4,8	・ノンノンサークル 10回 ・赤ちゃんサークル 11回	赤ちゃんサークル参加人数は201人、1歳児サークル参加人数は108人と2つのサークルに温度差が出ている。赤ちゃんサークルは対象月齢が2ヶ月からという事もあり、育児への不安、悩みも多く参加者同士の交流の場を求めていると考えられる。 また、地域の現役看護師が隔月ペースで参加していただき、身体的相談ができるのも魅力だと思われる。 1歳児サークルノンノンは、1歳児からという事で、保健センターの子育てサロン終了後に参加するサークルなので、リピーターも少ないと考えられる。	A	赤ちゃんサークルは毎回盛況で、現在のままで続けてくれればよい。 1歳児サークルノンノンは、母親がグループ化してきて、入ってこれない方が1回参加で終わってしまう例もあり、もう少しボランティアからのアプローチが必要ではないかと考えている。
【人口・世帯数】 25256人、12434世帯						
【町内自治会数】 4町内自治会						
【高齢化率】 12.8%						
【地域の特徴】 JR幕張本郷及び京成幕張本郷駅を中心に沿線を挟んで両側に広がる町。戸建も多く、マンションも比較的多い。						
畑地区部会エリア	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	・各自治会にて検討 ・地区部会定例会にて情報交換 ・支え合い活動実施 1自治会	地区部会で支え合い活動を5月より開始。地区部会エリア内すべての75歳以上の独居の方を対象に、朝のゴミ出しに限定して実施。担い手は、民生委員と一般協力者数名。依頼は3件あったが、実行したのは1件。地域の実情が見えてきた。すべての自治会単位での実施は不可。1自治会のみ有料で実施。	A	対象者を広げる？ 生ゴミ以外も行うか、担い手の募集等。 引続き、地区部会定例会にて情報交換をし、実情を把握し、検討する。
【人口・世帯数】 6159人、2738世帯						
【町内自治会数】 6町内自治会						
【高齢化率】 32.5%	⑧ 地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます。	6	・防犯パトロール実施 4自治会	防犯パトロール隊の組織は3自治会。パトロール実施は4自治会。 新規にパトロール隊を組織した自治会、中断した自治会、自主的に実施しているという自治会等があり、町会・自治会によって対応に温度差がある。	A	再度必要性を認識し、パトロールを実施するようお願いする。 役員会のついで、散歩、買い物のついでに地域を見回る。 日常生活の中で、地域の防犯を心がけていくように呼び掛けていく。
【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。						

※ 平成30年12月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5~7割)
A:概ね目標を達成した。(8~10割) C:大きく目標を下回った。(~4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	8	S A 8 B C	重点取組項目で取り組んでいる地区のうち14の自治会で住民同士による見守り活動が行われており、また、日常のちょっとした手伝いなど支え合い活動による見守りが1自治会と1地区部会エリアで行われている。 その他にいきいきサロンなど地域の催しを活用した声かけ見守りや、緊急時情報カードを活用した見守りなどに取り組んでいる。
2 高齢者を支える仕組みづくり	4	S A 4 B C	高齢者が気軽に集まり交流できるいきいきサロンやふれあい食事サービス、敬老会や地域イベントを企画実施することにより世代間交流を図り、高齢者の地域での生きがいをいづりに取り組んだ。 また、ゴミ出し支援や買い物支援など、地域の中で高齢者の生活を支える活動にも取り組んだ。
3 障害者を支える仕組みづくり	3	S A 3 B C	地域内の障害者団体との交流事業を定期的に行うほか、地域の安全マップ作成の中で危険個所の把握など障害者を支える活動を行った。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	3	S A 3 B C	子育て中世帯の交流や情報交換などの場として子育てサロンを実施した。
5 健康づくり	7	S A 7 B C	地区内の自治会やスポーツ振興会と協働での体育祭や、いきいきサロンなどの機会を活用したシニアリーダー体操やポッチャなどの活動を進めることにより健康増進に取り組んだほか、あんしんケアセンターなどと協働で健康講座や認知症講座を実施するなどして健康づくりと介護予防に取り組んだ。
6 防犯・防災に対する取組み	9	S A 9 B C	町内自治会が中心となった防犯パトロールを実施しているほか、自主防災組織が中心の防災訓練や避難訓練の開催や防災に関する講座開催。また、民児協と自治会などの協力による避難行動要支援者名簿の協定を締結するなどした。
7 担い手の拡大とボランティアの促進	9	S A 9 B C	地区内における見守り活動やいきいきサロンなどの活動を契機にして活動者の募集や啓発活動を継続して行った。
8 福祉教育・啓発	2	S A 2 B C	地区部会主催による福祉講座を開催し地域福祉への啓発活動を行ったほか、あんしんケアセンターなどと協力した講座などを活用し福祉教育の推進を図った。
9 地域のつながりづくり	23	S A 23 B C	地域内あいさつ運動の推進の他、世代間交流を促すための祭を企画開催したり、いきいきサロンや子育てサロンなど交流事業を各地区部会エリアにて行った。
10 相談支援体制と情報提供の充実	10	S A 10 B C	あんしんケアセンターによる地域ケア会議や、地区部会活動の中での各種連絡会を活用した情報共有と、広報誌発行などによる地域への情報提供の充実を図った。
今年度の振り返り	78	S 0 A 78 B 0 C 0	地域での支え合い活動や買い物支援活動など、住民による支え合いや福祉法人との協働による活動が広がってきた。

今後の課題と方針	地域福祉活動を維持し拡充していくための、担い手確保に向けた啓発や育成を進めていく。
----------	---

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日		主な議題等
平成30年度	第1回 平成30年 7月20日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長、副委員長、広報委員の選出 ・第4期市地域福祉計画及び第4期区地域福祉計画について ・区地域福祉計画 平成30年度の取組について ・区地域福祉計画 平成29年度の取組結果について ・地域福祉活動の紹介
	第2回 平成30年 11月29日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・第4期区地域福祉計画の進捗状況について ・推進協広報紙発行について ・千葉市における空き家等の利活用について ・地域福祉活動の事例紹介
	第3回 平成31年 3月22日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・第4期区地域福祉計画の取組について ・推進協広報紙発行について ・地域共生社会の実現に向けた地域における取組PR映像の受賞について ・ヘルプカードについて

◆区の地域福祉に関する好事例等

活動主体	301(作草部・天台)地区部会
取組概要	作草部・作草部町・天台エリア内において高齢者の日常生活における困りごとのニーズ調査を基に、地区部会・地区民児協・町内自治会と連携・協力して、住民主体による「301(作草部・天台)地区部会 支え合いの会」を平成30年4月に立ち上げた。 15の町内自治会から計89人が協力員に登録し、ゴミ出し、電球交換、草取りを中心に延べ800の方が利用した。
実績・今後の予定	平成30年度より活動を開始し継続中。
活動主体	山王地区部会
取組概要	地域内で買い物に不自由を感じている方への支援として、社会福祉法人(施設)と町内自治会、地区民児協、地区部会が連携・協力して買い物支援事業「ドライブサロン」を立ち上げた。 事前に利用登録した利用者を、施設の厚意によりデイサービス送迎に使用する車両を用いてスーパーマーケット等へ送迎している。(登録協力員数12人、登録利用者数11人)
実績・今後の予定	平成30年度より活動を開始し継続中。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針					
小中台東地区部会エリア											
【人口・世帯数】	① あいさつから始まる地域との関わり	9	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャーなどが連携・協力し、登下校時に通学路などで子どもたちへ挨拶をするとともに、防犯パトロールの際などに、住民同士のあいさつが浸透するよう努めます。	地区部会が、近隣校(小中台・小中台南・園生・柏台)の協力を得て、あいさつをテーマにした標語作品を募集し、「東西社協まつり(10/28小中台公民館)」で優秀作品の発表並びに表彰を行うとともに、広報紙(かわら版16号 6,000部)や町内自治会の掲示板(80か所)を通じてあいさつ運動の広報啓発を行った。また、セーフティウォッチャーが、学校周辺において、児童・生徒の登下校時のあいさつ運動に取り組んだ。 【セーフティウォッチャー登録数】 柏台小297人(H29登録数 13人)	A	地区部会が学校等の協力を得る中、あいさつの標語作品の募集を行い、広報媒体等を通じて広報啓発を行い、あいさつ運動の浸透を図る必要がある。					
28,966人、10,506世帯											
【町内自治会数】							④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して、独居高齢者や高齢者世帯等に対し、日常的な声かけやあんしんカードの配布等により見守り活動に取り組みます。	A	引き続き、地区部会が、町内自治会や民児協等と連携・協力し、住民主体の見守りや支え合い活動を拡充していく必要がある。
33町内自治会											
【高齢化率】											
27.4%											
【地域の特徴】	⑥ 地域での福祉教育の普及・啓発	8	地区部会が町内自治会や学校、各種活動団体と連携・協力し、福祉講座を企画するなど、ボランティア活動の普及啓発に努めます。	地区部会主催による福祉講座(5回開催 延べ104人参加 それぞれテーマは「福祉整理」と「日常の薬」について)を町内自治会エリアで開催するとともに、認知症への理解を深めるため、あんしんケアセンターと連携して認知症に関する講座(6月 33人)を行い、地域高齢者に関するボランティア活動の普及・啓発に取り組んだ。	A	地区部会が町内自治会・民児協と連携して、地域住民等に対し、担い手育成のための福祉講座を開催し、福祉への醸成を図るとともに、活動の場の提供を行う必要がある。					
地区部会の方が「本村」と呼ぶ園生町(一部)をはじめ、小中台町、宮野木町(一部)は、昔は山と田畑が広がっていた。昭和50年代頃に宅地開発が進み、現在は村時代からの古い住民と、戸建て、マンション等に住む新しい住民が交わっている。エリア内に小中学校が存在していない。											
【健康づくりや介護予防の普及・啓発】							⑧	5	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会がイベント等を実施する際、相互に連携・協力し、地域の活動に取り組みます。	A	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、いきいきサロンや健康に関する情報提供などに取り組むとともに、サロン活動等の拡充を図る必要がある。
27.4%											
【地域の活動】	⑨ 地域の情報の収集・発信	10	地区部会や町内自治会等が、地域の活動に関する情報を相互に共有するとともに、広報紙等で情報発信に取り組む。	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロンを実施し健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組んだ。また、民生委員や町内自治会、福祉施設(みやのぎ荘)と連携し、新たにいきいきサロン実施に向けた活動に取り組んだ。	A	引き続き、地区部会が地域の各種活動団体等と連携・協力し、イベントをはじめとする地域活動を情報収集し、広報媒体を通じて情報発信に取り組む必要がある。					
【地域の特徴】											
地区部会の方が「本村」と呼ぶ園生町(一部)をはじめ、小中台町、宮野木町(一部)は、昔は山と田畑が広がっていた。昭和50年代頃に宅地開発が進み、現在は村時代からの古い住民と、戸建て、マンション等に住む新しい住民が交わっている。エリア内に小中学校が存在していない。											
山王地区部会エリア											
【人口・世帯数】	① あいさつから始まる地域との関わり	9	学校やセーフティウォッチャーが、青少年育成委員会や町内自治会、地区部会などと連携・協力し、児童・生徒の登下校時に、あいさつ運動を継続して行うとともに、防犯パトロールの際に声かけをするなど、住民同士のあいさつ運動が浸透するよう努めます。	地区部会が小学校のセーフティウォッチャー(山王小44人)と町内自治会と連携し、登校時のあいさつ運動に取り組むとともに、安全講習会を開催(7月 30人参加)するなど、あいさつ運動の浸透に取り組んだ。	A	引き続き、児童・生徒への登下校時や防犯パトロール時のあいさつ運動を行うとともに、活動機会などを介して、住民同士のあいさつの浸透に努める必要がある。					
17,421人、8,297世帯											
【町内自治会数】							② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会や町内自治会、地域の各種活動団体等が連携・協力し、夏祭りや楽しみ会、グラウンドゴルフ大会など、幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組む。	A	引き続き、各種活動団体が、相互に連携・協力し、既存の地域活動を継続して、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組む必要がある。
11町内自治会											
【高齢化率】											
28.8%											
【地域の特徴】	③ 地域で活動している人組織同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などが、イベントや地域活動を実施の際に情報共有をおこない、相互に連携・協力に努めます。	地区部会が子育てサロンの機会と併せて、子育て世代の親向け講座「子育てヒントあれこれ(2月)」を開催し、母親世代と祖母世代との情報共有や交流の場づくりに取り組むとともに、町内自治会など各種関係団体が会議等に相互に参加し、情報共有するなど連携・協力に努めた。	A	引き続き、地域の各種活動団体が相互の情報共有や地域活動の連携・協力に努める必要がある。					
古くは戦時中、その広大な原野は軍の演習地として活用され、終戦後に開墾が始まり、人々が転入して成った地域である。エリアには内陸工業地帯が開発され、主に戸建てが立ち並ぶ。稲毛区の北部に位置し、四街道市が隣接している。											
【健康づくりや介護予防の普及・啓発】							④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協、社会福祉施設など連携・協力し、防犯パトロールエリア内での見守り活動を推進するとともに、買い物困難なエリアの一人暮らし高齢者等に対して、「ドライブサロン」の実施に取り組む。	A	引き続き、いきいきサロンや防犯パトロールなど様々な活動機会を介して住民同士の見守り活動を拡充していく必要がある。
28.8%											
【地域の特徴】											
古くは戦時中、その広大な原野は軍の演習地として活用され、終戦後に開墾が始まり、人々が転入して成った地域である。エリアには内陸工業地帯が開発され、主に戸建てが立ち並ぶ。稲毛区の北部に位置し、四街道市が隣接している。											
【健康づくりや介護予防の普及・啓発】	④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協、社会福祉施設など連携・協力し、防犯パトロールエリア内での見守り活動を推進するとともに、買い物困難なエリアの一人暮らし高齢者等に対して、「ドライブサロン」の実施に取り組む。	3町内自治会(山王町中央自治会、山王町南自治会、長沼原台自治会)が一人暮らし高齢者等に対して安否確認等による見守り活動に継続して取り組んだ。また、地区部会が民児協や福祉施設と連携・協力して、買い物に不自由を感じている一人暮らし高齢者等に対し、買い物支援事業「ドライブサロン(登録協力員数12人、登録利用者数11人)」を7月から開始するなど、住民同士の支え合い活動に取り組んだ。	A	引き続き、いきいきサロンや防犯パトロールなど様々な活動機会を介して住民同士の見守り活動を拡充していく必要がある。					
28.8%											
【地域の特徴】	⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6	地区部会と公民館が連携・協力し、防災講座(年1回)を実施するなど、災害時に備えて地域住民の防災に対する意識の向上に取り組む。	地区部会が公民館と共催で地域での防災講座を企画・実施(9月開催 30人参加)するとともに、3町内自治会の自主防災会が防災・避難訓練を実施し、地域住民に対して災害時に備えた防災意識の向上に取り組んだ。5町内自治会が千葉市と避難行動要支援者名簿の協定を継続して締結し、災害時に迅速な対応ができるよう、支援体制づくりに取り組んだ。	A	引き続き、町内自治会をはじめ地域の活動団体などが相互に連携・協力し、地域住民に対して災害時に備えた危機意識の向上の機会に取り組んでいく必要がある。					
【地域の特徴】											
古くは戦時中、その広大な原野は軍の演習地として活用され、終戦後に開墾が始まり、人々が転入して成った地域である。エリアには内陸工業地帯が開発され、主に戸建てが立ち並ぶ。稲毛区の北部に位置し、四街道市が隣接している。											

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針			
轟・穴川地区部会エリア	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、老人クラブなど各種活動団体が、地域のイベントなどを実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	町内自治会が、民児協などと相互に連携・協力して敬老会やスポーツ振興会が市民体育祭(10月実施 延べ600人参加)を実施するなど、地域での活動に取り組んだ。	A	引き続き、地域の各種活動団体が相互の活動の理解を深め、連携・協力を図る必要がある。			
⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発			2	地区部会が町内自治会やあんしんケアセンター等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン(9か所 年192回)を実施するなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組めます。			地区部会が健康課などと協力し、高齢者に対していきいきサロンを実施し、健康体操や健康相談などに取り組んだ。また、町内自治会が「ジョギング大会」を企画実施し、多くの地域住民に健康づくりの普及・啓発に取り組んだ。	A	引き続き、いきいきサロンや散歩クラブ等の活動を通じて、介護予防を含めた健康づくりの啓発・普及に取り組むとともに、多くの地域住民に参加を促し、健康増進を図っていく必要がある。
⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催		6	町内自治会が、千葉市と連携し、平常時から災害時要支援者の把握をするなど、災害時に迅速な支援ができるよう支援体制づくりに努めます。	7町内自治会(自主防災組織)が防災・避難訓練などを実施するとともに、4町内自治会が千葉市と、継続して災害時の避難行動要支援者名簿の協定を更新し、災害時に備えた支援体制づくりに取り組んだ。	A	引き続き、町内自治会自主防災組織を中心に、地域住民に対して災害時に備えた支援体制の構築に取り組む必要がある。			
稲毛地区部会エリア	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9 10	地区部会や町内自治会、各種活動団体が連携・協力し、敬老会やふれあい広場などを企画実施し、幅広い世代が交流できる場づくりに取り組めます。	地区部会が町内自治会、各種活動団体と連携・協力して敬老会(9/17 781名参加)や稲毛あかり祭、町内運動会、ふれあいひろばなどの交流イベントを企画実施し、幅広い世代の交流の場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が、相互に連携・協力し、既存の地域活動を継続して、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組む必要がある。			
③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力			9 10	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、青少年育成委員会などが、地域のイベント(敬老会やふれあい広場など)を実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組めます。			地区部会が町内自治会、民児協、スポーツ振興会、青少年育成委員会などと相互に連携・協力し、敬老会や町内運動会、ふれあいひろばなどの地域活動に取り組んだ。また、各団体間の連絡が容易となるよう地区部会の役員会を活用するなど、町内の広報掲示板などを積極的に活用し、協力体制づくりに取り組んだ。	A	地域活動を継続実施できるよう、地区部会をはじめ各種団体が相互に連携・協力を図る必要がある。
④ 地域住民の参加による見守り・支え合い			1 7	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して地域内のニーズを把握することに努め、見守り、支え合い活動の必要性について協議します。			地区部会が民児協や町内自治会と協力し、いきいきサロンや、ふれあい食事サービスを通じて、参加者への声かけによる見守り活動に取り組んだほか、住民同士の日常の交流や民生委員の活動の中など、日頃の目配りも意識した活動に取り組んだ。	A	引き続き、地区部会が、町内自治会や民児協等と連携・協力し、いきいきサロン等において、住民主体の見守りや支え合い活動を拡充していく必要がある。
⑦ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり			2 3 4 9	地区部会が公民館や社会福祉施設などと連携・協力し、いきいきサロン(4か所 年35回)や子育てサロン(1か所 年6回)を実施し、住民同士が気軽に集える居場所づくりの充実に取り組めます。			地区部会が公民館や福祉施設と連携・協力し、いきいきサロン、子育てサロンを実施した。また、地域内福祉施設でのいきいきサロン活動については開催日程を増やすなど、住民同士が身近なところで気軽に集える居場所づくりに積極的に取り組んだ。	A	引き続き、住民同士の交流が図れるサロン活動を継続するとともに、できるだけ多くの方が気軽に参加できる機会を創出する必要がある。
⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発			5	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、いきいきサロン(4か所 年35回)や子育てサロン(4か所 年6回)、散歩クラブ(1か所 年1回)を実施し、健康体操や健康相談を行うなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組めます。			地区部会が区健康課などと連携・協力して、高齢者に対していきいきサロンや、若い世代に対して子育てサロンを通じて健康体操や健康相談を行うなどした他、地区部会主催のボランティア講座やふれあい食事サービスなどの機会を活かし、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組んだ。また、地域住民に対し、地域包括ケアシステムについての講座(3月 42名参加)を開催し、地域での支え合い活動や介護予防の普及・啓発に取り組んだ。	A	引き続き、いきいきサロンなどを通じて健康づくりに取り組むとともに、あんしんケアセンターや区健康課と連携・協力し、活動内容を工夫するなど、多くの方へ普及・啓発を図る必要がある。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
稲丘地区部会エリア 【人口・世帯数】 11,619人、5,292世帯 【町内自治会数】 6町内自治会(+1マンション区*) 【高齢化率】 17.4% 【地域の特徴】 JR稲毛駅前付近は高層大規模な集合住宅が林立し、若い世代が集中して、戸建て住民を牽引する形で地域意識が好い町作りの方向に変容しつつある。集合住宅と戸建住宅が混在する稲毛の台地部で、快速の停車駅JR稲毛駅と、京成稲毛駅はバスの利用なしで行ける。エリアは6つの自治会から成るが、JR稲毛駅至近に建つ1マンション区(*)が小学校区は稲丘小、地区部会は小中台西エリアに属し、双方の地区部会活動に関わっている。	① あいさつから始まる地域との関わり	9	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャーなどが連携・協力し、登下校時に通学路などで子どもたちへあいさつをするとともに、防犯パトロールの際などに、住民同士のあいさつが浸透するよう努めます。	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャー(16人)などが連携・協力し、稲丘小の登校時に児童へのあいさつや、町内自治会が防犯パトロールの際に、住民への声掛けをおこなうなど、あいさつ運動を継続的に取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が連携・協力して住民同士のあいさつ運動の浸透に取り組んでいく必要がある。
	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、青少年育成委員会などが連携・協力し、イベント(夏祭りや敬老会、地区運動会、正月行事など)を企画実施し、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会が連携し、夏祭り(7・8月)や敬老会(9月)、町別対抗競技会(10月)、餅つき大会(1月)、夏と冬のスポーツ教室などのイベントを企画実施するとともに、町内自治会の広報や口コミを通じて、幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体がイベントなど継続して企画実施し、広報啓発を工夫するなど、幅広い世代への参加促進に取り組む必要がある。
	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会がイベント等を実施する際、相互に連携・協力し、地域の活動に取り組めます。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、民児協などが相互に連携・協力し、夏祭り(7・8月)や敬老会(9月)、町別対抗競技会(10月)、餅つき大会(1月)、夏と冬のスポーツ教室など地域のイベントや防犯・防災活動などを継続して取り組んだ。	A	各種活動団体が、地域活動を継続的に行うにあたり、引き続き、相互に連携・協力を図る必要がある。
	④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、いきいきサロンやふれあい食事サービス、グランドゴルフなどを通じて声かけによる安否確認を行うなど、見守り活動に取り組めます。	地区部会や町内自治会などが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、いきいきサロン等の機会を通じて声かけや、地域内の要支援者の情報共有を行うなど、住民同士の見守り活動に取り組んだ。	A	引き続き、いきいきサロンなどによる声かけ見守りを継続するなど、多様な活動機会を介して住民同士の見守り活動に取り組む必要がある。
	⑤ 福祉活動の中核となれる人材の発掘・育成	7	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などがイベントを実施する際、相互に活動協力者の呼びかけを行うなど、人材の確保に努めます。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などと連携し、敬老会や夏祭り、地区運動会、餅つき大会などのイベントを通じて相互に活動協力者の確保に努めるとともに、広報紙や町内自治会を通じて協力者の呼びかけを行うなど、活動協力者の確保に取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が連携・協力して、広報や呼びかけ等により地域の活動協力者の確保に取り組む必要がある。
	⑥ 地域での福祉教育の普及・啓発	8	地区部会が町内自治会や各種活動団体と連携・協力し、地域住民に対して福祉講座を企画するなど、ボランティア活動の普及啓発に取り組めます。	地区部会が町内自治会や育成委員会などと連携し、地域住民に対して防災をテーマにした福祉講座を開催(11月 29人参加)し、地域での助け合いなどボランティア活動の普及啓発に取り組んだ。	A	引き続き、地区部会や町内自治会、学校などと相互に連携・協力し、幅広い世代に対して、地域活動の理解を深め、活動協力者の確保に取り組む必要がある。
	⑦ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	2 3 4 9	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力し、町内自治会館において、ふれあい食事サービス(年18回)やいきいきサロン(5か所 年60回)、子育てサロン(1か所 年11回)を実施するなど、住民同士が集える居場所づくりに取り組みます。	地区部会が、町内自治会や民児協と連携・協力し、町内自治会館などにおいて、いきいきサロン(5ヶ所44回)や子育てサロン(1ヶ所11回)や、ふれあい食事サービス(14回)を実施し、住民同士が集える居場所づくりに取り組んだ。また、1町内自治会が、早朝ラジオ体操や、スポーツ振興会が実施するスポーツクラブなど、住民同士が気軽に集える居場所づくりに取り組んだ。	A	引き続き、住民同士が身近なところで気軽に集える居場所づくりを継続して取り組む必要がある。
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課等と連携協力し、高齢者に対していきいきサロン(5か所 年60回)やふれあい食事サービス(年18回)、子育て世帯に対して子育てサロン(1か所 年11回)を実施するなど、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組めます。	地区部会がスポーツ振興会や町内自治会と連携・協力し、いきいきサロン(5ヶ所44回)や子育てサロン(1ヶ所11回)、ふれあい食事サービス(14回)、自治会における早朝ラジオ体操や、小学校を利用したスポーツクラブ活動などを実施して高齢者や子育て世代に対して健康づくりや介護予防に取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が連携・協力して幅広い世代に対してイベントなどを介して健康づくりの普及・啓発に取り組む必要がある。
	⑨ 地域の情報の収集と発信	10	地区部会が町内自治会、民児協、関係機関等と連携協力して会議等に相互に参加し、情報を共有するとともに、広報紙(年3回)等により地域の活動の情報発信に取り組めます。地区部会が町内自治会、民児協、関係機関等と連携協力して会議等に相互に参加し、情報を共有するとともに、広報紙(年3回)等により地域の活動の情報発信に取り組めます。	地区部会が町内自治会、民児協、関係機関等と連携協力して会議等に相互に参加し、情報共有を行うとともに、地域住民に対して、地区部会だより(7月:3,600部、11月:3,200部、3月:3,900部発行)や町内自治会の広報紙などにより、地域活動の情報発信に取り組んだ。	A	各種活動団体が、相互に連携・協力して地域の活動情報を共有し、地域住民に対して広報紙等により必要とされる情報の発信に取り組む必要がある。
	⑩ 身近な地域の相談相手の確保	10	地区部会や町内自治会や民児協などが、各々の活動を通じて顔見知りの関係を構築し、身近な相談相手となる関係づくりに努めます。	地区部会や町内自治会、民児協など各種団体の地域活動を通じて、地域住民と顔見知りの関係を築き、身近な相談相手となる関係づくりに努めた。	A	引き続き、各種活動団体が、地域活動を介して地域住民と顔なじみの関係づくりに取り組んでいく必要がある。
	⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6	町内自治会自主防災組織が千葉市と連携協力し、地域住民に対して、災害時に備えて防災訓練や避難訓練を実施するなど、平常時からの防災への意識の向上に努めます。	3町内自治会が千葉市や消防と連携協力し、地域住民を対象とした防災訓練を実施するとともに、避難所運営員会が稲丘小学校で避難所開設訓練(9月)を実施するなど、住民一人ひとりの防災意識の向上に取り組んだ。	A	引き続き、地域住民に対して、防災訓練などを介して、災害時に備えた危機意識の向上に取り組んでいく必要がある。
	⑫ 地域住民を地域で守る取り組み	6	町内自治会等が警察と連携し、地域住民の防犯意識を高めるために防犯パトロールを行うなど、住民同士の防犯活動に取り組めます。	町内自治会が地域内の小・中学校(稲丘小、稲毛小、小中台南小、稲毛中)のPTA、青少年育成委員会と連携し、危険個所のチェックを行い、毎年更新するエリア内危険個所マップの作成に取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が、連携・協力し、地域住民に対して防犯活動に取り組む必要がある。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
千草台中学校地区部会エリア 【人口・世帯数】 72,042人、32,972世帯 【町内自治会数】 9町内自治会 【高齢化率】 25.1% 【地域の特徴】 2,100世帯から成る千草台団地を中心に、戸建て、マンション等がある全9自治会で構成されている。エリア内には千葉県総合スポーツセンター、千葉都市モノレールも走り、また京葉道路と国道で分断されているのも特徴的である。最近では萩台町の旧水田地帯に新築戸建の開発が進んでいる。前記の千草台団地の高齢化率は区内3位の40.4%である。	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会が町内自治会、スポーツ振興会などが連携・協力し、イベント(夏祭りや敬老会、地区運動会、文化祭など)を企画実施し、幅広い世代層が交流できる場づくりに取り組みます。	町内自治会が夏祭り(7月)や敬老会(9月)、どんど焼き(1月)、昔遊び会(2月)など実施する他、スポーツ振興会が夏休みのラジオ体操や地区運動会を継続実施するなど、町内自治会などの広報紙やロコミを通じて、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、地域の各種活動団体が相互に連携・協力して、幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組む必要がある。
	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会などが、イベントなどを実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会などが夏祭りや敬老会、地区運動会などを相互に連携・協力して開催し、地域活動を継続的に取り組んだ。また、地域内5団体(地区部会、コミュニティづくり懇談会、スポーツ振興会、青少年育成委員会、自治会連協)が実行委員会形式で文化祭(11月)や昔遊び(1月)を継続実施し、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が地域活動を行うにあたり、連携協力を図っていく必要がある。
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会が町内自治会やあんしんケアセンター、区健康課等と連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロン(3か所 年36回)や子育て世帯に対してちびっこ保育などを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組めます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンター、シニアリーダー等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン(26回)やシニアリーダー体操(12回)、子育て世代に対してのちびっこ保育(子育てサロン)を実施するなどした。また、シニアリーダー体操との連携も加えて健康づくりと介護予防の普及・啓発に取り組んだ。	A	引き続き、地区部会があんしんケアセンター、シニアリーダーなど各種活動団体と、連携・協力して、幅広い世代へ健康づくりの情報提供などに取り組んでいく必要がある。
	⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6	町内自治会が千葉市と連携・協力し、地域住民に対して避難訓練や避難行動要支援者名簿の締結など、平常時から災害時に備えた支援体制づくりに努めます。	2町内自治会(自主防災組織)で独自に防災訓練や避難訓練を行った他、3町内自治会が千葉市と避難行動要支援者名簿の締結を継続して行った。また、避難所運営委員会を新たに立上げ、災害時の支援体制づくりに取り組んだ。	A	引き続き、町内自治会を中心に各種活動団体が連携・協力して、災害時に備えた支援体制づくりに取り組む必要がある。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
草野地区部会エリア						
【人口・世帯数】 20,821人、9,917世帯	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	町内自治会やスポーツ振興会、青少年育成委員会などが連携協力し、イベント(夏祭りやラジオ体操、敬老会、地区運動会など)を企画実施するなど、幅広い世代が交流できる場づくり取り組みます。	町内自治会がスポーツ振興会や青少年育成委員会と連携・協力し、夏祭りやラジオ体操、敬老会、運動会などを継続して企画・実施した他、町内自治会主催の行事や防災訓練を実施するなど、幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が幅広い世代が参加できるイベント活動など企画実施し、広報紙などを通じて参加促進に取り組む必要がある。
【町内自治会数】 21町内自治会						
【高齢化率】 31.0%						
【地域の特徴】 京葉道路の一部、穴川インターチェンジの一部をエリアに含み、概ねエリアの中央を走る国道16号線を境に東西へまたがっている昔は山だらけだったという地域には古くからの戸建て、アパート群の中に新設のマンションが建設され、新旧住民が混在している。エリア内で一番世帯数の多いあやめ台団地は、昭和41年に入居開始から48年が経過、約半世紀を経た今、稲毛区内で5番目の高齢化率(37.2%)、住民の3人に1人は高齢者となっている。高齢者(高齢化・孤立死等)と子育て(低所得・家庭崩壊等)の2つが顕著な問題である。						
⑦ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり						
⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会があんしんケアセンターや区健康課と連携・協力し、いきいきサロン(11か所 年132回)や子育てサロン(2か所 年22回)、散歩クラブ(2か所 年24回)などを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組めます。	地区部会が町内自治会や民児協、区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロン(11会場128回)、散歩クラブ(1会場12回)や、若い世代に対して子育てサロン(2会場22回)を継続して実施するとともに、健康講座や車いす講座、認知症サポーター養成講座などを実施して健康づくりや介護予防の啓発に取り組んだ。	A	引き続き、地区部会や各種活動団体等が、連携・協力して高齢者に対して介護予防の提供が図れる機会を設けていく必要がある。	
⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6	地区部会や町内自治会、民児協などが千葉市と連携協力し、地域住民に対して災害時に備えて防災訓練や防災講座などを実施するなど、防災意識の向上に努めます。	10町内自治会(自主防災)が千葉市消防署等と連携・協力し、地域住民に対して防災訓練や避難訓練を実施するなど、住民一人ひとりの災害時に備えた危機意識の向上に取り組んだ。また、避難所運営委員会が区地域振興課と協力して、宿泊を兼ねた防災訓練を行うなど、防災意識の向上に取り組んだほか、地域福祉活動推進委員会による防災アンケートを基にした交流会を行い、地域内防災意識の向上に努めた。	A	引き続き、町内自治会を中心に防災訓練や避難訓練などの機会を活用し、住民に対して災害時に備えた危機意識向上に取り組む必要がある。	
緑が丘地区部会エリア						
【人口・世帯数】 12,210人、4,452世帯	① あいさつから始まる地域との関わり	9	地区部会が学校やセーフティウォッチャー、町内自治会などと連携協力し、学校周辺及び通学路においてあいさつ運動を実施するとともに、防犯パトロールによる声かけを行うなど、地域内のあいさつ運動の浸透に努めます。	町内自治会や老人会が地域の防犯パトロールや、セーフティウォッチャーによる、宮野木小の登下校時の際に声掛けを行うなど、地域内のあいさつ運動に取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が連携・協力して住民同士のあいさつ運動の浸透に取り組んでいく必要がある。
【町内自治会数】 21町内自治会						
【高齢化率】 31.7%						
【地域の特徴】 柏台、長沼町の一部、宮野木町の一部、園生町の一部、あやめ台の一部をエリアとしている。あやめ台団地内の一街区、二街区はあやめ台小学区、三街区は柏台小学校区と、団地内で学区が分かれている。町がつく場所には古くからの住民と、最近立ち始めた戸建て等に転入してくる新しい方が融合している。						
③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会等がイベント(緑ンピックなど)や交流会(民児協と子どもルーム交流など)の実施の際に相互に連携・協力し、地域活動に取り組めます。	地区部会をはじめ町内自治会や民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会など、地域の各種団体が企画実施する緑ンピック(10/21 831人参加)や、長期休業期間の子どもルームの児童を対象に、民児協が訪問し、交流会を行うなど、連携・協力して活動の場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、地域の各種活動団体が地域活動を継続的に行うために、連携・協力する必要がある。	
④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力して、高齢者等に対して日常的な声かけなどによる見守り活動やゴミ出し等、住民同士の支え合い活動に取り組めます。	1町内自治会において、ゴミ出し等の支え合い活動を継続的に取り組んだ。また、民児協、町内自治会が連携・協力して、地域の高齢者に対して、見守りや支え合い活動に関するアンケート調査を行い、ニーズ把握に取り組んだ。	A	引き続き、地域の各種活動団体と連携・協力して、住民主体の見守り・支え合い活動に取り組んでいく必要がある。	

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針						
301(作草部・天台)地区部会エリア	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが連携・協力して、「社協まつり(敬老会)」や「地区運動会」、「都賀の子まつり」、「夏休みラジオ体操大納会」等を実施し、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会・スポーツ振興会や学校、施設と連携・協力し、「社協まつり(11月)」、「都賀の子まつり(10月)」「地区運動会(10月)」「地域交流バザー(10月)」「クリスマスカード配布」(12月)「地域高齢者と小学一年生の昔遊び交流」(1月)などのイベントを介して幅広い世代が参加・交流できる場づくりに継続して取り組んでいる他、4団体(町内自治会・スポーツ振興会・PTA・地区部会)共催で「第3回夏休みラジオ体操大納会(9月)」を行った。	A	引き続き、各種活動団体が既存の地域活動を連携・協力し、創意工夫を図り、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組む必要がある。						
【人口・世帯数】 8,243人、3,887世帯				④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会・民児協と連携・協力し、高齢者等に対してゴミ出しや買物のお手伝いなど、身近な住民同士の支え合い活動に取り組めます。	A	引き続き、地区部会が、町内自治会や民児協等と連携・協力し、住民主体の支え合い活動を拡充していく必要がある。				
【町内自治会数】 14町内自治会						⑨ 地域の情報の収集と発信	10	地区部会や町内自治会、民児協、各種活動団体・関係機関が相互に会議等に参加し、情報共有するとともに、広報紙などを通じて地域住民に地域の活動等の情報発信に取り組めます。	A	各種活動団体が、相互に連携・協力して地域の活動情報を共有し、地域住民に対して広報紙等により必要とされる情報の発信に取り組んでいく必要がある。		
【高齢化率】 23.3%								⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6	地区部会や町内自治会自主防災会などが連携協力し、避難所開設訓練や防災講座等を実施するなど、地域住民に対して災害時に備えた防災に関する意識の向上に取り組めます。	A	引き続き、町内自治会を中心に防災訓練や避難訓練などの機会を活用し、住民に対して災害時に備えた危機意識向上に取り組む必要がある。
【地域の特徴】 中央区、若葉区との境に接しているため、地域内にある都賀小学校へは稲毛区、中央区から、千草台東小学校へは若葉区、中央区、稲毛区の児童が通学している。また、都賀中へは稲毛区、若葉区、中央区の生徒が通学している。自治会が結成されていない主なマンションは5カ所、350世帯ある。										① あいさつから始まる地域との関わり	9	地区部会が学校やセーフティウォッチャーと連携し、通学路や学校周辺、地域内での声かけを行うなど、住民同士のあいさつ運動の浸透に取り組めます。
【人口・世帯数】 8,846人、4,593世帯	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会が町内自治会や民児協、各種活動団体と連携・協力して幅広い世代が参加できるイベント「社協まつり(11月)」などを実施し、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。									A
【町内自治会数】 7町内自治会			⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会が区健康課やあんしんケアセンター、ポッチャ同好会などと連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン(2か所 年6回)や、ふれあい食事サービス(年10回)を実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組めます。							A
【高齢化率】 22.6%					⑫ 地域住民を地域で守る取り組み	6	地区部会が町内自治会や民児協、各種活動団体と連携・協力して防犯活動協力者を確保し、自転車に防犯ステッカーを掲示するなど、地域内の防犯活動に取り組めます。					A
【地域の特徴】 JR線を境に、南に走る国道357号線までの緑町、黒砂、黒砂台1丁目~2丁目エリアとし、中心を京成線が東西に走っている。文教施設があり、または隣接していることもあり、日中の学生数、またエリアにも学生が点在し居住しているのも特徴である。							⑨ 地域の情報の収集と発信	10	地区部会が町内自治会、民児協、各種活動団体・関係機関が相互に会議等に参加し、情報共有するとともに、広報紙などを通じて地域住民に地域の活動等の情報発信に取り組めます。			A
【人口・世帯数】 8,846人、4,593世帯									⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6	地区部会や町内自治会自主防災会などが連携協力し、合同の防災訓練(7月開催・78名参加)や避難所開設訓練(9月開催・80人参加)を開催するとともに、災害講座(9月開催・74人参加、11月・50人)を実施するなどし、自治会未加入エリアへのフォローとして地区部会広報誌の増刊号(災害特集)を配布することで広く防災意識向上に取り組んだ。	A
【町内自治会数】 7町内自治会	① あいさつから始まる地域との関わり	9									学校(保護者)が、通学路や学校周辺であいさつ運動を行うとともに、地区部会などのお知らせ文書封筒、回覧板、広報誌などであいさつ運動のPRを行い、子どもから大人までが顔なじみになるよう関係づくりに取り組んだ。	A
【高齢化率】 22.6%			② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9							地区部会が町内自治会や民児協、各種活動団体等と連携・協力して、地域綱引き大会(6月)や納涼祭(8月)、敬老会(9月)、社協まつり(11月)を実施するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組んだ。	A
【地域の特徴】 JR線を境に、南に走る国道357号線までの緑町、黒砂、黒砂台1丁目~2丁目エリアとし、中心を京成線が東西に走っている。文教施設があり、または隣接していることもあり、日中の学生数、またエリアにも学生が点在し居住しているのも特徴である。					⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5					地区部会がポッチャ同好会と連携し、高齢者向けにいきいきサロンを開催した他、ふれあい食事サービスや地区部会主催の健康講座(まちかどお薬講演会)などにより健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んだ。	A
【人口・世帯数】 8,846人、4,593世帯							⑫ 地域住民を地域で守る取り組み	6			地区部会が、町内自治会や民児協と連携・協力し、高齢者等に対して、声かけなどによる安否確認等による見守り活動に継続して取り組むとともに、「あいさつ運動」(9月と1月)や「防犯ステッカー」を防犯活動協力者の自転車に掲示するなどして、地域内の防犯活動に取り組んだ。 また、青少年育成委員会がエリア内の小中学校の生徒指導教員、補導員、主任児童委員の情報交換会(7月、10月)や、長期休業期間の防犯パトロール強化などに取り組んだ。	A

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
小中台西地区部会エリア 【人口・世帯数】 21,299人、12,127世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 22.7% 【地域の特徴】 小中台1丁目から9丁目までがエリアであり、昔からの旧戸建て住宅の旧住民と、新設の大型マンションに転入して暮らす新住民とが混在しているのが特徴である。	① あいさつから始まる地域との関わり	9	地区部会が町内自治会・学校・青少年育成委員会と連携・協働し、あいさつをテーマにした標語の作品募集を行い、「東西社協まつり(10月)」や広報紙などで作品の広報啓発に取り組みます。また、地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して、ステッカー等により、地域住民に「あいさつ・声かけ運動」の浸透に取り組みます。	地区部会が近隣校(小中台小・小中台南小・園生小・柏台小)の協力を得る中、あいさつをテーマにした標語作品を募集し、「東西社協まつり(10/28 小中台公民館)」で優秀作品を発表並びに表彰を行うとともに、あいさつ運動のステッカー(400枚)を町内自治会の掲示版などに掲示を行うなど、あいさつ運動の浸透に取り組んだ。また、セーフティウォッチャー(小中台小 811名 小中台南小 393名 園生小 115名)が青少年育成委員や民生委員と連携・協力して登下校時のあいさつ運動や、町内自治会が防犯パトロールを兼ねてあいさつ・声かけ運動に取り組んだ。	A	地区部会が学校等の協力を得る中、あいさつの標語作品の募集を行い、多様な広報媒体や活動機会を通じて広報啓発し、あいさつ運動の浸透を図る必要がある。
	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会が町内自治会や民児協、各種活動団体と連携・協力して「東西社協まつり(10月)」などイベントを企画実施するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協、商工会、学校などと連携・協力し、幅広い世代が参加交流できるよう企画内容を創意工夫して、「東西社協まつり(10/28 小中台公民館)」を継続的に実施し、世代間の交流に取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が幅広い世代が参加できるイベント活動など企画実施し、広報紙などを通じて参加促進に取り組む必要がある。
	④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	17	地区部会が町内自治会や民児協と連携し、一人暮らし高齢者等に対して日常的な声かけなどの安否確認等による見守り活動に取り組めます。	6町内自治会が一人暮らし高齢者に対して訪問による声かけや防犯パトロール等により安否確認の見守りを継続的に取り組んだ。また、地区部会が町内自治会や民児協と連携・協力し、いきいきサロンの活動を介して高齢者等の見守りに取り組んだ。	A	引き続き、地区部会が、町内自治会や民児協等と連携・協力し、住民主体の見守りや支え合い活動を拡充する必要がある。
弥生地区部会エリア 【人口・世帯数】 1,047人、591世帯 【町内自治会数】 3町内自治会 【高齢化率】 24.5% 【地域の特徴】 稲毛区弥生町及び黒砂台3丁目の一部が対象地域。稲毛区の南部に位置し、JR西千葉駅、京成線みどり台駅から徒歩圏内の住宅地となっており、千葉大学に隣接していることも特徴の一つである。弥生町自治会、弥生県営住宅弥生会の2町内自治会で構成され、総世帯数は約590世帯、他の地区部会と比較すると、非常に小さな規模の地区である。	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会が幅広い世代が参加して楽しめるイベント(「ハロウィン祭り」や「ハーティちゃんの日」など)を企画実施するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会が「ハロウィンパーティ(10月)」「ハーティちゃんの日(12月)」や「くるま座Q&A」など企画実施するとともに、町内自治会の回覧や掲示板、ロコミなどを通じて、幅広い世代の参加を促して交流の場づくりに取り組んだ。	A	引き続き、地区部会や町内自治会、民児協などと連携・協力して、幅広い世代が参加交流できるイベントなどを継続的に取り組む必要がある。
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会があんしんケアセンターや区健康課と連携して、高齢者に対して、いきいきサロン(1か所 年8回)や講座(「出前講座(年1回)や「くるま座Q&A(年2回)」など)を開催し、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みます。	地区部会が、あんしんケアセンターや行政と連携し、高齢者に対して出前講座や「くるま座Q&A」を開催し、健康に関する相談や情報提供を行うとともに、いきいきサロンを実施し、健康増進に取り組んだ。	A	引き続き、地区部会が、区健康課やあんしんケアセンターなどと連携協力し、講座などを介して、幅広い世代へ健康づくりの普及啓発に取り組む必要がある。
	⑨ 地域の情報の収集と発信	10	地区部会が町内自治会や民児協、学校などと連携して、地域の情報収集に取り組み、広報紙や自治会回覧、学校の通知などを通じて地域住民に地域活動の情報発信に取り組めます。	地区部会が、広報紙「やよいかわら版(7月、3月発行)」を通じて地域住民に地域活動等の情報発信に取り組むとともに、弥生地区フォーラム事業の一環として弥生小学校、保護者会などと協力して、「地域安全マップ」を作成し、小学校に通う児童の全世帯に配布や、町内自治会内で回覧するなど、地域活動の情報発信に取り組んだ。	A	引き続き、各種活動団体が、相互に連携・協力して地域の活動情報を共有し、地域住民に対して広報紙等により必要とされる情報の発信に取り組む必要がある。

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5~7割)
A:概ね目標を達成した。(8~10割) C:大きく目標を下回った。(~4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	7	S A 1 B 4 C 2	見守り活動の仕組みづくりを重点項目とした地区部会エリアは、14エリア中3エリア(重点項目外で取り組んでいるエリアは4エリア、他自治会単位での取組あり)で、広報等による活動への働きかけやあんしんカードの配付、目配り、訪問、電話などを実施するとともに、協力員等による情報交換、会議を開催した。
2 高齢者を支える仕組みづくり	6	S 1 A 5 B C	助けあい活動の仕組みづくりを重点項目とした地区部会エリアはない中、生活支援サービスに取り組むエリアは14エリア中5エリアあり、他自治会単位での独自の取組も進んでいる。いずれの取組も日常生活上のちょっとした困りごとへの支援であり、ケースの共有、会議等を開催し、継続、充実に努めた。
3 障害者を支える仕組みづくり	0	S A B C	障がい者を支える仕組みづくりを重点項目とした地区部会エリアはない中、地区部会に設置の障害者福祉委員会が中心となり、施設及び心身障害児慰問、バス旅行、料理教室、交流会、各種施設行事などとおし、14エリア中9エリアにおいて相互連携、協力のもと各種活動に取り組んだ
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	11	S 2 A 8 B 1 C	こどもと子育てを支援する仕組みづくりを重点項目とした地区部会エリアは、14エリア中5エリア。子育てサロン(8事業53回、区全体で9エリア14事業77回)の実施の他、同サロン未実施の5エリアでも小中学生等と地域住民が手を携え、花植え、お話し会、芋煮会、凧揚げ交流会、工作教室、昔遊び等の行事を実施した。
5 健康づくり	4	S 1 A 3 B C	地域でできる介護予防健康づくりを重点項目とした地区部会エリアは、14エリア中4エリアあり、歩こう会、グラウンドゴルフ大会、ラジオ体操、ポッチャ等を実施した。他いきいきサロン(13地区37事業339回)、散歩クラブ(6地区9事業57回)、いきいきサロン未実施の1エリアでも自治会主体の健康づくり活動に取り組んだ。
6 防犯・防災に対する取組み	7	S A 3 B 3 C 1	防犯を重点項目とした地区部会エリアは14エリア中2エリア。いずれのエリアも全ての町内自治会が主体となりパトロール活動を実施した。防災を重点項目とした地区部会エリアは14エリア中4エリア。作成済の防災マップの更新、火災予防の注意喚起資料作成・配付、自主防災組織立ち上げの働きかけ等に取り組んだ。
7 担い手の拡大とボランティアの促進	4	S 1 A 3 B C	活動の担い手となれる人材発掘を重点項目とした地区部会エリアは14エリア中3エリア。ボランティア講座、ボランティア活動研修会等の開催により、人材確保に努めた。重点項目以外の地区部会エリアにおいてもボランティア講座(9地区27回)をはじめ、広報紙や講座案内チラシの中でボランティア募集を呼びかけた。
8 福祉教育・啓発	2	S A 2 B C	地域での福祉教室等開催と活動支援を重点項目とした地区部会エリアは14エリア中1エリア。手話講座等を実施し、福祉の学びを深めた。重点項目以外の地区部会エリアでは、花植え、昔遊び、小学生との歳末たすけあい街頭募金活動やふれあい給食会、高校生と保育園の交流事業等を通し福祉のこころを育んだ。
9 地域のつながりづくり	13	S 1 A 8 B 3 C 1	地域のつながりづくりとして活動団体同士の連携・交流を重点取組項目とした地区部会エリアは14エリア中6エリア。身近な福祉問題や見守り・支え合い活動についての地域ケア会議やエリア内の連協、民児協等各種団体での合同会議、隣接地区部会の連携による講座等に取り組む、連携・交流を図った。
10 相談支援体制と情報提供の充実	3	S 1 A B 1 C 1	相談支援体制づくりを重点項目とした地区部会エリアはない中、2地区部会エリアにおいていきいきサロンやバザー等の事業実施時にあんしんケアセンターとの連携によるよろず相談窓口を設けた。情報提供に関しては全14地区部会エリアにおいて、広報紙を発行(14地区37回)し、地域福祉活動の情報提供を行った。
今年度の振り返り	57	S 7 A 33 B 12 C 5	・目標に対する実績が、S、Aで7割達成(S:約12%、A:約58%)、加えてB(一部目標達成:約21%)を含めれば9割に及び、計画の進捗を図ることができた。 ・計画名称にある「支え合い」については、単に生活支援サービスだけでなく、上記の各取組みの殆どの中でその要素が含まれ果たされている。

今後の課題と方針	地域福祉活動の中核を担う後継者及び実働部隊の人員不足、活動が地域に浸透していない、他組織との情報共有不足などが共通課題である。継続した担い手の確保、活動の啓発及び参加促進、様々な人、団体との連携、協力により、各地区部会エリアの取組項目を推進していきたい。
----------	---

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日		主な議題等
平成30年度	第1回 平成30年 6月29日(金)	1)若葉区支え合いのまち推進協議会正副委員長の選任について 2)運営企画委員の選任について 3)委員の自己紹介および活動紹介 4)平成30年度の年間スケジュールについて
	第2回 平成30年 9月26日(水)	1)第4期若葉区支え合いのまち推進計画重点取組項目の進捗状況記録および地域福祉活動取組票について(東京情報大学・あんしんケアセンター千城台・生活支援コーディネーター中野学園からの発表) 2)「平成30年西日本豪雨」における災害ボランティア運営支援のための職員派遣について
	第3回 平成30年 12月19日(水)	1)地域福祉活動の取組内容について(植草学園大学、老人クラブ連合会の各委員が発表) 2)「平成30年度若葉区支えあい助け合い団体の方々の交流会・話し合いの会について」の報告について
	第4回 平成31年 3月20日(水)	1)地区部会活動の中での課題と取組みについて 2)「若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)」についての報告

◆区の地域福祉に関する好事例等

※詳細は裏面

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
坂月地区部会エリア						
【人口・世帯数】 4,037人、1,850世帯	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	・毎年実施している、歩こう会(2回)、グラウンドゴルフ大会(1回)の回数を、計4回に増やす。 ・ラジオ体操の会場について、地域に働きかけ、一か所増やす。	・歩こう会(2回)、グラウンドゴルフ(1回)実施できた。 ・ラジオ体操について、会場2か所(坂月台、小倉町)で実施できた。	A	・グラウンドゴルフ、歩こう会の開催に係る日程調整が課題である。 ・小倉町のラジオ体操は、回数を増やすのが困難であることが課題である。
【町内自治会数】 5町内自治会						
【高齢化率】 22.7%	⑭ 防犯・防災意識を高め実践する。	6	3年間のうち、2年目で防災マップを発行する。	防災マップ作成に向けた準備として、新たな住宅・道路等の把握を行うことができた。	B	・住宅、道路などが随時新設、変更されるため、防災マップへの最新情報の落とし込みが必要である。検討し、進めたい。
【地域の特徴】 戸建住宅が少しずつ増え、新住民も増えてきているが、多くの生徒は、千城台西小学校へ通学しているため、エリア内にある坂月小学校(市内で最少人数)に通学する生徒は少ない。						
⑯ 地域福祉に関する情報の発信	10	広報誌「あさつゆ」に関して、様々な福祉の観点から、広報誌の内容の拡充・回数の増加を目指す。3回の発行を目標とする。	広報誌「あさつゆ」を4回発行した。	S	・H29年度まで年2~3回の発行だった広報誌を年4回発行とした中、広報の記事の拡充と収集をどう進めていくかが課題である。	
貝塚地区部会エリア						
【人口・世帯数】 6,113人、3,163世帯	① 地域ぐるみで声掛け・あいさつ運動の実施	9	・従来から行っている都小学校セーフティウォッチャーによる登下校時の見守りや北貝塚小学校の登下校時の見守りの充実を図る。 ・高齢者への声掛けを心がけ、サロン開催時に状況を確認し、必要な対応を検討する。	・北貝塚小学校のセーフティウォッチャーを1人増員した。見守りの場所を増やすことができた。 ・サロン開催について、高齢者へ個別に呼びかけを行い、ふれあいの機会を増やすことができた。	A	・子どもの見守りを行う人数を増やすことが課題である。 ・北貝塚小学校のH31年度新入生は、5組となり、一段と児童数が増加する。また、道路の整備が進み、通行量も年々増加しているため、見守りを充実させる必要性が大きい。
【町内自治会数】 9町内自治会						
【高齢化率】 19.6%	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	従来から行っている健康セミナー、芋煮会の行事の内容を充実させ、世代を超えて楽しめるように工夫する。地域(各町会自治会)において、魅力あるイベントを企画・実行する(医療関係、手芸等の講座の開催)。	芋煮会にジャズ演奏会を加え、充実を図ったことが、参加者の増加につながった。	B	講座を開催し、楽しめる機会を増やしたかったが、思うように実施ができなかった。来年度は、実施スケジュールや講師の都合等を考慮して、しっかり計画を立てたい。
【地域の特徴】 代々続く旧家の多いエリアと、造成地へ戸建てが立ち、そこへ住む転入住民、賃貸住宅の多いエリアなどが混在し、古くから住宅のあるエリアでは2世代、3世代同居の家も多い。						
⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	・地区部会が地域の高齢者の仲間づくりや交流の場として、ふれあいきいきサロンの立ち上げ、充実を図る。 ・自治会単位で行っているサロンを地区全体へ拡大する。 ・従来から行っている「お話し会」(子どもが集まり、工作をしたり自由に過ごしたりする場)の充実を図る。	・民生委員が中心となり、いきいきサロンを年5回開催した。 ・各自治会長がサロンに出席し、見学した。 ・子どもの「お話し会」を2回行った。	A	・いきいきサロンの内容の充実を図り、参加人数を増やしたい。 ・未参加者へ周知する方法を検討し、スタッフの負担軽減に努めたい。	
⑨ わたしたちのまちの福祉を考える会(仮称)の設置	10	福祉活動推進委員を中心とした各町内自治会や民生委員・児童委員などによる情報交換会を実施する。	地区部会の取組として従来から行っている芋煮会、健康セミナーと、今年度から始めたいきいきサロン(貝塚クラブ)での反省会や改善点の検討を通じて、情報交換会の下地をつくることができた。	B	・情報交換の全体会議の設置については各町内自治会でそれぞれ状況が違うことが多いため、共通の課題づくりが難しい。 ・町内自治会での独自の取組みを全体の取組みで話せる話し合いの場を作る努力が必要と感じている。	
⑬ 防犯活動の実施	6	・町内自治会等で、定期的に防犯パトロール活動を実施する。 ・パトロールの人員増を図るとともに、未結成地区を無くす。 ・高齢者のサロン等で「振り込め詐欺」などの例をあげ、注意を促す。	・各町内自治会において、防犯パトロールを確実に行った。 ・空き巣泥棒の被害があったため、回覧板で注意喚起を行った。	B	サロン等で、泥棒や詐欺の注意喚起をする機会を増やしていきたい。	
⑭ 防災・減災活動の実施	6	・各町内、自治会で防災組織は整っているため、内容の充実を図る。 ・PR活動により、災害(地震等)の確率が高い地域であることの認識を高め、助け合いのできる雰囲気づくりを行う。 ・防災に関する講座を開催する。	・火災予防について、注意喚起する文書を作成し配付した。 ・貝塚東部地区では、住宅の増加により、防災意識が薄れているため、会合などで防災・減災について話す機会を増やす。 ・講座の開催はできなかった。	B	防災・減災の意識を高めるための講座を開催していきたい。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
桜木地区部会エリア						
【人口・世帯数】 15,212人、7,037世帯	② 子育てしやすい環境づくり	4	・子育てサロン「ととけっこー」を年9回実施する。 ・「ととけっこー」の安定した運営を図るため、ボランティアを増やし、多くの人々がサロン運営に関わることができる仕組みづくりを行う。 ・地域の子育て関連施設との連携を行う。 ・協力者の延べ人数を44人を目標とする。	・子育てサロン「ととけっこー」を年9回実施した。 ・地域の子育て関連施設である桜木保育所との連携を始めたことが、大きな成果である。今年度は年3回(6・11・2月)、保育所の先生2~3人が引率の下、年長児が遊びに来てくれた。 ・協力者の延べ人数:37人	S	桜木保育所との連携については、平成31年度も同様の活動を続ける予定。(桜木保育所の所長先生と調整済み)
【町内自治会数】 20町内自治会 【高齢化率】 24.6% 【地域の特徴】 幹線道路が複数本通っており、地域を分断している。 住宅地が多く、古くからの住民に加え、新住民が増えてきている。						
⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	・高齢化が進む中、各町内会においてそれぞれ工夫を凝らし、「ふれあいいきいきサロン」を月に1~2回実施しているが、今後は多くの高齢者が集えるサロンを目指し、ボランティアの参加も増やしたい。サロンを一か所増やすことを目標とする。	・ボランティアの参加について、全7サロン83回の実施の中、約340人のボランティアの協力があつた。 ・今年度は実施中の7サロンの現状維持となり、新たにサロンを始めたところはありませんでした。	A	サロンを開催していない自治会に対して、地道に声掛けをしていくこと。	
⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	5	地域住民の健康増進と親睦の機会として、 ①スポーツ振興会主催「歩こう会」に協力する ②地区部会主催「グラウンドゴルフ大会」を開催する ③子どもから高齢者まで、多世代に渡る参加者(見学・応援等含む)を増やす 今年度は2イベント参加者総数を540人を目標とする。	<参加者数:538人> ・歩こう会参加者数:495名(60歳以上:265人、60歳以下:144人、小学生以下:86人) ・グラウンドゴルフ参加者数 43名	A	・グラウンドゴルフ大会の参加チームが10チームから8チームに減ってしまった。要因を確認し、来年度は参加チームを増やせるよう努力する。 ・グラウンドゴルフ大会が育成委員会の会議と重なり、参加者が減ってしまったため、日程調整に配慮する。	
⑪ 見守り活動の仕組みづくり	1	地区部会に所属する町内自治会において、見守り活動の体制づくりを検討する。今年度は、自治会での見守り活動の取組状況を調査する。	加入自治会20のうち、半数を確認した。「見守り活動は、どのような活動をさすのか」の認識が統一しておらず、判断が難しかった。	B	・見守り活動の定義が難しい。 ・新たに活動を始めるといふより、現在、各町内自治会が行っている活動に見守り活動を加えていこう声掛けをしていく。	
小倉地区部会エリア						
【人口・世帯数】 13,172人、6,054世帯	② 子育てしやすい環境づくり	4	・地域の実情を把握しながら、現在、若松公民館で開催している「子育てサロンびーなっつ」の他に、地区部会エリアの中心地である小倉台中央自治会で「子育てサロン」を開催する。 ・子育て相談会、絵本の読み聞かせや、手遊び、友達作りのおしゃべりタイムを実施。 ・周知方法として回覧板、ポスターの活用や、公園等でのチラシ配りを行う。	・「小倉子育てサロン」を開催した。 日時:平成30年11月9日(金)10時~11時30分 場所:小倉台中央自治会館1階ホール 対象:未就学児とその保護者 内容:絵本の読み聞かせ・栄養相談・保健師相談・おしゃべりタイムなど 参加者:50人(保護者16人、子ども36人) ・12町内自治会へ回覧版にて周知した。 ・エリア内は、ポスターで周知した。 ・各町内の清掃時に子育て世代の若者へ声掛けを行った。	B	・新築戸建への入居が増えたので、小倉台地区からの参加者が多かった。 ・スタッフの人手不足により、前日の準備から各自の負担が大きいことが課題である。
【町内自治会数】 12町内自治会 【高齢化率】 28.2% 【地域の特徴】 約1,600世帯が属する小倉台中央自治会(小倉台1丁目~小倉台7丁目)がエリアの中心にある。千葉都市モノレール小倉台駅を中心に、南北には戸建て主に住宅からなる住宅街と一部集合住宅(市営・県営)、幹線道路沿いには商店街が広がる。						
⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	現在、毎月1回、小倉自治会館で「いきいきサロン」を実施している。遠方の高齢者の参加が難しく、参加人数が固定化しつつある一方で、少しずつ新しい顔ぶれも増えている。出来るだけ頻繁に声掛けを行う。	・「ふれあい・いきいきサロン」を実施した。 日時:毎月1回(奇数月は第4水曜日、偶数月は第4木曜日)午後1時~3時 場所:小倉台中央自治会館 1階ホール 内容:運営委員会が作成(2月)した年間計画に基づき実施した。中でも、「フラダンスショー」(7月)や、「絵手紙づくり」(8月)が特に好評だった。「ポッチャ体験」(2月)等も行った。	S	・参加者の意見を聞き、内容を充実させる。 ・男性の参加者が少ないため、参加者からの声掛けにより広げていきたい。	
⑪ 見守り活動の仕組みづくり	1	・「安心カード」を、75歳高齢者全員に配布したが、さらに町内自治会と協働でエリア内の必要な方全てに配布する。(エリア全体への配布を考えて、当初の目標を600枚としたが、自治会への依頼が難しかったため、目標は200枚と訂正する。)	「安心カード」は民生委員の協力を得て、75歳になった方を対象に、敬老会の案内とともに配布した。(平成30年9月~10月、150人)	A	・配布後の家庭内での設置・活用状況などは、民生委員の協力を得て確認を行いたい。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
白井地区部会エリア						
【人口・世帯数】	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	高齢者の仲間づくりや交流の場となる「ふれあいいきいきサロン」を町会単位で月1回～年数回実施している。現在は8か所で実施中。3年後には、サロンの担い手を増やすとともに、実施する町会を10か所に拡大する。実施している町会同士の交流会において、運営ノウハウを共有することで更なる町会の拡大を図る。	「白井地区部会 福祉ネットワーク会議」を実施した。 ①テーマ:「ふれあいいきいきサロンの現状と課題」 ②日時・場所・参加者:H30.11.10(土)、白井公民館、実施団体等(31人) ③内容:白井地区の「いきいきサロン実施8グループ」を中心に、サロン実施状況、課題と対策について、発表・グループワークによる検討を行った。 ・サブテーマ:「楽しいいきいきサロンにするには!」 →白井地区で町内を越えた最初のグループ間意見交換会であった。参加者間の意識が高く活発な意見交換(課題抽出・対策)、グループ発表を行った。 “参加者を増やすには”“マンネリ化をなくすには”が主な課題となった。	A	いきいきサロン未実施町会の現状を、17連協会議(自治会長会議)で把握する。「小規模の町会では顔見知りが多く、サロン不要」、「いきいきサロンが認知されていない町会がある」等の問題が顕在化した。自治会長への情報提供、小規模町会をまたがるいきいきサロンの推進、大規模町会(500世帯)では、複数サロンの実施等が課題。
7,023人、3,413世帯						
【町内自治会数】						
18町内自治会						
【高齢化率】	⑧ 活動の中核となれる人材の発掘	7	・組織は人なり。福祉活動の中核となる人材を発掘し福祉活動推進委員の増員を図る。(現在7人→9人目標) ・ボランティア講座を年1回開催し、地域の組織(17連協、民児協、日赤奉仕団、ことぶき大学校、シニアリーダー等)と連携して、地域ボランティアの登録人数を増やす。あわせてボランティア活動・研修会を通して、その要員を育成する。	ボランティア講座を実施した。 ①日時・場所・参加者数:10月27日(土)、白井公民館、28人 ②テーマ:事例発表(野呂買援隊の活動、301地区の活動報告)、ケーススタディ(グループワーク):高齢独居者の支援について ③内容:ケーススタディでは、社協若葉区事務所と連携し、高齢・独居者モデルを事例として、対応についてグループ討議・発表を行った。 →グループ討議・発表は活発・盛会であり、参加者のボランティア意識が高いことがわかった。	A	講座終了時、参加者を対象にアンケートを実施、あわせて“ボランティア登録”の募集をしたが、意識が高いにもかかわらず、ボランティア登録者がいなかった。「ボランティアはしたいが、自ら役員にはなりたくない」等の声が聞こえてくる。ボランティア登録者、地域活動の担い手を増やすことが課題である。
42.7%						
【地域の特徴】						
対象エリアが非常に広く、大きく3つの地域(西部・東部・中部)に分けられ、それぞれ異なる歴史・成り立ちを持ち、昔からの歴史のある地域と新興住宅地が混在している。						
⑫ 活動団体同士の連携・交流	⑨	① 白井地区部会が、各自治会から、いきいきサロンの実態状況を把握する。情報交換や課題を議論し、地域で問題解決ができる仕組みを作る(福祉ネットワーク会議)。 ② 見守り活動、買物支援等の諸課題を検討し、千葉市あんしんケアセンター大宮台の協力を得て、課題解決に向けて話し合う「地域ケア会議」を開催する。	白井地区部会の構成4組織(17連協:自治会長、民児協、福祉活動推進員、日赤奉仕団)及び地域住民を対象に、以下の会議を実施した。 ① 福祉ネットワーク会議(テーマ:楽しいいきいきサロンにするには)・11/10・・・福祉ネットワーク委員会・事務局企画の「いきいきサロン交流会」を実施 詳細は、本報告の「⑤気楽に過ごせる居場所づくり」とおり。 ② 千葉市長の出前講座(テーマ:千葉市における人づくりの方向性) ・主催:社協白井地区部会。 ・参加者:17連協(自治会長)経由で18町内会へ回覧により募集。白井地区全域から61人が参加。 ・講義(30分)・・・子育て支援・教育、高齢者支援・健康づくり、市民自治推進 ・質疑(30分)・・・6件の質疑応答があり、盛況であった(記念写真撮影を含む)。 →取り組み内容は、白井地区部会だより第26号(平成31年3月9日発行)に記載	S	次回に向け、福祉ネットワーク会議のテーマと、実施方法(参加組織の拡大)を検討している。	
⑭ 防災・減災活動の実施						
⑬ 防災・減災活動の実施						
⑮ 防災・減災活動の実施						
⑭ 防災・減災活動の実施	⑥	現在、白井地区部会エリアで、自主防衛組織が組織化されているのは、18自治会中10自治会である。各自治会が自主防災組織を立ち上げることを目標として、3年後には12自治会に増やす。	・自主防災組織の現状と今後の取り組みを、白井地区部会の総会(5/26)代議員員会で周知した。17連協(自治会組織)会議で、未対応の自治会に組織化を依頼した。 ・H30年度若葉区地域ケア会議(11/22)実施。山崎部会長講演による「地域の防災対策の現状と課題」。白井地区の自主防災組織の結成率:86.7%(若葉区全体では55.2%) ・白井地区住民交流協議会発足に伴うイベント内容を検討した。地区防災大会(仮称)をテーマとして、H31年度に白井小学校会場で実施することを企画・推進中。	A	・未組織自治会の課題。世帯数が少ない(11~31世帯)6自治会で、どのように組織化するかが課題である。 ・白井地区全体を対象とする、地区防災大会の推進を行う。	
⑮ 防災・減災活動の実施						
⑯ 防災・減災活動の実施						
⑰ 防災・減災活動の実施						
更科地区部会エリア						
【人口・世帯数】	① 地域ぐるみで声掛け・あいさつ運動の実施	9	住民周知のため、①ポスター作製し、②要所に掲示し、③社協主催事業でPRのためCD放送を行う。	敬老会(9月)、凧揚げ大会(12月)に、CDを放送し活動をPRした。	B	課題としては、会員が高齢化し活動が難しくなったことや、ほとんどの会員が仕事を持っているため全員が集まることができないことである。
2,683人、1,237世帯						
【町内自治会数】						
13町内自治会						
【高齢化率】	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	現在、下田町自治会館及びその周辺では、親子・友達との交流の場として毎年12月に親子凧揚げ大会を実施している。中学生、高校生、大学生等の参加協力を促す。	親子148名の参加があった。 親子で協力して凧作りを実施している。	B	時代の流れにより、子どもたちの遊びの形態が変わってしまったことが課題である。継続して中、高、大学生の若者の参加を促していく。
38.9%						
【地域の特徴】						
対象エリアは非常に広いが、住基人口(2,683人)、世帯数(1,237世帯)は区内で一番少ない。多くの地域が農村地域であり、人の出入りは多くなく、高齢化率が高いが、現役農家世帯が多く、元気な高齢者が多い。						
⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	現在、更科公民館では、地域の高齢者の仲間づくりや「交流の場」として、ふれあいいきいきサロンを月1回実施している。今後、サロンの担い手を増やし、地域の自治会館を活用してサロンを実施していく。	月1回開催した。その他に、御殿町で年2~3回サロンを実施している。	A	当地域では、元気な高齢者は農家の働き手となっていることから、サロンへの参加が難しいことが課題である。	
⑮ 災害時に避難できる体制づくり						
⑯ 災害時に避難できる体制づくり						
⑰ 災害時に避難できる体制づくり						
⑰ 災害時に避難できる体制づくり	6	①避難所運営委員会設立準備会の立ち上げ、②委員会規約作成、③委員会成立	現在は、更科小学校、更科中学校、更科公民館が避難所に指定されている。今年度は、災害時に避難できる体制づくりに対する課題について、共有、確認を図った。	C	災害時に避難できる体制づくりが難しいことが課題である。発災時の指定避難所運営に向け、準備会、委員会等で協議していきたい。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針					
御成台・千城台西北地区部会エリア	② 子育てしやすい環境づくり	4	平成28年度に新規立ち上げをして3年目となり、軌道に乗ってきた。一方でリーダーに頼り過ぎてしまうので、ボランティアが積極的に絡んでいけるよう取り組む。	・「赤ちゃんと季節のイベント」をテーマに、写真撮影をしながらの親同士の交流の場である。本年度は2ヶ月に1回、予定通り年6回開催した。 ・毎回十数組の参加があり、リピーターも多くお互いに顔見知りが増えて和やかな中で開催できている。	A	・ボランティアの積極的な関わりにより、世話役のリーダーの負担軽減につながりつつある。参加者も含め自主運営に努めていきたい。 ・また若い親御さんたちに社協に対する理解を深めてもらえるよう取り組んでいきたい。					
【人口・世帯数】 10,272人、4,775世帯							⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	5	・介護予防・健康づくり講座を定期的に開催する。 ・各自治会が事業の一環として取り組むことができるようサポートする。	S	・近隣の自治会や学校などの理解と協力を得て、参加者が気軽に集まり、いつでもどこでも開催できる「時間と場所」を確保する必要がある。
【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 34.0% 【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。											
千城台東南・金親地区部会エリア	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	新規会委員の募集と、目新しい活動内容、継続性のある活動を目指して取組を行う。 買物や薬取りの代行や付添、ゴミだし支援に取組む。	以下の内容に取り組むことができた。 1 サロン活動の推進 2 買物や薬取りの代行や付き添い 3 ゴミだしや車いす介助 4 買物補助 5 困りごと相談 6 ふれあい給食サービス	A	現在は、利用件数が少ないが、今後、利用者増に備えて、ボランティア参加者の人数を確保することが課題である。					
【人口・世帯数】 10,969人、5,243世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 36.4% 【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。							⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	高齢化社会を迎え、当地区も例外なく高齢化と独居者が多くなっている。可能な限り、屋外活動や連携・交流ができるよう支援したい。	A	支える側も高齢化しており、サポート感が低下しているという課題が見えている。 たんぼぼ会については、PRを図る必要がある。
【人口・世帯数】 10,969人、5,243世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 36.4% 【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。											
【人口・世帯数】 10,969人、5,243世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 36.4% 【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。	⑮ 福祉こころを育む活動の実施	8	東町自治会と南町自治会において、地域住民の家庭菜園、収穫物の即売、同好会の出し物・展示を行ったり、近隣の中学校や高等学校の協力により音楽やダンスの披露等を行った。	A	地元小学校にも協力を、全世代が参加できる地域活動としていきたいと考えている。						

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
26地区部会エリア						
【人口・世帯数】 7,788人、3,522世帯	③ 公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	9	・ラジオ体操を、全会場で継続して実施する。 (大宮台:4回、北大宮台:2回、いずみ台ローズタウン:2回、他町内自治会単位:5回 合計:13回) ・グラウンドゴルフ大会、ふれあい食事会への参加を促進して住民の交流の場をつくる。	・26地区部会内の自治会(大宮自治会、北大宮自治会、ローズタウン自治会、大宮南自治会、さくら自治会、みどり自治会、青葉町内会)において、計58回ラジオ体操を実施した。 ・大宮自治会、大宮南自治会でグラウンドゴルフ会を計38回実施した。他の自治会も参加するよう働きかけている。	A	高齢化に伴い、参加者、担い手ともに減少傾向にあるが、ラジオ体操、グラウンドゴルフ大会の継続実施、参加者増へ向けたPRを図っていく。
【町内自治会数】 8町内自治会						
【高齢化率】 44.6%						
【地域の特徴】 徒歩圏内に鉄道の駅はなく、公共交通機関はバスのみ。 当該エリアの中心である大宮台団地は昭和36年~42年にかけて、千葉県住宅供給公社により開発された大規模団地(当時戸建住宅2,040戸)である。隣接はしないものいずみ台ローズタウンを内包する。	⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	5	早起きラジオ体操、元気で歩こう会、安心カード、安否確認電話連絡、高齢者見守りネットワーク、一人で避難できない人の介助、公園清掃除草、ゴミだし支援、買物支援などの各種事業について、各自治会が必要に応じ実施し、健康でいきいき暮らせる事業の継続を目指す。	各種事業を実施している自治会に対し、現状維持を図るべく必要に応じた事業の継続実施を働きかけた。	A	高齢化に伴い、参加者、担い手ともに減少傾向にあるが、地域でできる介護予防・健康づくりの継続実施、参加者増へ向けたPRを図っていく。
	⑬ 防犯活動の実施	6	防犯・防災パトロールの充実を図るため、町内自治会で、定期的な防犯パトロールの回数を増やす。	【各町内自治会の実施状況】 ・大宮台自治会:今年度、青色灯パトロール車を購入した。毎日、午前午後のパトロールを実施した。 ・みどり自治会:二組で週2回パトロールと見守り活動を実施した。 ・青葉町内会: 役員2名でパトロールと見守り活動を実施した。 ・いずみ台ローズタウン自治会:東警察署の青色灯パトロール車を借り、年3回巡回を実施した。また、毎日、ボランティアが班を編成し、パトロールを実施した。 ・北大宮自治会:地域内の安全を考え、組織内の安全対策部防犯パトロール部会の方々がパトロールを実施した。	A	高齢化に伴い、参加者、担い手ともに減少傾向にあるが、防犯活動の継続実施、参加者増へ向けたPRを図っていく。
若松地区部会エリア						
【人口・世帯数】 19,749人、8,859世帯	② 子育てしやすい環境づくり	1	参加者の増加へ向けた周知の方法を工夫し、内容の充実を図る。	・子育てサロン「さくら」を年5回開催した。 ・参加者を増やすため、声掛けや口コミ依頼、ポスター掲示等を実施した。 ・北部自治会にて実施してる子育てサロンについては、当自治会館改修のため、実施不可能であった。	B	2か所で行っている子育てサロンですが、北部自治会の使い方が不明なので予測ができない。
【町内自治会数】 13町内自治会						
【高齢化率】 26.9%	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	・いきいきふれあいサロンの開催場所、回数の増加を図る ・地域でできる介護予防のコラボを考える。	北部自治会館改修のため、いきいきサロンの開催ができなかった。	C	北部自治会館の使い方が不明であることから、平成31年度の開催について、予定が立てられない状況である。
【地域の特徴】 地区部会対象エリアがとても広く、住基人口(19,749人)、高齢者数(5,314人)、世帯数(8,859世帯)は区内エリアで二番目に多い。 若松台2・3丁目の高齢化率(44.5%)が非常に高い。	⑱ 福祉のこころを育む活動の実施	7	若松高校における子育てサロンの後、生徒に向け社会福祉協議会の構成メンバーによる地域の福祉活動について紹介する。	・若松高校と共催している子育てサロン終了後に、サロン参加の生徒(2年生)を対象に、社会福祉、地域福祉についての講義を開催。 ・高校生を対象に福祉の考え方の醸成を図った。	A	本事業の継続については、高校側の意向によるところがあり、高校の考え方によっては、継続できなくなる可能性もある。

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
 B: 一部目標を達成した。(5～7割)
 C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針						
加曾利地区部会エリア												
【人口・世帯数】 6,641人、3,160世帯	⑧ 活動団体同志の連携・交流	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会とあんしんケアセンター桜木が連携し、地域の関係団体等が課題解決に向けて話し合う場である「加曾利町地域ケア会議」を定期的に開催する。 ・地域で、助け合い活動や見守り活動を実施する団体同志の情報交換や意見交換を定期的に行う。 ・地区部会、町内自治会、民生委員・児童委員協議会等が情報交換や意見交換を定期的に行う。 	下記の内容で、「地域ケア会議」を実施した。 1.エンディングサポート(終活支援)の概要について 2.「平成30年7月豪雨災害」における災害救援職員派遣報告 3.千葉市(区)災害ボランティアセンター設置及び運営について 4.「生活支援コーディネーター」について 5.老人ホームの選び方 6.介護認定について	A	<ul style="list-style-type: none"> ・この種の横断的な連携交流の機会は、今までなかった。 ・総論的な話も時には必要であるが、これに加えて、身近な福祉問題を議論する場を設けること必要である。 相互に意見交流が出来た。夫々の団体として効果が出てくることを期待したい。 						
【町内自治会数】 7町内自治会							④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で誰もが参加できるイベントを企画し、開催する。 ・地域でのイベントの内容を精査し、魅力あるプログラムの実施・参加を促す。 ・地区部会や町内自治会等が、一人暮らし高齢者等を対象に、ふれあい食事サービスやふれあいサロンを開催し、高齢者同士の交流の機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回バザーにおいて、健康測定を実施するため、社協若葉事務所の紹介で総泉病院地域支援事業部に出向き、健康測定の実施を依頼した。その席上、「社会貢献を積極的に行いたいので相互交流を実施したい」との心強い言葉をいただいた。 ・福祉施設、病院、地域行事でのふれあい交流活動を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・この種の横断的な連携交流の機会は、今までなかった。 ・総論的な話も時には必要であるが、これに加えて、身近な福祉問題を議論する場を設けること必要である。 相互に意見交流が出来た。夫々の団体として効果が出てくることを期待したい。
【高齢化率】 30.3%												
【地域の特徴】 エリア内には小学校が設置されていなく、1町のみ(加曾利町)のエリアである。古くから農業を営む世帯の地域、戸建住宅が多い地域、最近新たに作られた新興住宅地がある。												

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
都賀地区部会エリア						
【人口・世帯数】 13731人、7,059世帯	② 子育てしやすい環境づくり	4	子育てサロンひなたの月例開催は伝統事業として定着して久しい。毎月第2水曜日の定例会(若葉保健センター)にはエリア外からの参加者も多く毎回40~60組の母子が集う。児童母子福祉委員会が中心となり「都賀の台保育所」や「マミー&ミー保育園」との連携協力で運営されており、これを継続する。	【実施状況】 日時:原則、第2水曜日の午前10時~12時 場所:若葉保健福祉センター 協力者:「都賀の台保育所」「マミー&ミー保育園」 ボランティア:地区部会メンバー 参加者:40~60組(80~120人)	A	参加者の保育情報の交換の場として、母親相互の交流の場としての位置づけを考慮しながら、運営内容の充実に努めていきたい。
【町内自治会数】 10町内自治会						
【高齢化率】 28.2%	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	現在、5拠点で「いきいき交流サロン」活動を展開している。この内、地区部会活動としての補助対象は3拠点である。 身近な人達の交流の場とし、町会自治会単位での開催を奨励し、発足準備金制度(1万円)を設けて、活動拠点の増加を目指す。町会自治会との協力が必要であり、地区部会(高齢者福祉・ネットワーク等)と協力して補助対象拠点を5まで増やしたい。	・都賀の台:3活動(コミカフェ「ささえ愛」~2)(都賀の台交流サロン~1)各地区(1~6地区)で当番運営 ・西都賀3・4丁目:「たんぼぼの会」~月1回活動 ・保険福祉センター:いきいき健康サロン~月1回(第4火曜日) なお、都賀の台はコミカフェ(ささえ愛)には、定期的に「都賀あんしんケアセンター」のスタッフを会場に招き、住民との交流を広げ、情報を交換しあっている。いずれも30年度以前からの活動である。	B	集いやすいサロン会場の確保が難しい。一部町会で自治会館を借用して開催を目論んだが、会場費が有料で高いこと、運営面で町会の協力が得られなかったことなどから頓挫した。会場が有料の場合は主催者の負担または補助とするが、出席者に会場費を負担してもらうとなると、安定した運営面が危ぶまれる。
【地域の特徴】 都賀駅、モノレール沿線を中心に、戸建住宅の多い地域と、賃貸住宅集合住宅が多い地域がある。 都賀の台1丁目から4丁目までの高齢化率の平均は約48.4%と、限界集落(50%:2人に1人が高齢者のまち)に近い状況まで高齢化が進んでいる。						
⑪ 見守り活動の仕組みづくり	1	地区部会や町会自治会が、独自に取組むことは、組織化や運営と継続面でハードルが高い。住民の誰もが心の片隅で「思いやりを繋ぐ地域生活の必要性の大切さ」を抱いており、これを生かしたご近所相互による見守りについて啓蒙紙(ご近所福祉)で全域に呼びかけていく。「遠くの親類より近くの他人」、ご近所相互の日常的な交流は災害時の相互支援に繋がる。現代社会は繋がりが豊かな街づくりを求めている。	紙面づくりのための情報収集に努めたが、効率的な書面づくりと読者への啓蒙効果に苦慮し、一歩踏み出せないまま発行を見送っている。	C	チラシ、回覧物が氾濫している状況の中で、読者に共感の得られるインパクトのある紙面「見せる一読ませる一魅せる」づくりが必要だと感じた。それなりの中身と表現ノウハウが求められることは、今後の継続課題であり、関係者の英知を集めて対応について再検討したい。	
						⑫ 活動団体同士の連携・交流
⑬ 地域福祉に関する情報の発信	10	地区部会の活動は広域的であり、活動内容が限られていることもあり、住民にとって親近感が乏しく、「活動が見えない」との声がよく聞かれる。「地域福祉の推進」を旗印としている社協であるが、地域福祉の先導者として地区部会の「見える化」が求められている。その対応の一環として、部会活動や福祉情報などを盛り込んだ広報紙を既刊紙とは別に定期的に発行することで部会への理解を求めたい。	明確な編集構想が打ち出せないまま、また組織協力の体制不備もあって、未着手である。また、「生活便利帳」の作成についても、都賀の台を参考事例として様式の趣を変えたものを検討している。発行を次年度に見送った。	C	次の課題に対する対策を明確にして取り組む。もとより、実施面でハードルが高い案件と考えている。 ①紙面構成に適した情報収集と提供ネットの確立 ②パソコンによる編集技能のある人材の確保 ③印刷、地域への配付プロセスの確立 ④各委員会の協力	
⑭ 地域での福祉教室等の開催と活動支援	8	地域福祉を推進していくうえで、地域の福祉活動者や住民が、高齢者福祉を中心とする各種福祉制度や施策のあらし、また新たな政策の概要など幅広く学びあっていくことは、交流や情報交換の機会ともなる。こうした研修や学習を通じて活動の活性化を図っていく。即ち「常に学び合い活動に生かしていく」というスタンスを共有して、組織運営をより生きたものにする。	【開催実績】 料理教室、手話講座、ポッチャ教室、折り紙教室、「高齢者福祉施設の種類(講演)」、「地域包括ケアシステムと互助活動(講演と意見交換)」、親睦研修旅行(JAXA)など上記のうち「高齢者福祉施設の種類の講演」、地域包括ケアシステムと互助活動(講演と意見交換)は都賀の台支え合い委員会と共催し、活動奨励金の対象事業とした。	A	講座・講演会などの開催は、計画から実施まで3ヶ月以上を要する。タイミングを失うと企画は予定で終わることも多いため、講師への依頼と確保、会場の予約・確保、地域への広報チラシの作成と全域配布など関係者の前向きな連携協力が欠かせない。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
結・みつわ台地区部会エリア						
【人口・世帯数】	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	・これまで、公民館で、「福祉のつどい」を年1回開催している。出席者が「参加し交流する」ことによって、何か一つでも習得し(身につけて)帰ることができるよう、内容の充実を図る。 ・開催回数は、現状を維持する。	地区民児協との連携に時間を要していること、あんしんケアセンターの体制に変更があったこと等により、本年度も地区部会単独で開催する結果となった。 開催日当日は、前夜からの積雪で開催が危ぶまれたが、早朝から天気が回復し、予想以上の40人を超える参加者を得ることができた。 今年度は、「ユニバーサルデザインかるた」による「福祉標識」の楽しい勉強会に加え、ボランティア仲間づくり「防災」知識の勉強や、身近な非常食作りの知識習得等、例年と異なる趣向で開催した。天候とは逆に、大変和やかに好評のうちに終了することができた。 今年度、初の試みとして、7か所の「支え合い活動」のパネルを作成し、会場で展示した。参加者の中には、食い入るようにパネルを覗き込む人もあり、写真に収める人もあったりで、パネルを取り囲んで、大変好評であった。 「支え合いのまちづくり」に好影響を与えられることを望むばかりである。	A	「歩くから道になる。歩かないから草が生える！」のとおり、身近なところから、できることから、無理をせず、息長く活動していきたい。
24,296人、10,795世帯						
【町内自治会数】						
35町内自治会						
【高齢化率】	⑧ 活動の中核となれる人材の発掘	7	・地区部会でのボランティア参加者について、講座等のお知らせチラシ等を活用して募集する。 ・地区部会主催の各種講座等での「アンケート」で、ボランティア活動への関心を示した人達に対して、個別に参加を呼び掛ける。	ことぶき大学校OB×1人、以前から関心を持っていた方×1人、現役役員の知人×1人の計3人から活動参加の意思表示をいただいた。	S	今後も、あらゆる機会を通じて、仲間づくりを模索していく。
24.8%						
【地域の特徴】						
高齢化率が10%台の町丁(殿台町、東寺山町、みつわ台1丁目、源町、原町の一部)もいくつかあり、比較的高齢化率が低い。35の町内自治会数は区内最多(加えて5の管理組合)である。						
⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	・地区部会とあんしんケアセンターみつわ台の連携を主軸に、地区民協(412・404)、第34地区連協等と協力し、より効率的な地域ケア会議を計画し、地区部会最大の活動目標である「支え合い、見守りのまち」先進地区を目指す。 ・第3期中までに発足した「支え合いの会」7か所をモデルに活動地域の増加を目指す。	あんしんケアセンターみつわ台との二人三脚で開催してきた「地域ケア会議」は、H29年度でほぼ全エリアをカバーする形で、一通り完了した。 今年度は、支え合い活動をスタートさせた7か所を対象にケア会議を開催した。会議では、日常活動や近隣自治会・町内会への啓蒙活動等々について意見交換を行ったが、担い手不足が喫緊且つ身近な課題になってきていることがクローズアップされた。	A	今後は活動グループごとの情報交換を密にし、連携しながら「支え合い、見守りのまち」づくりをすすめていきたい。 懸案となっている「集会所のない自治会・町内会」については、引き続き、解決策を探っていくこととする。	
千城小地区部会エリア						
【人口・世帯数】	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	・H30年度 エリア内の10自治会で、最低でも1回以上試行する。 ・3カ年で、開催場所を増やす。	・今年度、ふれあい・いきいきサロン開催についてお願いをした。 ・笑顔で帰ってもらった。 ・参加した方から、未参加者へ声掛けをしてもらった。	B	・カラオケの実施。 ・未参加者への啓発と周知。 ・担い手と参加者が顔を合わせる機会を多く持ち、交流を大切に心掛けたい。 ・利用者に講師になってもらう。 ・地域の「仲間づくり」「健康づくり」を意識してもらう。
2,788人、1,356世帯						
【町内自治会数】						
10町内自治会	⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	5	地域住民の健康増進と親睦の機会として、下記を実施する。 ・子供たちと一緒にラジオ体操及び健康講話 ・千城小学校第二グラウンド除草作業 ・ふれあい歩こう会 ・千城小地区敬老会 ・年末切餅配布(対象者:75歳以上の単身世帯)	【実施実績】 ・子供たちと一緒にラジオ体操及び健康講話 「手軽にできる筋力アップ体操」 ・千城小学校第二グラウンド除草作業 ・ふれあい歩こう会 ・千城小地区敬老会 →参加者数:66人 ・年末切餅配布(対象者:75歳以上の単身世帯)	A	・新たな参加者、幅広い年代の参加者を増やしていきたい。 ・地域の「仲間づくり」「健康づくり」を意識してもらう。
【高齢化率】						
43.8%						
【地域の特徴】	⑭ 防災・減災活動の実施	6	・パトロール時に、道路や街路灯等の改善点を調べる。 ・他サロンでの顔見知りが増えることで、防犯・防災につなげる。 ・パトロール時も、健康づくりと縦の繋がりから、横に発展させる。	防犯パトロールを4自治会にて実施した。 ・新大宮自治会 360回 ・下長町内会 35回 ・大宮町花和自治会 35回 ・大宮町坂尾自治会 35回 ・大宮町親睦会 35回 ほぼ、例年同様に実施している。	A	・未実施自治会への働きかけを行う。 ・自治会の枠を超えた地域横断型のパトロール実施する。
エリア内には1町(大宮町)しか含まれていない、小学校は設置されているが、児童数は区内で最も少ない。 古くから農業を営む世帯の地域があり元気な高齢者が多く、また新たに作られた新興住宅地がある。						

◆地域福祉活動の好事例等 <若葉区>

1 区内における取組み

(1) 住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり(「我が事」の地域づくり)

活動主体	加曽利地区部会
取組概要	・地区部会エリア内の全7町内自治会に対し、平時の見守り活動をはじめとした地域福祉活動のヒアリング、及び見守り活動の進め方について事例提示、助言した。また、同エリア内外で支援が必要である世帯に対し、生活支援活動(たすけあいの会)を実施した。
実績・今後の予定	・活動件数 151件 地区部会スローガン「介護に頼らない健康づくりと福祉ネットワークづくり」と生活支援事業スローガン「みんないきいきたすけあい」のもと、細やかな目配り、気配りで地域課題に向き合う。

(2) 地域生活課題を包括的に受け止める体制の構築(「丸ごと」の地域づくり)

活動主体	小倉地区部会
取組概要	・月1回開催のふれあい・いきいきサロンにおいて、千葉市あんしんケアセンター千城台と連携し、「よろず相談」の場を設けている。同センターの3職種等が、サロン参加者の相談に応じている。受けた様々な相談事に対し、個別対応や参加者全体への情報提供、必要に応じ行政や専門機関等と連携し、課題解決の一助や支援を目指す。サロン参加者及び担い手にも好評で、顔の見える同センターとの信頼関係も築かれており、安心の居場所となっている。
実績・今後の予定	・相談コーナー開設 12回(個別対応:5件 参加者全体への情報提供:4件) ・今後も継続して「よろず相談」の場を設け、相談を受け止める場、情報提供の場を維持し、地域住民に寄り添った支援を進めていく。

(3) 新たな社会資源の創出に向けた取組み

新たな社会資源の創出に向けた取組内容 <例1>	区内で地域支え合い活動を実施、またはこれから立ちあげ予定の団体に声をかけ、情報交換、課題共有・解決等を目的とした交流会を実施した。今後は交流会参加団体対象に手あげ式による連絡会(エリアを超えた広域相互支え合い活動実施予定)設置に向け、準備中である。
新たな社会資源の創出に向けた取組内容 <例2>	野呂団地自治会(白井地区部会エリアの自治会)と若葉泉の里(社会福祉法人宝寿会)とが手を携え、平成31年度からの買物支援サービス事業開始に向け、前記2者に社協若葉区事務所が加わり準備対応中。

2 コミュニティソーシャルワーカー等の専門職が関わる支援について

(1) 複合的な課題を抱える世帯に対し、多機関が協働してチームアプローチを行い支援しているケース

人や世帯の基本情報(家族の状況、年齢、性別、職業など)	父(40代)、子(男 10代)の2人世帯。父の養育力不足と子の社会性不安により、自力での外出ができない。
抱えている問題	子は小学校時代から中学年齢まで不登校。今春、本人の意思と支援者の支援により高等専門学校へ進学したが、往復の移動や学校説明の理解などが難しい。現状が続くと不登校の生活に戻る恐れがあるが、本人や世帯に寄り添える支援者や団体が存在しない。
現状の対応・今後の支援方針	・関係者(社会援護課、子ども家庭課、民生委員、医療(MSW、Dr)、市児童相談所、CSW等)のそれぞれが、世帯に関わった際には情報共有している。中学年齢までは学校、SSWとも連携していた。 ・本人の意思を実現するため、本人及び世帯へ寄り添える人、機関へつなぎ、自力移動や学校生活を安定したものにする。寄り添い者が見つかるまでの空白をどう埋めるかが課題。

(2) 新たな連携先として開拓した組織・団体・専門機関(予定含む)

新たな連携先名称 <例1>	A病院
概要(分野や目的、活動状況など)	区内に在る病院内に地域支援事業部が設けられた。病院から地域へ出向いての講座や、住民が病院へ集ってのサロンなど、医療と地域とがつながりあい、安心した生活が送れるよう専門職による地域支援を進めていく。
連携の経緯	多職種連携会議や地域ケア会議などをおしてつながっていたこともあり、生活支援コーディネーターによる連携を視野にしたアプローチを実施。病院側にも連携の意向があり、つながった。
連携先側のニーズやメリット	体調不良や不安がないと医療にかかることがないが、平時に医療機関と地域とがつながることができる。対象地域は市内一円のため、多くの地域、住民とつながりたい。

新たな連携先名称 <例2>	B薬局他区内薬局
概要(分野や目的、活動状況など)	地域に密着した薬局であり、院外処方や介護保険における「居宅療養管理指導」も行っている。市薬剤師会にも所属しており、区内市内の薬局場やネットワークを持ちあわせている。
連携の経緯	地域に密着した薬局の存在は住民にとっても安心の場であり、薬局利用者ともなじみの関係を構築していることに着目し、アプローチ。薬局側も地域連携、地域貢献の意向があり、つながった。
連携先側のニーズやメリット	上記の顔なじみの関係があることから、定期で来る方が途絶えることの発見や安否確認などの見守りができる。その際は民生委員やあんしんケアセンターなどと連携し、当事者の支援対応が可。また、薬局スペースを活用したミニお薬講座等の実施も検討できる。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5~7割)
A:概ね目標を達成した。(8~10割) C:大きく目標を下回った。(~4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	4	S A 1 B 1 C 2	緑区では、地域住民主体による見守り活動が11地域(椎名1、菅田7、土気2、おゆみ野1)で行われおり、定例会に参加する等、活動の把握や情報交換を実施している。また年に1度区内の活動団体を集め、意見交換会・交流会を実施している。椎名地区では、椎名地区部会が先頭に立ち、定例会の開催や活動状況の把握を行った。土気地区では、新たな地域での活動は立ち上がらなかったものの、大木戸台団地での活動開始に向けて支援を行った。菅田地区では、見守り活動スタートガイドを作成し、未実施地区への周知を行った。おゆみ野地区では、地域住民による活動は1地域のみであるが、民生委員が中心となり見守り活動を実施した。
2 高齢者を支える仕組みづくり	3	S A 3 B C	区内地区部会4のうち、いきいきサロンは、重点取組地区3地区で、延べ329回実施(4地区で、延べ447回実施)した。また、ふれあい食事サービスは、2地区で、延べ29回(3地区で、延べ39回)、ふれあい散歩クラブは、2地区で、延べ61回実施した。椎名地区では、古市場団地で行われているいきいきサロンを実施した。土気地区では、土気団地集会所で新たないきいきサロンが開始された。おゆみ野地区でも、サンクレイドルおゆみ野ステーションウィスマンションで新たなサロン活動が開始された。
3 障害者を支える仕組みづくり	3	S A 2 B 1 C	椎名地区では、椎名小学校の児童に障害者とのふれあい・体験学習(ガイドヘルプ、手話、目の不自由な方のお話、ゴールボール体験等)を実施し、児童の障害に対する理解・関心を高めた。菅田地区では、障害者施設の手伝いや見学、慰問品の贈呈等、障害者施設との交流を深めた。おゆみ野地区では、障害者やその家族が参加できる「おたのしみ会」や「おしゃべり会」を開催し、地域住民と障害者(児)やその家族とが交流し、障害に対する理解を深めた。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	4	S A 4 B C	区内地区部会4のうち、子育てサロンは、重点取組地区1地区で、延べ10回実施(3地区で、延べ46回実施)した。椎名地区では、小学校・PTA・民児協・地域住民・地区部会等が連携し、漢字の学習支援・食育支援授業・地域伝統行事・昔あそび等の伝承文化の継承を行った。また、ボランティアの方による児童の通学時の声掛け運動や、ふれあい食事サービスに参加している高齢者と児童との交流も実施した。おゆみ野地区では、子育てサロンの他、「おゆみ野四季の道駅伝大会」「さくら・さくさくウォークラリー」等の子どもたちが参加できるイベントを実施すると共に昔あそびの指導を通じて地域と子どもたちの交流を図った。
5 健康づくり	1	S A 1 B C	おゆみ野地区では、地区部会で実施している「いきいきサロン」の中にシニアリーダー体操を取り入れる等、健康を維持するための活動を実施した。また、ラジオ体操やシニアリーダー体操等、健康を維持するための活動を実施している地域の把握にも努めた。
6 防犯・防災に対する取組み	1	S A B C 1	菅田地区では、地域住民が学校行事等に参加し、子どもたちと顔の見える関係づくりを築くことによって、身近な防犯活動に取組んだ。なお、目標に掲げていた小・中学生と地域住民が一緒になった講習会は実施することが出来なかった。
7 担い手の拡大とボランティアの促進	3	S A B 3 C	椎名地区では、身近なボランティア意識を高めることを目的に、ゴミステーションにペットボトルキャップ回収袋を設置し集めている。しかし、現在は刈田子町でしか実施されておらず、他地域への拡大が課題となっている。土気地区では、地区部会が大木戸台「シニア支援の会」の推進役、支援役として協力し、除草、刈込み、整髪等の多彩な活動を具体化した。おゆみ野地区では、支え合い活動を実施している2団体については、依頼件数も増え、地域に定着しつつあるが、新たな地域での活動はなかった。
8 福祉教育・啓発	4	S A 3 B 1 C	椎名地区では、椎名小学校の児童に障害者とのふれあい・体験学習(ガイドヘルプ、手話、目の不自由な方のお話、ゴールボール体験等)を実施し、児童の障害に対する理解・関心を高めた。おゆみ野地区では、子育てサロンの中で、県立聾学校高等部の生徒さんと赤ちゃんとのふれあい体験学習を実施した。菅田地区では、障害者施設の手伝いや見学、慰問品の贈呈等、障害者施設との交流を深めた。
9 地域のつながりづくり	2	S A B 2 C	椎名地区では、大金沢町・小金沢町・刈田子町の3か所において、あんしんケアセンター・健康課と連携し、健康測定・健康体操の指導・骨密度測定などを実施した。土気地区では、地区部会が大木戸台「シニア支援の会」に推進役、支援役として協力し、高齢者施設・スーパー・地域住民・社協の4者協定による買い物支援の活動の具現化を図った。
10 相談支援体制と情報提供の充実	11	S A 9 B 2 C	4地区部会とも広報紙(椎名3回、菅田2回、土気2回、おゆみ野3回)を発行し、地区部会や地域の活動について情報提供を実施した。また、高齢者の集う場、子育て世代の集う場、障害者やその家族が集う場の提供を通じて、身近な相談役として相談に応じ、また必要に応じて専門機関への紹介等を行った。
今年度の振り返り	36	S 0 A 23 B 10 C 3	既に実施されている活動については、地域住民からの認知度も上がってきており、順調に活動を続けているように思う。その一方で、新たな活動については、土気地区で支え合い活動が開始されたのみであり、特に「見守り活動」については、新たな活動がみられなかった。「見守り活動」については、4地区全てが重点取組項目としているため、町内自治会へのPRを強化するなど、その活動の意義や方法を理解してもらえよう、取組みを継続していく必要がある。

今後の課題と方針 「見守り活動」「支え合い活動」については、町内自治会の協力が不可欠であるため、活動の意義や方法を理解してもらえよう、周知を強化する。
また、どの地区においても担い手不足が深刻な課題となっているため、今後は緑区内の社会福祉法人や近隣の大学と連携するなど、新たな担い手の確保も検討し、担い手不足の問題を少しでも解消していきたい。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日	主な議題等
第1回 平成30年 6月23日(土)	・委員長・副委員長の選任について ・広報部会委員の選任について ・第2回会議以降の進行について ・平成30年度開催日程について
第2回 平成30年 9月22日(土)	・広報誌「みどりのきずな第35号」の承認について ・重点取組項目の進捗状況報告について ・事業活動報告について
第3回 平成30年 12月15日 (土)	・広報誌「みどりのきずな第36号」の承認について ・重点取組項目の進捗状況報告について ・事業活動報告について
第4回 平成31年 3月16日(土)	・広報誌「みどりのきずな第37号」の承認について ・重点取組項目の進捗状況報告について ・事業活動報告について

◆区の地域福祉に関する好事例等

大木戸台シニア支援の会 ～大木戸台自治会区域～

大木戸台自治会のある大木戸町は、緑区で4番目に高齢化率の高い町です。高齢化率は既に50%を超えており、お年寄りの方からちょっとした困り事の相談が寄せられるようになっておりました。そんな声を察知した大木戸台団地に住む有志8名の方が発起人となり、平成30年2月に「大木戸台シニア支援の会」という支え合いの組織を立ち上げ、平成30年8月から高齢者の方を対象に庭木のお手入れや重い荷物の移動などのお手伝いを行っております。

大木戸台シニア支援の会の立ち上げに至っては、まず大木戸台自治会に助成団体として認めてもらうことから始まりました。事業計画書、予算書などを自治会に提出し、承認を得て晴れてのスタートとなりました。

その頃、社協土気地区部会においては、大木戸台団地でふれあいきいきサロンを開催しており、支援の会のメンバーもいきいきサロンのスタッフとして従事していたことから、会の立ち上げにあたり、当初から相談を受けておりました。土気地区部会では、平成28年度から地域支え合い活動の推進をしていたこともあり、地区部会一丸となって支援していく体制となり、また社協緑区事務所も平成30年5月から、シニア支援の会の定例会に参加するようになり、活動開始までは地区部会と緑区事務所も一緒になって、議論が展開されました。

この大木戸台団地はJR土気駅から徒歩約20分と離れており、団地内に商店がないことから、社協緑区事務所CSWの提案により、買物支援サービス事業の実施の検討が行われました。また、越智町にデイサービスの施設を持つ社会福祉法人うぐいす会が車両提供について快諾してくれたこともあり、買物支援サービスも実施していくことが決まり、平成31年2月より毎週水曜日に運行をしています。

また、毎月行われている定例会議では新たな活動についての話し合いが行われており、ごみ出し支援、見守り活動、髪のカットなども活動も検討されており、髪のカットにおいては既に数件実施をいたしました。シニア支援の会のメンバーも会を追うごとに増え、現在では19名の方がメンバーとなっております。また、あんしんケアセンターも会議に参加して、専門的な立場からのアドバイスをしてくれております。なお、来年度は空き家を拠点として活用しようという計画もあり、実現に向けて補助金を申請しているところです。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4子どもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】

S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
誉田地区部会エリア 【人口・世帯数】 30,342人・18,689世帯 【町内自治会数】 34町内自治会 【高齢化率】 26.9% 【地域の特徴】 緑区の東西に広く位置する地区。北部は農村地域のため人口も少ないが誉田駅近くは宅地開発が進み若い世代も多い。	④ 障害者(児)が集う場の開設・拡充・情報提供	3・8・10	・しいのみ園等への夏祭り参加、エルピザの里・銀河舎等への慰問訪問時の情報交換などを通じて障害者(児)のニーズを把握する。 ・地域内に存在する障害者(児)関係施設について情報収集を行なう。	障害者施設の行事の手伝いや見学、慰問品の贈呈等で施設を訪問しながら、施設や障害者(児)の様子を理解することができた。	B	・障害者施設の手伝いや訪問により、施設や障害者の様子を知ることにはできたが、障害者(児)との積極的な交流やニーズの把握までには至っていない。 ・集う場の開設に向け、今後も障害者施設等との交流を深め、ニーズを把握、集う場の必要性・場所確保の可否等を検討していく。
	⑫ 身近な防犯、安全対策	6	地域住民が小・中学校の行事等に参加したり、顔を合わせた際に挨拶をする「あいさつ運動」を推進したりすることで、顔の見える関係を築き、身近な防犯対策を行う。 また、小・中学生と地域住民が一緒になり、防犯活動や交通ルールの守り方について、警察の方を講師に招いて学習する。	学校行事には参加し、ある程度の顔の見える関係づくりを築くことは出来たが、思うような成果はなかった。 また、目標に掲げていた小・中学生と地域住民が一緒になった講習会は実施することが出来なかった。	C	今後も、子どもたちと交流を図りながら身近な防犯対策を進めていくと同時に、来年度は小・中学生と地域住民が一緒になった講習会を開催したい。
	⑮ 見守り活動の推進	1	町内自治会、民児協等各種団体と連携・協力し、見守り活動実施箇所を最低1か所は増やす目標で推進する。 見守り活動が周知されていない地域には見守り活動スタートガイドを作成して配布・説明を行う等、啓発活動を行う。	H30年度は見守り活動スタートガイドを作成し、地区連協の役員会議で配布依頼を行ったが、新たな活動の立ち上げには至らなかった。	C	見守り活動の重要性を理解していただいている地域においては既に活動を開始している。 また、町内自治会の役員が数年で変わってしまうような地域においては、活動の実施が難しいところもある。 今後も引き続き、見守り活動スタートガイドを利用する等の啓発活動を行う。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
椎名地区部会エリア 【人口・世帯数】 4,969人・2,223世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 24.2% 【地域の特徴】 田畑が多くある農村地域と古い住宅団地、新興住宅地が混在する町。全体の高齢化率は23.4%。局地的には30%を超えて高齢化が急速に進んでいる地域もある。	① 情報の収集と共有化	10	広報紙「椎名だより」を年3回発行し、地区の福祉情報、地域伝承文化行事、児童との交流、敬老会、バザー等の地域の情報を提供する。 30年度は19、20、21号を発行し、地域の方々の情報、資料提供によって地域紙としての役割を果たす。	・広報紙「椎名だより」を年3回発行した。 ①平成30年度千葉市社協行動プラン重点取組項目6項目と椎名地区部会目標との関連、椎名小学校の歴史についての紹介 ②「しいのみ祭」、「稲作体験のまとめ」、「羯鼓舞」、「福祉体験」の開催報告等 ③「福祉バザー」の報告や、「椎名六郎」についての紹介等	A	・多くの方が関心を寄せているが、地域住民の声の参加及び資料提供も呼びかけていきたい。 ・今後も発行を継続すると共に内容拡充を図っていきたい。
	② 子ども達の集いの場の提供・情報提供	4・10	学校、地域、PTAが連携し、児童の漢字学習支援とボランティア活動の推進を行う。また、地域伝承行事「羯鼓舞」の指導支援、「しいのみ祭」支援、創作活動支援、稲作学習支援(田植え、稲刈り、太巻きずし、稲の研究発表会)などの学校行事にも協力を行う。	・漢字パワーアップ 毎週水曜日の授業開始前に地域のボランティアとPTAが連携し、児童の漢字学習の支援を実施した。 ・食育授業支援 田植え、稲刈り・脱穀、太巻き寿司づくりの指導・協力を実施した。 ・地域伝統行事「羯鼓舞」 発表会に向けて、羯鼓舞の指導を実施・準備に協力した。 ・しいのみ祭 地域の方々が指導者となり、「昔あそび」、「しめ縄作り」などの伝承文化を継承した。	A	・新たな協力者への呼びかけも実施し、活動の継続と強化を図る。 ・「羯鼓舞」は発表で使用している衣裳、小太鼓など道具の充実を図るため、地域や千葉市へのアピールも図りたい。また、他の地域での披露やマスコミも利用するなど多くの方に知っていただくようPRの強化も図りたい。
	③ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	2・10	古市場団地で行われている「いきいき・サロン」と椎名公民館で実施している「ふれあい食事サービス」を継続し、高齢者が健康でいきいきと話し合い、語り合い、生き甲斐を実感できる場の提供を目指す。	・ふれあい・いきいきサロン 古市場団地にある3つの集会所において、年11回のサロンを実施した。サロンでは、健康体操・合唱・輪投げ・おしゃべり会等を実施した。 ・ふれあい食事会 椎名公民館において年9回の食事会を実施した。 サロン・ふれ食を楽しみにしている高齢者が多い。参加者を通して、見守り活動の一助ともなっている。	A	・内容の充実を図り、楽しさの倍増を図りたい。 ・ボランティア及び参加者の増加を図りつつ継続していく。 ・他地区への拡大も検討する。
	④ 障害者(児)が集う場の開設・拡充・情報提供	3・8・10	学校における福祉教育充実の支援を通し、障害者の理解及び普及を促進し、地域の障害者や高齢者に目を向け率先して助け合っていく態度を育成する。	椎名小学校において、ガイドヘルプ体験・手話体験・車椅子体験・ゴールボール体験・視覚障害者とのふれあい体験等の福祉講座の実施・支援を行った。	A	・小学校での福祉講座を継続し、心のバリアフリー化を推進する。 ・ボランティア参加の大切さと心構えについての授業の実施したい。
	⑥ 地域と学校の交流	4・8	子どもは地域の宝であり、日々安全に過ごせるよう支援をしていかなければならない。地域住民みんなで子どもを見守っていくという考えで、通学時の見守り、学習支援、学校行事の参加、お年寄りとの対話に取り組む。	・通学時の見守り 古市場地区では毎朝ボランティアの方が見守りを行う。地域住民は子どもに「あいさつの声かけ」を実施した。 ・学校行事の参加 福祉活動として高齢者と6年生(45名)との交流を年2回行った。交流の中では、お手玉・昔遊び・昔話を実施した。	A	・ボランティアを増やし、子どもの健全育成、交通災害防止を推進する。 ・コミュニティを大切に活動を実施していく。
	⑦ 地域の行事への積極的参加の呼びかけ	9	地域の高齢者の健康診断、相談の場を開設し、病気の予防、健康管理、運動を通して健康寿命を維持する活動を推進する。あんしんケアセンター・健康課と連携し、地域に出向いての巡回健康相談会(健康相談、健康診断、介護予防体操、悩み事相談等)を開催する。	大金沢町・小金沢町・刈田子町の3か所において、あんしんケアセンター・健康課と連携し、健康測定、健康体操の指導、骨密度測定などを実施した。実施した地域は次回も開催してほしいという声があった。	B	・あんしんケアセンター・健康課との連携の強化 ・各自治会・町内会への呼びかけの継続
	②⑥ 見守り活動の推進	1	古市場団地で行われている見守り活動への支援を継続していく。 ・2ヶ月に1回の定例会の開催及び参加(日々の見守り活動内容の再確認) ・ボランティアの再確認と参加増 ・見守られる人の事象の再確認及び希望者の有無を調査するアンケートの実施	古市場団地で行われている見守り活動への支援を実施した。 ・年6回(2ヶ月に1回)定例会を開催し、見守り活動の状況把握に努めた。 ・ボランティア及び見守り希望者のアンケート実施	A	・活動開始当初に比べ、ボランティアの数が減ってきている。 ・住民の見守り活動に対する意識が薄れている。 ・今後は見守の手法を変えるなど、ボランティアへの負担の軽減も検討し、隣人愛の昂揚を図っていきたい。
	③① ボランティアの確保	7	地域では介護支援、木々の伐採、部屋の片づけ、買物等、身近なボランティアが必要である。椎名地区では、ペットボトルキャップ回収等のボランティア活動を行い、地域に社会的参加の意義を高めていく。	刈田子町では、ゴミステーションにペットボトル回収袋を設置し、年3回収を行った。 また、組織的な活動はないが、近隣の互助による助け合い活動も行われた。	B	・他地域への拡大、参加の呼びかけ。 ・向う三軒両隣による互助精神を培う。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】

S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針		
土気地区部会エリア	③ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	2・10	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、いきいきサロンの活動を休止している関係者に対して、再開の働きかけを行う。 ・新たないきいきサロンの開設に向けて関係者に働きかける。 ・新たな歌集・催し物の協力者リスト作成、評判の良い活動のとりまとめを行い、サロン同士で利用・共有化を図る。 ・参加率の向上及び会員と支援者の増員を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンを1つ新設するとともに、未設置地区への対応について共通理解を図った。 ・歌集第二集を作成した。 ・好評な活動を集約し、使用資料や物品・完成品や写真・余興協力者のリストアップ等により、活動の改善に向けた取組みを進めた。 ・保健福祉C、あんしんケアC等の指導により、専門的知識等の習得を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・未設置地区の参加希望者の受け入れ態勢づくり(隣接する地区への統合を含めた開設によりサロン活動の拡充を図る) ・参加率の向上や会員の増員(魅力ある活動の実施に向け、改善が図られつつあるが、支援者の増員も含めて地域住民への周知、働き掛け方の工夫が必要) 		
<ul style="list-style-type: none"> 【人口・世帯数】 45,188人・19,035世帯 【町内自治会数】 46町内自治会 【高齢化率】 27.8% 【地域の特徴】 4中学校区からなる地区であるため高齢化の進み方も地域にばらつきがある。できる限り新旧住民が協調できる事業の進め方をしている。 			④ 助け合い活動の推進	7	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の困り事を定期的な調査結果などを足掛かりに集約する。 ・助成のあるゴミ出しによる助け合い活動を推進する。 ・挨拶などによる交流を広め、支援が必要な時の互いの声掛けをしやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大木戸台「シニア支援の会」に推進役、支援役として協力し、除草、刈込み、ゴミ出し、整髪等の多彩な活動を具体化した。 ・対応が様々であった個別の実態把握の方向づけとして手引きを作成することとした。 ・他の活動で挨拶や声掛けの実施を課題として位置付けて取り組んだが、全体方針として具体的に打ち出すことは出来なかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の実態把握が地区によって様々な現状を踏まえ、手引きの作成により方向付けて共通に取り組むことができるようにする。 ・「シニア支援の会」の取組みを動機付けにして他地区の意向を確認するために民児協及び町内自治会との連携を強化する。
			⑤ 外出困難者への支援	9・10	<ul style="list-style-type: none"> ・外出困難者の困り事を定期的な調査結果などを足掛かりに集約する。 ・買い物や通院支援を助け合い活動の拡充として推進する。 ・助け合い活動に取り組んでいない地区は、個人または団体の賛同を得て新たに推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大木戸台「シニア支援の会」に推進役、支援役として協力し、買い物支援の活動の具現化を図った。 ・買い物支援を推進している地域に在住する推進員だけでなく、全推進員の理解が深め、新規事業としての問題意識も高めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を踏まえた買い物支援を他地区へ拡大する。 ・民児協及び町内自治会との連携を強化し、実態の個別的把握と意向の確認に努める。 ・福祉有償運送の休止に伴い、利用していた外出困難者の動向を調べ、当面の対応を検討する。そのためにも車の利用の法律上の規定の理解にも努める。
			⑥ 見守り活動の推進	1	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立気味の高齢者を定期的な調査結果などを足掛かりに集約する。 ・「見守りネットワーク会議」等で対応を働き掛け、個人または団体の賛同を得て新たに推進する。 ・町内自治会の賛同を得て必要経費の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先行している2地区(大椎台自治会エリア、おすみが丘第1自治会エリア)の見守り活動に協力するとともに、「シニア支援の会」の取組みに協力した。 ・他地区における個別の実態把握は、対応が様々で余り進まなかった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区の意向を確認するため、民児協及び町内自治会との連携を強化する。 ・個別の実態把握が地区によって様々な現状を踏まえ、手引きの作成により方向付けて共通に取り組んでいけるようにする。 ・地域の住民のつながり具合や規模の大小により活動のあり方を検討していく。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
 4こどもと子育てを支える仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
 7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
 10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
おゆみ野地区部会エリア 【人口・世帯数】 48,678人・19,092世帯 【町内自治会数】 65町内自治会 【高齢化率】 13.2% 【地域の特徴】 街びらきして30年。まだ住宅開発が続いている地区だが、30年前に開発された地域は高齢化が目立ってきている。見守り活動等は一部自治会が取り組んでいる。	② 子ども達の集いの場の提供・情報提供	4・10	住民全体で「子どもは地域で育てる」という意識をもち、子どもたちの集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流等、青少年育成委員会やボランティア団体等と連携しながら推進していく。	・小谷小とおゆみ野南小において、地域の高齢者が学校を訪問し、子どもたちに昔あそびを教えた。 ・おゆみ野四季の道駅伝大会(小3~中3 約700名、一般50名参加)に参画・協力を行った。	A	引き続き、地域と学校との交流を図ると共に青少年育成委員会やボランティア団体等と連携を推進する。
	③ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	2・10	「ふれあいいいききサロン」や「ふれあい散歩クラブ」等、高齢者の集う場の設置を推進する。 平成30年度は、集いの場の拡充、新規の参加者を増やすための検討、PR方法の検討を行う。	・「ふれあいいいききサロン」の実施 7か所で実施。平成30年度は、サンクレイドルおゆみ野ステーションヴィスマンションで新たにサロン活動を開始した。また、以前からサロン活動を行っていたウェルエイジングの会を地区部会のサロンとし位置づけた。 ・「ふれあい散歩クラブ」 年4回開催した(うち2回は悪天候のため、室内で介護予防体操等を実施)。毎回行き先を変えるなど、参加者に楽しんでいただけるような工夫を行った。	A	・「いきいきサロン」、「散歩クラブ」の継続 ・新規の参加者を増やすため、PR方法等の検討を行う。 ・集いの場の拡充・拡大を推進する。
	④ 障害者(児)が集う場の開設・拡充・情報提供	3・8・10	障害者委員会の障がいに対する理解を深めるとともに、既に実施している「楽しみ会」、「おしゃべり会」等のイベントを通じて住民の方への障がいに対する理解も深めていく。	障害者(児)とその家族が参加できる「お楽しみ会」を年2回、障害をもつ家族の方が自由にお話ができる「おしゃべり会」を年4回開催し、地域住民と障害者(児)やその家族とが交流し、障害に対する理解を深めた。	A	・継続と内容の拡充 ・地域全体での「心のパリアフリー」を推進する
	⑤ 子育ての中の親や子どもが集う場の開設・拡充	4・10	緑区健康課等と連携し、「子育てサロン」の内容の充実や、魅力的な企画を行う。	・「ふれあい子育てサロン」の開催 3会場(おゆみ野公民館・鎌取CC・緑保健福祉センター)の3会場で開催した。緑区健康課と連携し、「親子体操教室」や「離乳食の料理教室」等の内容を取り入れ、内容の充実を図った。また、ボランティアスタッフの勉強会を実施する等の自己研鑽も図った。	A	・子育てサロンの継続と内容の拡充 ・緑区健康課と連携を密にし、魅力的な企画を行う
	⑭ 助け合い活動の推進	7	既に実施している2団体の支援を行うとともに、様々な会議の場で活動の必要性を訴えかけていく。	活動中の2団体については、依頼件数も増えており、地域に定着しつつあるが、新たな地域での活動はなかった。	B	・新たな地域での活動、新たな担い手の確保 ・引き続き、活動中の2団体の支援を行うとともに、様々な会議の場で活動の必要性を訴えかけていく。
	⑮ 見守り活動の推進	1	一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、また体に障がいのある方などの見守りを希望する人に対して、民生委員、地域住民による訪問・声かけ等を行う。 また、社会的孤立を防ぐため、挨拶運動など、住民同士が日常生活の中で無理なく行える見守り活動を実施する。	・おゆみ野地区の民生委員が、75歳以上約1,800世帯を個別訪問し、安否確認を行った。また、民生児童委員でさりげない見守り活動も行った。 ・各小中学校の障害者(児)の見守り、登校時のあいさつ運動を行った(民生委員、青少年育成委員会が連携)。	B	・現在の活動の継続と「向う三軒両隣」の互助精神を培う。 ・地域住民による見守り活動は、おゆみ野泉谷自治会で実施されているのみであり、他の地域への拡充・拡大を図りたい。
	⑰ 健康づくり支援	5	ラジオ体操やシニアリーダー体操等、健康を維持していくための活動を推進していく。緑区健康課やあんしんケアセンターの協力等も得て、推進していきたい。	地区部会で実施している「いきいきサロン」の中にシニアリーダー体操を取り入れる等、健康維持を維持するための活動を実施した。 また、ラジオ体操やシニアリーダー体操等、健康を維持するための活動を実施している地域の把握にも努めた。	A	引き続き、健康を維持するための活動を推進していくと共に、実施している地域の把握に努める。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5~7割)
A:概ね目標を達成した。(8~10割) C:大きく目標を下回った。(~4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	9	S 1 A 6 B 2 C	幕張西地区部会エリアで進めている見守り活動では、新たに1自治会で見守り活動を開始した(12/15自治会)。さらに、1自治会で平成31年度の実施に向け準備中。
2 高齢者を支える仕組みづくり	12	S 1 A 5 B 6 C	打瀬地区部会エリアにおいて、地域運営委員会定例会で、本計画について確認するとともに、関係団体で地域課題の共有を図った。
3 障害者を支える仕組みづくり	6	S A 3 B 3 C	幸町2丁目地区部会エリアにおいて、地域カフェ(カフェさいわい)、体操教室、3サロン合同ボッチャ交流会を実施し、他のサロン参加者との交流を深めたり、サロン参加への呼びかけを行った。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	6	S A 3 B 3 C	高洲・高浜地区部会エリアにおいて、高洲・高浜地区全域を対象に「防災講習会」を実施し、親子連れ、外国籍の方も多く参加した。
5 健康づくり	2	S 1 A 1 B C	磯辺地区部会エリアにおいて、健康づくり教室を自治会集会所16箇所で実施した。また、磯辺スポーツセンター他でのイベント(テニス、卓球、バドミントン等)を実施した。
6 防犯・防災に対する取組み	0	S A B C	
7 担い手の拡大とボランティアの促進	4	S 1 A 2 B 1 C	磯辺地区部会エリアにおいて、27自治会中8自治会が支え合い活動をスタートした。他の自治会についても実施に向けて説明会を実施し、今後も粘り強くPRしていく。
8 福祉教育・啓発	3	S A 3 B C	幸町一丁目地区部会エリアにおいて、ボランティア講座を4回実施し、地区部会の説明と新たな担い手にご協力いただけるよう依頼した。
9 地域のつながりづくり	9	S 1 A 4 B 4 C	稲毛海岸地区部会エリアにおいて、草刈りや自治会館付近での声かけを実施したり、電話でサロンへの参加をお誘いした。毎月、掲示によりサロン参加の呼びかけを実施した。
10 相談支援体制と情報提供の充実	1	S A 1 B C	真砂地区部会エリアにおいて、ホームページの充実に向けた働きかけを行い、多くの関係団体の情報が掲載され、更新も頻繁に行われるようになった。
今年度の振り返り	52	S 5 A 28 B 19 C 0	各地区部会エリアにおいて、見守り・支え合い活動やサロンの充実に向けた取組み、健康増進活動など幅広い活動が展開され、概ね計画通りに実施された。

今後の課題と方針	今期の進捗状況を踏まえ、2年後の到達目標達成のため計画を推進していく。
----------	-------------------------------------

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日		主な議題等
平成30年度	第1回 平成30年 6月28日(木)	1 議題 (1)委員長・副委員長の選任について (2)美浜区支え合いのまち推進計画(第4期美浜区地域福祉計画)の推進について 2 事例紹介 災害時の地域連携について(中央区今井付近における強風被害に係る対応)

◆区の地域福祉に関する好事例等

[事例]認知症徘徊声かけ訓練 (幸町2丁目地区部会エリア)

幸町2丁目に関係する団体(あんしんケアセンター幸町、幸町2丁目地区部会、社会福祉協議会美浜区事務所、第602民生委員児童委員協議会、地区の町内自治会、UR、美浜しようじゅタウン、幸町中央診療所、青少年育成委員会、美浜保健福祉センター[健康課、高齢障害支援課]、生活支援コーディネーター、子育てリラックス館等)で組織された「幸町2丁目連携会議」において、あんしんケアセンター幸町主導で、千葉市みかんの会 徘徊模擬訓練班のご協力をいただき、幸町第一中学校2年生と地域住民により、美浜区で初めての取り組みである「認知症徘徊声かけ訓練」が実施されました。

訓練は2部構成となっており、第1部は幸町第一中学校を会場に、中学生を対象に実施され、第2部は会場を外に移して一般地域住民や協力員を対象に5ヶ所に分かれて実施され、最後に意見交換会が行われました。

幸町第一中学校会場では、認知症高齢者の安全確保とその家族への支援のために、認知症による徘徊症状が見られる高齢者の安否情報等を関係者で共有するサービス「千葉市 どこシル伝言板」の利用も体験し、理解を深めました。

中学生を含め、100名を超える参加をいただき、多くの地域住民の目で見守り、支えていくことを考える良い機会となりました。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針	
稲毛海岸地区部会エリア 【人口・世帯数】 8,752人 3,685世帯 【町内自治会数】 16町内自治会 【高齢化率】 18.3% 【地域の特徴】 地区の北側は国道14号が東西に走り、東側は黒砂水路を挟んで幸町に、西側は真砂に接し、南側は高洲となる。埋め立て前は海岸線であったが、近年は高層マンションや一戸建て住宅街も建設されている。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	独居で外出しづらい人の現状把握とサロンやイベント参加を促す声かけを実施する。	草刈りや自治会館付近での声かけを実施したり、電話でサロンへの参加をお誘いしたりした。毎月、掲示によりサロン参加の呼びかけを実施した。	A	・各自治会等の状況に合わせながら、担い手の確保を含めて、必要な事業を構築していく必要がある。 ・新興住宅地や新興マンションに対し、地域活動の必要性や参画について理解の促進を図る必要がある。	
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	見守り実施自治会 稲毛団地を含めて2ヶ所(1ヶ所増設)	稲毛海岸3丁目団地において、「稲三サポートの会」が発足した。	A		
幸町2丁目地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,455人 6,580世帯 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 29.5% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はUR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビナートなどが集積する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	独居で外出できない、しがらみのある人の現状把握とサロン参加を促す声かけを行う。	地域カフェ(カフェさいわい)、体操教室、3サロン合同ボッチャ交流会を実施し、他のサロン参加者との交流を深めたり、サロン参加への呼びかけをしたりした。	A	・地域住民を対象に地域カフェを活用した「認知症サポーター養成講座」等の開催について検討する必要がある。 ・拠点確保について、引き続き千葉市等と小学校の跡地利用も含めて、協議を進める必要がある。 ・アンケート結果を参考にしながら、地域で実現可能な支援について検討していく必要がある。 ・「美浜区支え合いのまち推進計画」と「幸町2丁目安心居住プラン」との整合を図る必要がある。	
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	美浜区安心カード等の説明や緊急通報装置(千葉市・URの違い)の利用説明会を実施する。	2丁目連携会議やURの主催するイベントにおいて、美浜区安心カード等の説明や緊急通報装置(千葉市・URの違い)の説明会を実施した。	A		
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	アンケートを基にした実施計画の策定	アンケートの結果、外出に不安のある住民に対し、階段昇降機を利用した外出支援プロジェクトが発足し、幸町2丁目地区部会もプロジェクトメンバーに参加する事となった。	A		
	⑱ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2,5	認知症徘徊模擬訓練を実施する。 ・近隣中学校生徒や、近隣スーパー、コンビニも含んで対象とした検討・調整	近隣中学校や近隣住民を対象に認知症徘徊模擬訓練を実施した。	A		
	⑱ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	認知症カフェの設置 ・2丁目連携会議において検討	「しょうじゅ美浜のサービス付高齢者向け住宅においてカフェを開設し、来年度開設に向けて認知症カフェ立ち上げ計画を策定した。	S		
	⑱ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	地域連携会議の実施 ・参加依頼する医療機関を検討	幸町2丁目ネットワーク会議において、幸町団地歯科クリニックが参加した。	B		

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成 状況	今後の課題と方針	
幸町一丁目地区部会エリア 【人口・世帯数】 8,621人 3,941世帯 【町内自治会数】 19町内自治会 【高齢化率】 25.9% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで、中央区登戸に接する。地区内は高層低層の集合住宅が大部分を占め、一部戸建て住宅があるほか、国道沿いには大型事業所も立地する。西端は道路を挟んでJR千葉みなと駅や千葉市役所などが立地する中央区千葉港地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニートなどが集積する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	コミュニティ委員会や安心サポートの会の会議に地区部会として引き続き参加し「仲間作り」を支援する。	其々の会議と総会に参加し、サロンへの参加呼びかけや、ボランティアへの協力をお願いした。安心サポートから依頼があった場合は、コーディネート等に協力をしている。	A	・引き続き「幸町1丁目ふれあい交流館」を活用した、地域課題に合致した事業を検討する必要がある。 ・地域包括ケアシステム構築に係わる地域の役割について協議・検討を進める必要がある。	
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	サテライトのふれあい食事会実施会場増設 ・主会場:1か所 ・サテライト会場:1か所	主会場の他に、サテライト会場を増設し、主会場まで来るのが難しい人を対象に募集し、食事会を通じて見守りを実施した。食事会開始前にはシニアリーダー体操を実施した。	A		
	②① 支え合い意識の醸成	8	福祉施設・団体と連携し、新たな担い手を発掘するようなボランティア講座を検討する。	ボランティア講座を4回実施し、地区部会の説明と新たな担い手にご協力いただけるよう依頼した。	A		
高洲・高浜地区部会エリア 【人口・世帯数】 39,035人 19,013世帯 【町内自治会数】 29町内自治会 【高齢化率】 30.0% 【地域の特徴】 区のほぼ中央に位置し、JR京葉線稲毛海岸駅があり、駅前には大型商業施設があるほか、行政施設としてコミュニティセンター・図書館、金融機関などの機能が集積し、その周りをUR都市機構の集合住宅団地や民間マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。北は稲毛海岸(町名)、南側は高浜に接しており、東側は黒砂水路を挟んで幸町、西側は草野水路を挟んで真砂・磯辺に接している。 高浜地区は、海岸線に接しており、海辺には日本一の長さを誇る人工海浜や稲毛海浜公園が整備されている。隣接する高洲地区と連なった集合住宅団地の地区を形成するほか、西側に隣接する磯辺地区ほどではないが5丁目・6丁目にはまとまった戸建て住宅地区も存在する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	サロン開催されていない地域でのニーズ調査をかねたボランティア講座を実施する。	高洲・高浜地区全域を対象に「防災講習会」を実施した。	B	・様々な機会を活用し、イベントへの参加者を広く募る必要がある。 ・次年度も継続して、「認知症サポーター養成講座」、「地域資源を活用した高齢者向け講座」を開催していく必要がある。 ・地域資源の活用について、引き続き各自自治会等と連携・調整する必要がある。	
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	認知症サポーター養成講座の開催 ・開催の検討・調整	社協美浜区事務所で開催した認知症サポーターフォローアップ講座に、高洲・高浜地区の住民が10人参加した。来年度、独自の実施に向けて検討した。	B		
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	孤立死ゼロに向け、関係者が集まる会議等において、働きかけを行い、取り組み内容や仕組みを確立する。	総会、サロン会議、連協会議、通常サロン内において、日頃から声かけを実施している。	B		
	②② ボランティア人材の育成	7	ボランティア講座を年3回実施する。地区部会を知ってもらい、ボランティア活動について理解と関心を深める講座を検討する。	防災講座実施時、地区部会についての説明とボランティア活動についての説明を行った。	B		

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針	
真砂地区部会エリア 【人口・世帯数】 24,683人、11,840世帯 【町内自治会数】 32町内自治会 【高齢化率】 31.4% 【地域の特徴】 北は国道14号に接し、花見川区及び稲毛区、一部は稲毛海岸に隣接し、花見川を挟んで西は若葉、草野水路を挟んで東は高洲地区に接する。南はJR京葉線の線路を挟んで磯辺に接する。 区の東西の中央に位置した拠点地区であり、JR京葉線検見川浜駅付近から北側一帯に行政機関・商業施設などが集積されている。美浜区役所のほか美浜保健福祉センター・文化ホールの複合施設、美浜消防署、真砂中央公園があるほか、千葉西警察署や西県税事務所などの県の機関も地区内に立地、駅周辺エリアには大型の商業施設や高層マンションが集まっている。	⑩ 地域での助け合い活動の推進	7,9	ささえあいまさごの利用料の見直し検討・実施 引き受ける依頼内容の検討	利用料を1時間500円から30分500円に変更したほか、旧子どもルーム跡地を拠点とすることで財政面の負担を軽減した。	A	・引きこもりがちな高齢者に対し、様々な機会や場所を活用し、情報提供しながら、いきいきサロン等への参加を促す必要がある。 ・「ささえあいまさご」の増加する依頼に対応するため、様々な方法により協力員の確保を図る必要がある。 ・「ささえあいまさご」では、対応しきれないケースも増加しているため、民間事業所等の専門機関や他の社会資源を把握、活用していく必要がある。	
	⑬ 誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信	10	ホームページの充実のため、地域運営委員会、31地区連協へホームページの充実に向けた働きかけを行っていく。	多くの関係団体の情報が掲載され、更新も頻繁に行われるようになった。	A		
	⑯ 地域と連携した支援の推進【新規】	2,9	関係機関との連携による課題解決に向けた取組みの実施及び真砂地区部会エリア全域を対象とした地域ケア会議の検討。	より多くの地域を対象に地域ケア会議が開催できるよう、現状のケア会議の進め方について検討した。	B		
磯辺地区部会エリア 【人口・世帯数】 18,085人、7,669世帯 【町内自治会数】 29町内自治会 【高齢化率】 36.7% 【地域の特徴】 JR京葉線検見川浜駅及び京葉線の線路の手前まで、西は花見川を挟んで打瀬に接し、東は草野水路を挟んで高浜に接する。 駅の南側周辺には中高層マンションや団地が建ちならび、UR都市機構の磯辺第一団地等の大規模な団地がある。その外側には、定住性の高い戸建の住宅地が海に向かって広がっており、中高層の団地・マンションなどが立ち並ぶ。海岸の手前には県立磯辺高校、県立千葉西高校があり、県救急医療センター、海浜病院などの公的機関が存在する。	⑩ 地域での助け合い活動の推進	7,9	支え合い活動の推進 27自治会中7自治会の実施	27自治会中8自治会が支え合い活動をスタートした。他の自治会についても実施に向けて説明会を実施し、今後も粘り強くPRしていく。	S	・福祉協力員ネットワークの協力員、見守り希望者について、地域のあらゆる資源や機会を活用し掘り起こす必要がある。 ・地域ルームでは様々な団体が活動していることから、未設置地区の自治会・集合住宅の集会所等でのサロン、茶話会等の設置について、担い手の確保、他団体との連携も含めて検討する必要がある。	
	⑫ 健康づくりイベント等への参加促進	5	①健康づくり教室の実施 自治会集会所 15箇所目標 ②健康づくりイベントの実施 磯辺スポーツセンターでのイベント開催に向けた検討	①健康づくり教室 自治会集会所16箇所実施 ②健康づくりイベント 磯辺スポーツセンター他でのイベント(テニス、卓球、バドミントン等)を実施した。	S		
	⑳ 支え合い意識の醸成	8	福祉施設・団体と連携したボランティア講座の開催 福祉施設・団体との情報交換の実施	「聴く・伝える・共感する技術」「災害時の地域連携」「終活講演会」等の研修会を行うとともに、地域住民に対し、地区部会の活動を紹介し理解を深めた。	A		
	㉑ 支え合い意識の醸成	8	学校と連携した福祉教育の推進 継続して実施するとともに、新たなメニューの検討	・磯辺第三小学校児童と地域の高齢者との交流会を実施した。 ・磯辺小学校児童と障害者との交流会を実施した。	A		

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	30年度の目標	30年度の実績	達成状況	今後の課題と方針
幕張西地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,133人、4,837世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 19.8% 【地域の特徴】 区の北西端に位置した国道14号と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。浜田川を挟んで東側は花見川区幕張町、国道14号を挟んで北側は花見川区幕張本郷、西側は習志野市、南側は浜田に接している。国道沿いにはゴルフ練習施設のほか、商業店舗が立ち並んでいるほかは、戸建て住宅地域が広がっている。国道14号より海側はかつての海岸線であるが、幕張西地区よりも埋め立ての時期が早かった地域については花見川区幕張町に編入されている。	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	見守り活動の推進 新たに1自治会の見守り活動開始(11/15自治会)	新たに、一か所の自治会で見守り活動開始した。(12/15自治会) さらに、自治会で平成31年度の実施に向け準備中。	S	・見守りの未実施自治会への働きかけを行っていく必要がある。 ・見守り活動がスタートした自治会やコーディネーター、協力員等の情報交換の機会を設ける必要がある。
	⑦ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	2,3,4,9	集会所を活用したサロン開設に向けた働きかけ	幕張西町内会館を会場にサロンを実施した。参加者も定着しており、分散化を避けるため、当面現状のまま実施することとした。	B	
	⑫ ボランティア人材の育成	7	・ボランティア講座の開催(年3回目標) ・ボランティア活動について理解と関心を深める講座の検討	8月、12月、2月にボランティア講座を行い、地区部会の活動を紹介することにより、地域のボランティア活動についての理解を深めた。	A	
打瀬地区部会エリア 【人口・世帯数】 25,643人、9,073世帯 【町内自治会数】 24町内自治会 【高齢化率】 8.6% 【地域の特徴】 東側は花見川、西側・南側は幕張海浜公園、北側はJR京葉線の線路に囲まれた幕張新都心地区の高層マンション地区。他の幕張新都心地区と同様に県企業庁により計画的に整備され、沿道中庭式の中層住宅を中心に、石畳風の道路舗装やデザインされた信号機などヨーロッパ風の街並み景観で統一されている。中心部には図書館と公民館の複合施設である「ベイタウンコア」があり、各種活動の中心となっているほか、プロムナードやバレンタイン通り沿いの住戸を中心に1階には幕張ベイタウン商店街振興組合の店舗が軒を連ねている。平成24年にはシーサイドデッキが完成し、海沿いの幕張海浜公園・幕張の浜エリアへの動線が確保され、海がより近い存在となった。	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	継続して安心カードの普及に努める。	新たに21人の方が安心カードの登録を行った(前年度は57人)。総数414人。(H31.1.25現在)	A	・自治会によって地域活動への参画について、大きな温度差があるため、地域活動の連携・広がりが難しい状況にある。引き続き、地域活動の必要性、参画について理解促進を図る必要がある。 ・児童・生徒期から福祉やボランティア活動に関する意識を高めるため、地域が協力した福祉教育をさらに推進する必要がある。 ・地域活動を継続するためには、担い手の確保が重要。現在のボランティアの次の世代である団塊の世代や、女性のボランティアの確保に向けた具体的な方法を検討する必要がある。 ・本計画の重点取組項目について、地区部会が主体となる項目と、地域運営委員会が主体となる項目をすみ分ける必要がある。
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	・災害時の見守り体制構築及び在宅支援策の理解を図る。 ・継続して啓発活動を行う。	地区部会長と民児協会長が見守り活動の推進や避難行動要援護者名簿の利用促進のため、街区代表者へ訪問し啓発活動を行った。	A	
	⑦ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	2,3,4,9	街区の集会所を拠点としたサロン実施に向けた働きかけを行う。	街区の集会所を拠点にミニサロンを実施した。	B	
	⑮ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	地域運営委員会において、地域課題を認識する。	地域運営委員会定例会において、本計画について確認するとともに、関係団体で地域課題の共有を図った。	A	
	⑮ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	ベイタウンかふえの内容について協議する。	ベイタウンかふえの運営が「うたせ認知症を考える会」に変わったため、今後、地区部会認知症委員会として取り組む内容について改めて協議した。	B	